2 ハードウェア編

本装置のハードウェアについて説明します。

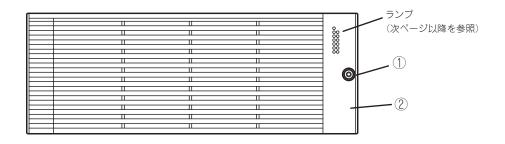
各部の名称と機能

本装置の各部の名称を次に示します。

装置外観

① **リアアクセスカバー**

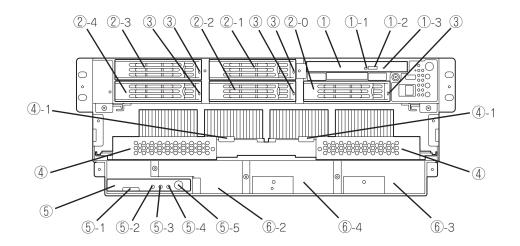
PCIボードやファンの取り付け/取り外しの際に開ける。

装置前面

① **キースロット**

フロントベゼルをロック/解除するセキュリティキーの差し口（→122ページ）。

② **フロントベゼル**

POWERスイッチ、3.5インチデバイス（オプション）、CD-ROMドライブを取り扱うときやオプションのUSBフロッピーディスク、ハードディスクドライブ、プロセッサ、メモリボード、DIMMを取り付ける（または取り外す）ときに開ける。添付のセキュリティキーでロックすることができる（→122ページ）。

装置前面(フロントベゼルを取り外した状態)

① **CD-ROMドライブ**

CD-ROMのデータの読み出しを行う(→142ページ)。

①-1　アクセスランプ(アクセス中はオレンジ色に点灯)
①-2　CDトレーイジェクトボタン
①-3　強制イジェクトホール

② **3.5インチディスクベイ/3.5インチデバイスベイ**

ハードディスクドライブ増設用スロット。約25.4mm(1インチ)厚のハードディスクドライブが取り付けられる(→147ページ)。丸数字の後の数字はSCSI IDを示す。N8154-07増設用HDDケージ(3.5ベイ付き)(BTO(工場組み込み出荷)専用オプション)を搭載している場合は、②-3、②-4は3.5インチデバイスベイとなる。

③ **DISKランプ(→100ページ)**

④ **プロセッサボード(→168ページ)**

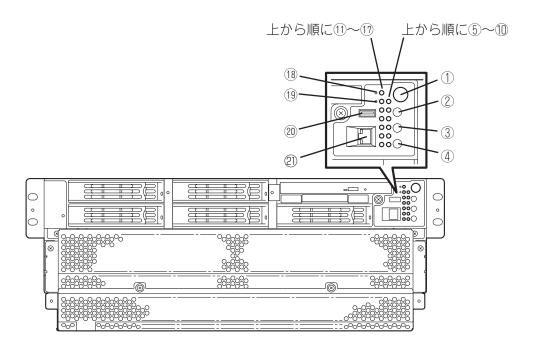
④-1　プロセッサボードイジェクタ

⑤ **メモリボード(スロット#1)(→155ページ)**

⑤-1　メモリボードイジェクタ
⑤-2　メモリボードPOWERランプ
⑤-3　メモリボードAttentionランプ
⑤-4　メモリボードRedundancyランプ
⑤-5　メモリボードAttentionスイッチ

⑥ **増設メモリボードスロット**

丸数字の後の数字はスロット番号を示す。
メモリボードはスロット#2→#3→#4の順序で増設します。

装置前面(スイッチ・LED)

① POWERスイッチ

電源をON/OFFするスイッチ。一度押すとPOWERランプが点灯し、ONの状態になる(→123ページ)。もう一度押すと電源をOFFにする(→139ページ)。4秒以上押し続けると強制的にシャットダウンする(→305ページ)。

② RESETスイッチ

本装置をリセットするスイッチ(→305ページ)。

③ SLEEPスイッチ

一度押すと、本装置がスリープ状態(省電力モード)となり、もう一度、押すと復帰する(Windows Server 2003/Windows 2000でサポート→139ページ)。

④ UID(Unit ID)スイッチ

本装置前面/背面にあるIDランプをON/OFFするスイッチ。スイッチを一度押すと、IDランプが点灯し、もう一度押すと消灯する(→91ページ)。

⑤ POWER/SLEEPランプ(→90ページ)

⑥ STATUSランプ(→91ページ)

⑦ DISKアクセスランプ(→90ページ)

⑧ LAN1アクセスランプ(→91ページ)

⑨ LAN2アクセスランプ(→91ページ)

⑩ UID(Unit ID)ランプ(→91ページ)

⑪ Attentionランプ(→93ページ)

⑫ プロセッサボードエラーランプ(→93ページ)

⑬ メモリボードエラーランプ(→94ページ)

⑭ I/Oボードエラーランプ(→95ページ)

⑮ 電源ユニットエラーランプ(→96ページ)

⑯ ファンエラーランプ(→97ページ)

⑰ 温度異常ランプ(→98ページ)

⑱ DUMPスイッチ

本装置に起きたイベントログを採取する(→398ページ)。

⑲ CLEARスイッチ

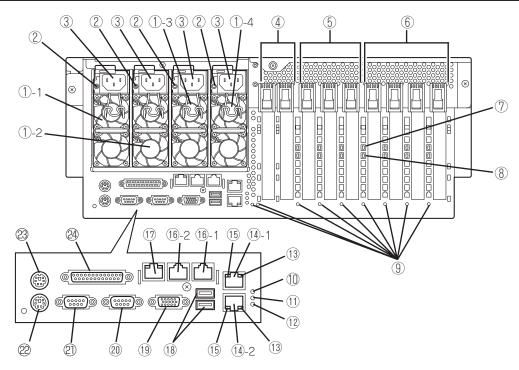
⑳ USB3コネクタ

USB 1.1インタフェースに対応している機器と接続する。USB 2.0(Hi-speed)インタフェースに対応している機器は本装置背面のUSB1またはUSB2コネクタに接続してください。

㉑ シリアルポートBコネクタ

シリアルインタフェースを持つ本装置と接続する。UPSの接続はシリアルポートAコネクタ(本装置背面)のみ。本装置前面のシリアルポートBと本装置背面のシリアルポートBは排他使用。

「シリアルポートBコネクタ(本装置前面)」は本装置背面のLANコネクタおよびICMBコネクタと同じ形状(RJ-45)をしています。ケーブルを差し間違えないよう注意してください。

装置背面

① **電源ユニット**

本装置にDC電源を供給する装置(→152ページ)。丸数字の後の数字はスロット番号を示す。①-3、①-4はオプションスロット。

② **電源ユニットランプ**

③ **ACインレット**

電源コードを接続するソケット(→153ページ)。電源ユニットに各1ソケット装備。本装置に標準添付されている電源コードを接続する。

④ **PCIスロット(左からスロット#1、#2)**

32-bit 33MHz 5V PCI ホットプラグ未対応。

⑤ **PCI Expressスロット(左からスロット#3～#5)**

スロット3： PCI Express x4 ホットプラグ未対応(x8ボードも搭載可能)(→184ページ)。
スロット4,5： PCI Express x8 ホットプラグ対応(→184ページ)。

⑥ **PCI-Xスロット(左からスロット#6～#9)**

64-bit 100MHz 3.3V PCI-X ホットプラグ対応(→184ページ)。

⑦ **PCIスロットPOWERランプ(→102ページ)**

⑧ **PCIスロットFaultランプ(→102ページ)**

⑨ **PCIスロットエラーランプ(→95ページ)**

⑩ **I/Oボードエラーランプ(→95ページ)**

⑪ **プロセッサボードエラーランプ(→93ページ)**

⑫ **BMCエラーランプ**

⑬ **1000/100/10ランプ(→101ページ)**

⑭ **LANコネクタ**

ネットワークに接続する。丸数字の後の番号はポート番号を示す。

⑮ **LINK/ACTランプ(→101ページ)**

⑯ **ICMBコネクタ**

ICMBインタフェースを持つ機器と接続する(→119ページ)。丸数字の後の数字はポート番号を示す。

⑰ **管理用LANポート**

コネクタの右上のLED：LINK/ACTランプ(→101ページ)。
コネクタの左上のLED：100/10ランプ(→101ページ)。

⑱ **USB1(上) USB2(下)コネクタ**

USB 2.0(Hi-speed)インタフェースに対応している機器と接続する。

⑲ **モニタコネクタ**

ディスプレイ装置を接続する(→119ページ)。

⑳ **シリアルポートBコネクタ**

本装置前面のシリアルポートBと排他的に使用可能(→119ページ)。

㉑ **シリアルポートAコネクタ**

シリアルインタフェースを持つ装置と接続する(→119ページ)。なお、専用回線に直接接続することはできません。

㉒ **キーボードコネクタ**

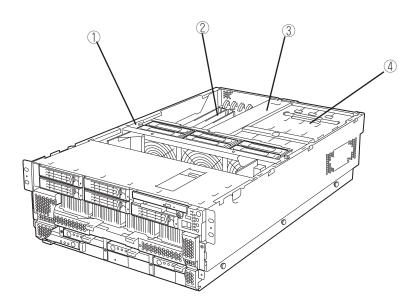
オプションのキーボードを接続する(→119ページ)。

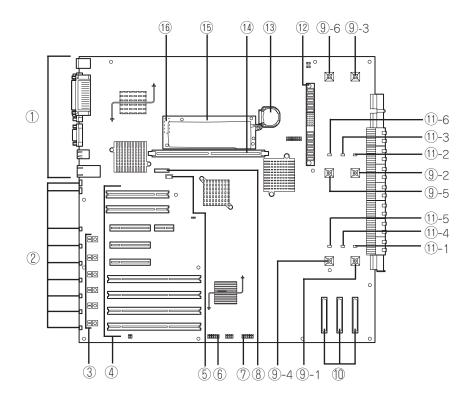
㉓ **マウスコネクタ**

オプションのマウスを接続する(→119ページ)。

㉔ **プリンタポートコネクタ**

セントロニクスインタフェースを持つプリンタと接続する。(→119ページ)。

装置内部

① ファンベイ
② PCIスロット(ホットプラグ対応)
③ PCIスロット(ホットプラグ未対応)
④ 電源ケージ

I/Oボード

① 外部接続コネクタ(→85ページ)

② PCIスロットエラーランプ(上からPCIスロット1〜9)

③ PCIスロットPOWERランプ(上)/PCIスロットFaultランプ(下)/PCIホットプラグスイッチ(上からPCIスロット#4〜#9)

④ PCIボードスロット(上からPCI#1〜#9)

④-1: PCI#1、#2(33MHz、5V PCI)ホットプラグ未対応

④-2: PCI#3(PCI Express×4)x8のボードも実装可能。ホットプラグ未対応

④-3: PCI#4、#5(PCI Express×8)ホットプラグ対応

④-4: PCI#6、#7、#8、#9(100MHz、3.3V PCI-X)ホットプラグ対応

⑤ IPMBコネクタ

⑥ BMCコンフィグレーションジャンパ(→382ページ)

⑦ CMOS/パスワードクリア用ジャンパスイッチ(→306ページ)

⑧ 管理用LANカード接続コネクタ

⑨ ファンコネクタ

丸数字の後の数字はポート番号を示す。

⑩ SCSIコネクタ

左から(SCSI-2)、(SCSI-1)、(SCSI-HDD)。

⑪ ファンエラーランプ

丸数字の後の数字はファン番号を示す。

⑫ PowerBPコネクタ

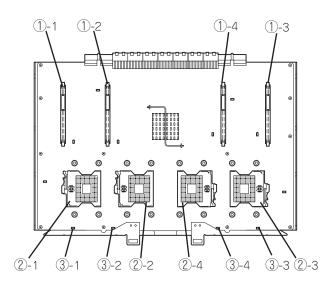
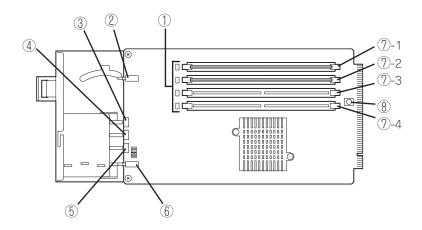
⑬ リチウムバッテリ

⑭ オンボードRAID用DIMMコネクタ

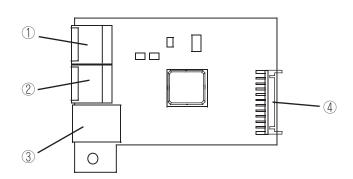
⑮ NiMHバッテリモジュール

⑯ バッテリモジュールコネクタ

* ここでは本装置のアップグレードや保守(部品交換など)の際に使用するコネクタのみあげています。その他のコネクタや部品については出荷時のままお使いください。

プロセッサボード

① VRMソケット（丸数字の後の数字はソケット番号を示す）
② プロセッサソケット（丸数字の後の数字はソケット番号を示す）
③ プロセッサ/VRMエラーランプ（丸数字の後の数字はスロット番号を示す）

メモリボード

① DIMMスロットエラーランプ(上からDIMMスロット1～4)
② メモリボード挿抜スイッチ
③ メモリボードPowerランプ
④ メモリボードAttentionランプ
⑤ メモリボードRedundancyランプ
⑥ メモリボードAttentionスイッチ
⑦ DIMMスロット(丸数字の後の数字はスロット番号を示す)
標準搭載されているメモリボードにはスロット#1、#2に1GB DIMMを標準装備。
⑧ DIMMスロットエラーランプ点灯スイッチ

管理用LANカード

① ICMB#1コネクタ
② ICMB#2コネクタ
③ 管理用LANコネクタ
④ I/Oボード接続コネクタ

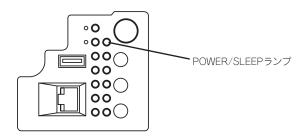
ランプ表示

本装置のランプの表示とその意味は次の通りです。

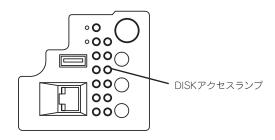
POWER/SLEEPランプ

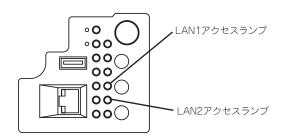
本装置の電源がONの間、ランプが緑色に点灯しています。電源が本装置に供給されていないとPOWER/SLEEPランプが消灯します。

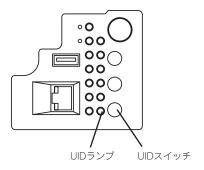
省電力モードをサポートしているOSで、SLEEPスイッチを押すか、OS上のコマンドから省電力モードに切り替えるとランプが緑色に点滅します。SLEEPスイッチをもう一度押すと、通常の状態に戻ります。

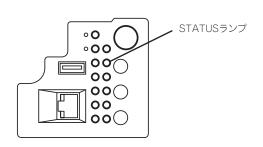
省電力モードはWindows Server 2003/Windows 2000の場合に機能します。また、OSによっては一定時間以上、本装置を操作しないと自動的に省電力モードに切り替わるよう設定したり、OSのコマンドによって省電力モードに切り替えたりすることもできます。

DISKアクセスランプ

DISKアクセスランプは3.5インチディスクベイに取り付けられているハードディスクドライブの状態を示します。

ハードディスクドライブにアクセスするたびにランプは緑色に点灯します。
DISKアクセスランプがアンバー色に点灯している場合は、ハードディスクドライブに障害が起きたことを示します。故障したハードディスクドライブの状態はそれぞれのハードディスクドライブにあるランプで確認できます。

LANアクセスランプ

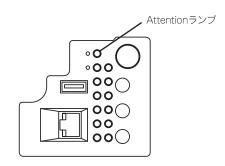
本装置がLANに接続されているときに緑色に点灯し、LANを介してアクセスされているとき(パケットの送受信を行っているとき)に点滅します。アイコンの隣にある数字は背面のネットワークポートの番号を示します。

UIDランプ

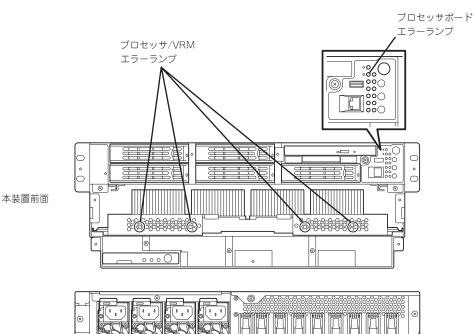
このランプは本装置前面にあるUIDスイッチを押すと、青色に点灯し、保守をしようとしている本装置を特定することができます。1台のラックに複数台の本装置を設置しているときに利用してください。
UIDランプを消灯させるには再度、UIDスイッチを押してください。
また、ESMPRO/ServerManager、DianaScopeやWEBサーバ機能のリモートマネージメントにより、UIDランプを点滅させることもできます。
作業が終わりましたら、UIDランプを消灯させてください。

STATUSランプ

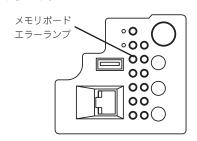
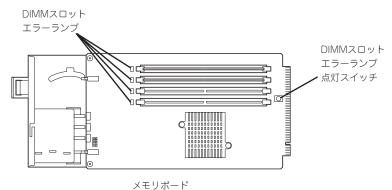
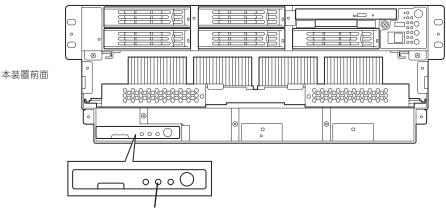
本装置が正常に動作している間はSTATUSランプは緑色に点灯します。STATUSランプが消灯しているときや、緑色に点滅しているとき、あるいはアンバー色に点灯/点滅しているときは本装置になんらかの異常が起きたことを示します。
次ページにSTATUSランプの表示の状態とその意味、対処方法を示します。

- ESMPROまたはオフライン保守ユーティリティをインストールしておくとシステムイベントログ(SEL)を参照することで故障の原因を確認することができます。
- いったん電源をOFFにして再起動するときに、OSからシャットダウン処理ができる場合はシャットダウン処理をして再起動してください。シャットダウン処理ができない場合はリセット、強制シャットダウンをするか(305ページ参照)、一度電源コードを抜き差しして再起動させてください。

STATUSランプの状態	意　味	対処方法
緑色に点灯	正常に動作しています。	ー
緑色に点滅	プロセッサが縮退した状態で動作している。	保守サービス会社に連絡してください。 BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Setting」にて縮退しているプロセッサを確認後、早急に交換することをお勧めします。BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Setting」-「Processor Retest」をYesに選択し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行することにより、解決することもできます。
	メモリが縮退している状態で動作している。	保守サービス会社に連絡してください。 BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」にて縮退しているメモリ(DIMM)を確認後、早急に交換することをお勧めします。BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに選択し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行することにより、解決することもできます。
	メモリあるいはバスなどの訂正可能なエラーが多発している。	連続運用が可能ですが、保守サービス会社に連絡してください。
消灯	電源がOFFになっている。	ー
	POSTが動作中である。	しばらくお待ちください。POSTを完了後、しばらくすると緑色に点灯します。
	プロセッサでエラーが発生した。（IERR）	いったん電源をOFFにして、電源をONにし直してください。POSTの画面で何らかのエラーメッセージが表示された場合は、メッセージを記録し、保守サービス会社に連絡してください。
	プロセッサ温度の異常を検出した。（Thermal-Trip）	
	ウォッチドッグタイマタイムアウトが発生した。	
	PCIシステムエラーが発生した。	
	PCIパリティエラーが発生した。	
	メモリで訂正不可能なエラーが発生した。	
	バスで訂正不可能なエラーが発生した。	
	POSTのエラーが発生した状態でPOSTが終了した。	
	メモリダンプリクエスト中である。	ダンプを採取し終わるまでお待ちください。
アンバー色に点灯	温度異常を検出した。	内部のファンにホコリやチリが付着していないかどうか確認してください。また、ファンユニットが確実に接続されていることを確認してください。問題が解決されない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
	電圧異常を検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
	すべての電源ユニットが故障した。	
アンバー色に点滅	電源ユニットの個別故障を検出した。	故障した電源ユニットのスロットを確認し、保守サービス会社に連絡してください。
	ファンアラームを検出した。	ファンユニットが確実に接続されていることを確認してください。問題が解決されない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
	温度警告を検出した。	内部のファンにホコリやチリが付着していないかどうか確認してください。また、ファンユニットが確実に接続されていることを確認してください。問題が解決されない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
	電圧警告を検出した。	保守サービス会社に連絡してください。

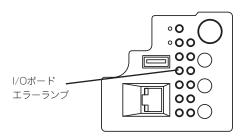
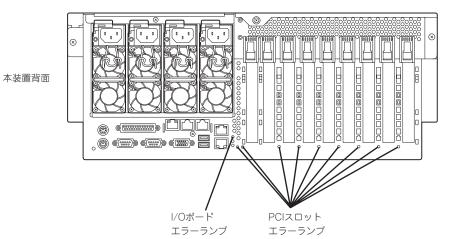
Attentionランプ

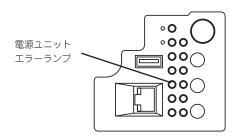
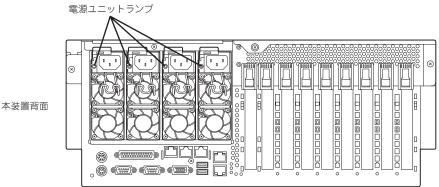
エラー発生場所を自動で特定できない場合または、複数の場所でエラーが発生した場合にアンバー色に点灯します。
このランプが点灯した場合は、ログを確認して異常発生箇所を特定してください。

プロセッサボードエラーランプ

本装置の前後に各1つずつあるこのランプはプロセッサボードに異常が発生した場合にアンバー色に点灯します。
このランプが点灯した時には、プロセッサボードの手前にあるプロセッサ/VRMエラーランプの点灯状態を確認してください。4つのランプのいずれかがアンバー色に点灯している場合は、そのスロットのプロセッサまたはVRMに異常が発生したことを示します。

メモリボードエラーランプ

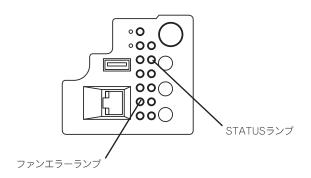
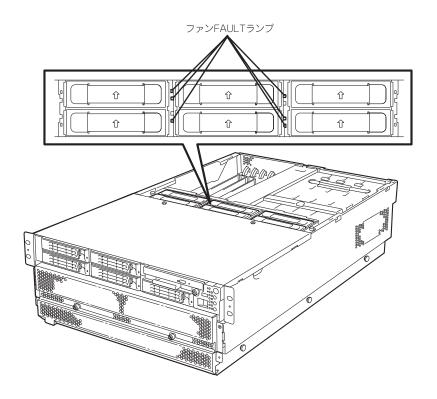
メモリボードやメモリボードに実装されているDIMMに異常が発生した場合にアンバー色に点灯します。
メモリボードのAttentionランプがアンバー色に点灯しているかを確認し、異常なメモリボードを特定してください。
さらに、異常が検出されたメモリボード上のDIMMスロットエラーランプ点灯スイッチを押すことにより、DIMMスロットエラーランプがアンバー色に点灯し、故障したDIMMのスロットを特定することができます。

メモリボード

I/Oボードエラーランプ

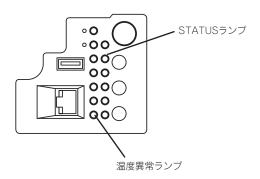
I/Oボードや取り付けているPCIボードに異常が発生した場合にアンバー色に点灯します。
本装置背面のランプの点灯状態を確認してください。
背面のI/Oボードエラーランプがアンバー色に点灯している場合はI/Oボードの故障、各PCIスロットの下にあるPCIスロットエラーランプがアンバー色に点灯している場合は取り付けているPCIボードかI/Oボードのスロット自身の故障が考えられます。

電源ユニットエラーランプ

電源ユニットに異常が発生した場合にアンバー色に点灯します。
電源ユニットランプの状態を確認してください。ランプがアンバー色に点灯している場合は、その電源ユニットの故障を示します。

ファンエラーランプ

ファンに異常が発生した場合にアンバー色に点灯します。
本装置内部のファンFAULTランプが赤色に点灯しているかを確認し、異常なファンを特定してください(103ページ参照)。

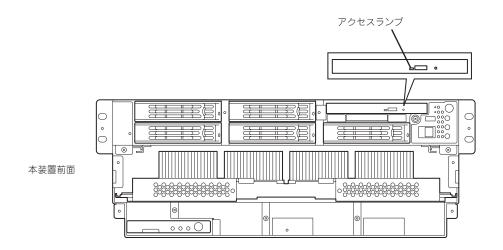
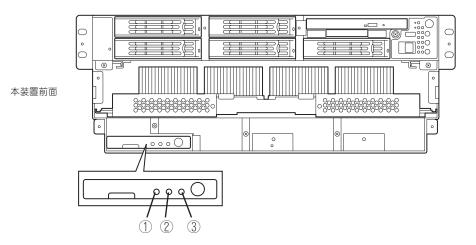
ファンの異常や、本装置内の温度異常を検出した場合は、STATUSランプもアンバー色に点灯/点滅します。

温度異常ランプ

本装置の温度に異常が発生した場合にアンバー色に点灯します。
本装置設置場所の室温を確認してください。

ファンの異常や、本装置内の温度異常を検出した場合は、STATUSランプもアンバー色に点灯/点滅します。

アクセスランプ

CD-ROMドライブのアクセスランプは、セットされているCD-ROMにアクセスしているときに点灯します。

メモリボードのランプ

本装置前面

① **メモリボードPOWERランプ**

メモリボードの電源ランプ。電源が入っているときに緑色に点灯。

メモリボードをHot　Addした時などRebuild中は点滅(緑色)します。

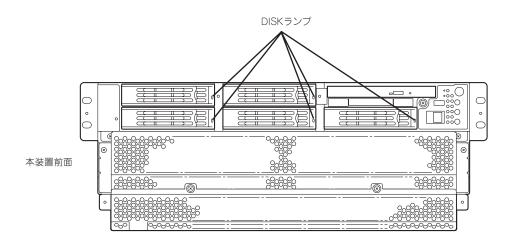
② **メモリボードAttentionランプ**

メモリボードやメモリボードに実装されているDIMMに異常があった場合に、アンバーに点灯します。

③ **メモリボードRedundancyランプ**

メモリミラーリング機能、メモリRAID機能の構成をした場合、緑色に点灯します。

ハードディスクドライブのランプ(DISKランプ)

3.5インチディスクベイに搭載しているDISKランプは表示状態によって意味が異なります。

● **緑色に点滅**

ハードディスクドライブにアクセスしていることを示します。

● **アンバー色に点灯**

ディスクアレイを構成しているときに取り付けているハードディスクドライブが故障していることを示します。

ディスクアレイを構成している場合、RAIDレベルによっては1台のハードディスクドライブが故障しても運用を続けることができますが早急にディスクを交換して、再構築(リビルド)を行うことをお勧めします(ディスクの交換はホットスワップで行えます)。

● **緑色とアンバー色に交互に点滅**

ハードディスクドライブの再構築(リビルド)中であることを示します(故障ではありません)。ディスクアレイ構成で、故障したハードディスクドライブを交換すると自動的にデータのリビルドを行います(オートリビルド機能)。リビルド中はランプが緑色とアンバー色に交互に点灯します。

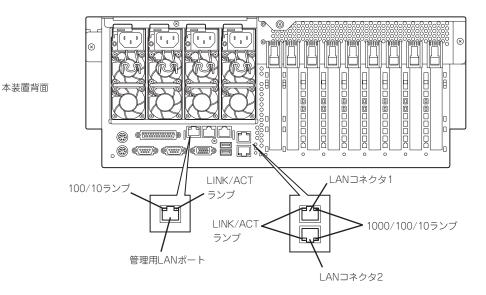
リビルドを終了するとランプは消灯します。リビルドに失敗するとランプがアンバー色に点灯します。

リビルド中に本装置の電源をOFFにすると、リビルドは中断されます。再起動してからハードディスクドライブをホットスワップで取り付け直してリビルドをやり直してください。ただし、オートリビルド機能を使用するときは次の注意事項を守ってください。

- **電源をOFFにしないでください(いったん電源をOFFにするとオートリビルドは起動しません)。**
- **ハードディスクドライブの取り外し/取り付けの間隔は90秒以上あけてください。**
- **他にリビルド中のハードディスクドライブが存在する場合は、ハードディスクドライブの交換は行わないでください。**

LANコネクタのランプ

背面にある3つLANポート(コネクタ)にはそれぞれ以下のランプがあります。

本装置背面

LINK/ACTランプ

それぞれのネットワークポートの状態を表示します。本製品とHUBに電力が供給されていて、かつ正常に接続されている間、緑色に点灯します(LINK)。ネットワークポートが送受信を行っているときに緑色に点滅します(ACT)。
LINK状態なのにランプが点灯しない場合は、ネットワークケーブルの状態やケーブルの接続状態を確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、ネットワーク(LAN)コントローラが故障している場合があります。お買い求めの販売店、または保守サポートまで連絡してください。

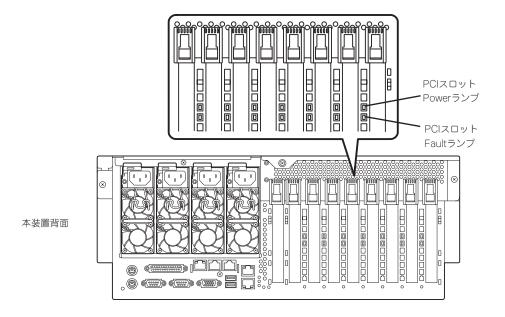
1000/100/10ランプ

このランプは、ネットワークポートの通信モードがどのネットワークインタフェースで動作されているかを示します。アンバー色に点灯しているときは、1Gbpsで動作されていることを示します。緑色に点灯しているときは、100Mbpsで動作されていることを示します。消灯しているときは、10Mbpsで動作されていることを示します。

100/10ランプ

このランプは、ネットワークポートの通信モードがどのネットワークインタフェースで動作されているかを示します。アンバー色に点灯しているときは、100Mbpsで動作されていることを示します。消灯しているときは、10Mbpsで動作されていることを示します。

PCIスロットのランプ

背面のPCIスロット#4～#9には、PCIホットプラグのためのランプが2個ずつあります。

PCIスロットPowerランプ

PCIボードが取り付けられているスロットは、本装置の電源をONするとスロットへ電源が供給され、緑色に点灯します。

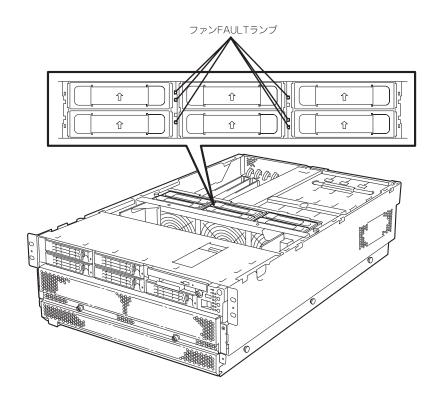
PCIスロットFaultランプ

OSがWindows Server 2003/Windows 2000の場合のみに使用するランプです。OS上でPCIスロットに接続されているPCIホットプラグ対応のPCIボードのドライバを停止し、PCIボードがシステムから論理的に切り離されるとアンバー色に点滅します。
PCIボードやPCIボードを取り付けたスロットに異常が起きるとアンバー色に点灯します。

ファンFAULTランプ

本装置の冷却ファンが故障すると、故障したファンのとなりにあるランプが赤色に点灯します。故障したファンはホットスワップで交換することができます。

重要

- **故障していないファンは取り外さないでください。ファンが故障した場合は、そのまま運用を続けず、すみやかに保守サービス会社に連絡して交換を依頼してください。**
- **ファンの交換は自分で行わないでください。**

設置と接続

本装置の設置と接続について説明します。

設　置

本装置はEIA規格に適合したラックに取り付けて使用します。

ラックの設置

ラックの設置については、ラックに添付の説明書(添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの中にもオンラインドキュメントが格納されています)を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。
ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡するまたは重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外の場所で使用しない

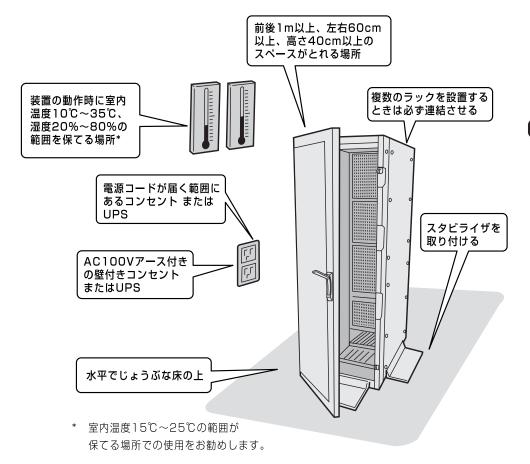
注意

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 一人で搬送・設置をしない
- 荷重が集中してしまうような設置はしない
- 一人で部品の取り付けをしない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台の本装置をラックから引き出した状態にしない
- 定格電源を超える配線をしない

本装置の設置にふさわしい場所は次の通りです。

* 室内温度15℃～25℃の範囲が保てる場所での使用をお勧めします。

重要

ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の本装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、本装置の動作保証温度(10℃～35℃)を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックに本装置を搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 本装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する本装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうとつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所(大気中に硫黄の蒸気が発生する環境下など)、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。
- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近く(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください)。

ラックへの取り付け/ラックからの取り外し

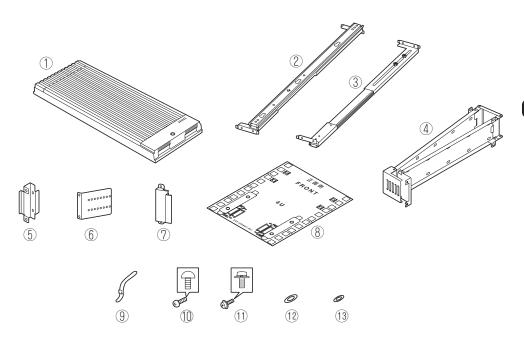
本装置をラックに取り付けます(取り外し手順についても説明しています)。
別売の内蔵型オプションを購入している場合は、ラックに取り付ける前に取り付けてください。

⚠注意

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **二人以下で持ち上げない**
- **指定以外の場所に設置しない**
- **カバーを外したまま取り付けない**
- **指を挟まない**

取り付け部品の確認

ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。

項番	名　称	数量	備　考
①	フロントベゼル	1	
②	スライドレールアセンブリ(L)	1	部品に「L」の刻印あり。
③	スライドレールアセンブリ(R)	1	部品に「R」の刻印あり。
④	ケーブルアーム	1	
⑤	アダプタブラケット	1	
⑥	アームブラケット	1	
⑦	アームストッパ	1	
⑧	テンプレート	1	
⑨	ケーブルタイ	6	長さ　25cm
⑩	ネジB	14	CBIMSx5x10x3GF
⑪	ネジC	8	PL-CPIMSx4x8x3GF
⑫	ワッシャA	12	M5-14(ネジB用のワッシャ)
⑬	ワッシャB	4	PIWAx5x3GF

必要な工具

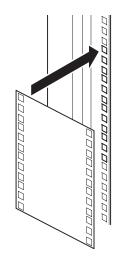
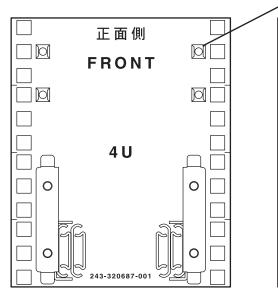
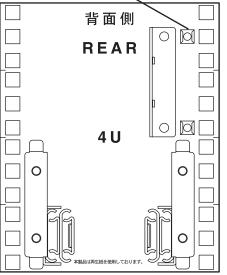
ラックへ取り付けるために必要な工具はプラスドライバとマイナスドライバです。

取り付け手順

次の手順で本装置をラックへ取り付けます。

重要 **NECのオプションラック(N8540-28/29/38)へ取り付けることはできません。**

1. テンプレートを使って本装置を取り付ける位置(高さ)を決める。

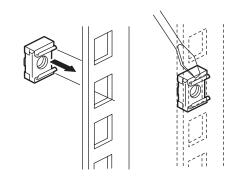
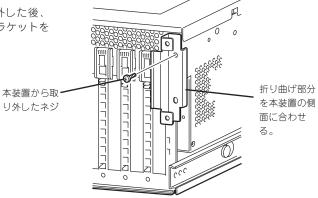
   テンプレートの高さは本装置と同じです。テンプレートをラックの前後にあてて取り付ける位置決めてください。また、テンプレートには、コアナットやスライドレールアセンブリの取り付け位置が書かれています。

コアナットを取り付ける
位置を示すアイコン

テンプレート(前面)

テンプレート(背面)

2. テンプレートで確認した位置にラックに添付のコアナットを取り付ける。

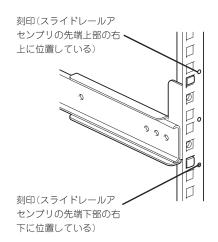
ラックの前面内側から4個(左右に各2個)取り付けます。このコアナットとネジB(4本)、ワッシャA(4個)でラックに固定されます。

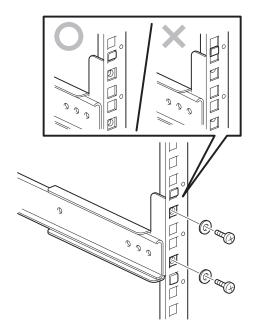
ラックの背面内側からは、2個(ラック背面に向かって右側に2個)取り付けます。

コアナットは一方のクリップをラックの四角穴に引っかけてからマイナスドライバなどでもう一方のクリップを穴に差し込みます。

3. 本装置背面右側のネジ1本を外した後、取り外したネジでアダプタブラケットを取り付ける。

4. ラック正面から見て右側のフレームのテンプレートで確認した位置にスライドレールアセンブリを位置決めする。

チェック

- スライドレールアセンブリの取り付け方向を確認してください。
  - ブラケット面をラック外側へ
  - スライドブラケットのある方をラック背面へ
- ラック前後の支柱にはネジ止め用の角穴があります。NEC製のラックでは、1U単位に丸い刻印があります。図のように刻印がスライドレールアセンブリの先端(上側)の右上に位置するように位置決めしてください。

5. スライドレールアセンブリをネジB(2本、前後で4本)とワッシャA(2個、前後で4個)で固定する。

- スライドレールアセンブリにあるフレーム先端がラックの角穴のフレームに突き当たっている状態で、レールのネジ穴(4個)が角穴から確実に見えていることを確認してください。
- スライドレールアセンブリが水平に位置決めされていることを確認してください。

6. ラックの正面から見て左側に、スライドレールアセンブリを手順7〜9と同様の手順で取り付ける。

すでに取り付けているスライドレールアセンブリと同じ高さに取り付けていることを確認してください。

7. 3人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

⚠注意

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

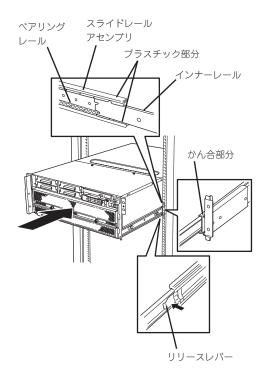
- **二人以下で持ち上げない**
- **指を挟まない**
- **リリースレバーは指で押さない**

本装置側面のレールをラックに取り付けたスライドレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。途中で本装置がロックされたら、側面にあるリリースレバー(左右にあります)を押しながらゆっくりと押し込みます。

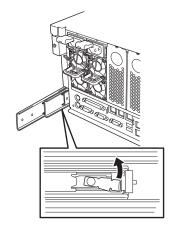
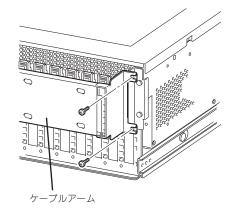
重要

リリースレバーはドライバなどを使って押してください。指で押すと指を挟んでけがをするおそれがあります。

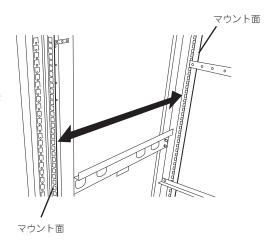
ヒント

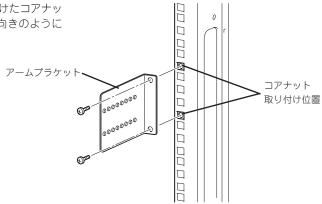
ラックに取り付けたレール内には「ベアリングレール」と呼ばれるスライドレールがあります。ベアリングレールはレール内を自由にスライドできるレールですが、本装置を取り付けるときは、ベアリングレールをラック前方にスライドさせてレール先端のプラスチック部分と同時にインナーレールを差し込んでおくと確実に取り付けることができます。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがあります。強めにゆっくりと押し込んでください。

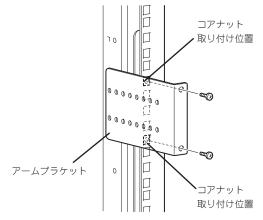
チェック

本装置をラックへ押し込んでいるときにロックされて押し込めなくなることがあります。これは、レールにあるロックレバーによってこれ以上押し込めなくなっている状態になっているためです。ロックレバーを水平にしてロックを解除しながらゆっくりとラック内部へ押し込んでください。

8. 本装置背面にケーブルアームをネジC(2本)を使って取り付ける。

9. アームブラケットをラック背面のマウント面に取り付ける。

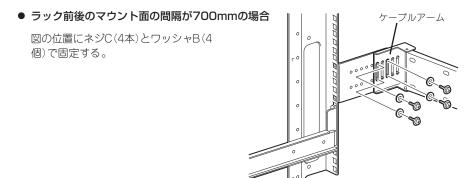
ヒント

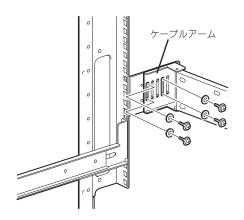
アームブラケットはラックの前後マウント面の間隔によって取り付ける方法が異なります。

● **ラック前後のマウント面の間隔が700mm〜760mmの場合**

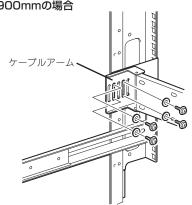
アームブラケットを手順2でラック背面のマウント面へ取り付けたコアナットにネジB（2本）で図の向きのように固定する。

● **ラック前後のマウント面の間隔が900mmの場合**

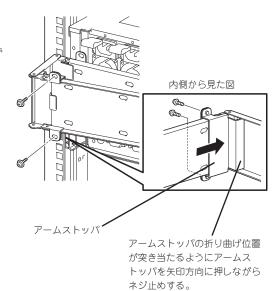
アームブラケットを手順2でラック背面のマウント面へ取り付けたコアナットにネジB（2本）で図の向きのように固定する。

10. ケーブルアームのもう一方の端を手順12で取り付けたアームブラケットに取り付ける。

● **ラック前後のマウント面の間隔が700mmの場合**

図の位置にネジC（4本）とワッシャB（4個）で固定する。

● ラック前後のマウント面の間隔が743〜760mmの場合

図の位置にネジC(4本)とワッシャB(4個)で固定する。

● ラック前後のマウント面の間隔が760mmまたは900mmの場合

図の位置にネジC(4本)とワッシャB(4個)で固定する(図はラックの前後マウント面が900mmの場合の例)。

チェック

NEC社製のラックへ搭載する場合は、スライドレールアセンブリにネジCでアームストッパを取り付けます。

11. 本装置をいったんラックへ押し込んで取り付け位置を確認する。

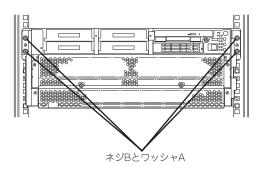
本装置前面の左右上部の4カ所のネジ穴の位置が、手順2で取り付けたコアナットの位置と一致することを確認してください。4カ所の位置がすべて一致しない場合は、スライドレールアセンブリ、またはコアナットの取り付け位置が間違っていることが考えられます。取り付け位置を間違えると他の装置を隙間なく取り付けることができません。取り付け位置を確認してはじめからやり直してください。

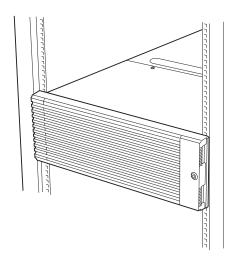
12. 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

13. 電源コードやすべてのインタフェースケーブルを取り付ける。

ヒント

ケーブルを取り付ける際は、この後の「接続」で説明している注意事項を必ずお読みになってから取り付けてください。

14. ネジB（4本）とワッシャA（4個）で本装置をラックに固定する。

15. フロントベゼルを取り付ける（122ページ参照）。

以上で完了です。

取り外し手順

ラックからの取り出し作業は必ず複数名で行ってください。

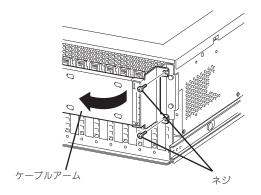
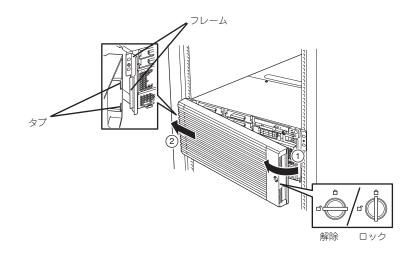
⚠ 注意

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **二人以下で持ち上げない**
- **指を挟まない**
- **高温注意**
- **ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない**
- **複数台の本装置をラックから引き出した状態にしない**

1. 本装置の電源がOFFになっていることを確認してから、本装置に接続している電源コードやインタフェースケーブルをすべて取り外す。

2. 本装置背面にケーブルアームを固定しているネジ2本を取り外し、ケーブルアームを本装置から取り外す。

アームストッパを取り付けている場合は、ネジをゆるめてロックを解除します。

3. セキュリティロックを解除してフロントベゼルを取り外す。

4. 本装置を固定している前面両側のネジB(4本)を外す。

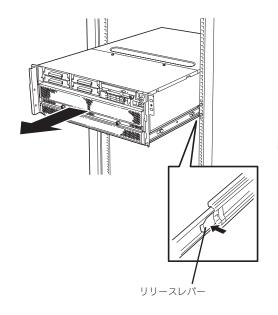
5. ハンドルを持ってゆっくりと静かにラックから引き出す。

   「カチッ」と音がしてラッチされます。

6. 左右のリリースレバーを押してラッチを解除しながらゆっくりとラックから引き出す。

重要

- **リリースレバーはドライバなどを使って押してください。指で押すと指を挟んでけがをするおそれがあります。**
- **複数名で本装置の底面を支えながらゆっくりと持ち上げてください。**

ラックの機構部品も取り外す場合は、「取り付け手順」を参照して取り外してください。

接　続

本装置と周辺装置を接続します。

本装置の前面および背面には、さまざまな周辺装置と接続できるコネクタが用意されています。次の図は本装置が標準の状態で接続できる周辺装置とそのコネクタの位置を示します。周辺装置を接続してから添付の電源コードを本装置に接続し、電源プラグをコンセントにつなげます。

警告

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡するまたは重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **ぬれた手で電源プラグを持たない**

注意

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **指定以外のコンセントに差し込まない**
- **たこ足配線にしない**
- **中途半端に差し込まない**
- **指定以外の電源コードを使わない**
- **プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない**
- **指定以外のインタフェースケーブルを使用しない**

<前面>

<背面>

コンセントはAC100V平行二極
アース付きのものを使用すること

最後に添付の電源コードを
コンセントに接続する。
UPSに接続する場合は121
ページを参照。

オプションの電源
ユニットを搭載し
ている時のみ

ハブ（マルチポートリピータ）
1000BASE-T/100BASE-TX/
10BASE-T対応

LAN上のネット
ワークシステム（ハ
ブを介して接続さ
れます）

パラレルインタフェースを
持つプリンタ

マウス

キーボード

ICMBインタフェー
スを持つ装置に接
続（DISK増設ユニッ
トなど）

A

B

シリアルインタフェース
を持つ装置（モデムなど）
専用回線への直接接続は
不可

ハブ（マルチポート
リピータ）
100BASE-TX/
10BASE-T対応

USBインタフェース
（USB2.0）を持つ装置（ター
ミナルアダプタなど）

ディスプレイ装置

LAN上のネット
ワークシステム
（ハブを介して接
続されます）

接続しようとしているケーブルを確認してください。「ICMBコネクタ」および本装置前面の「シリアルポートBコネクタ」は、LANコネクタと同じ形状をしています。LANケーブルを接続しないよう注意してください。

重要

- 本装置および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります(USBデバイスを除く)。
- NEC以外(サードパーティ)の周辺装置およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本装置で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。
- キーボード、マウスはコネクタ部分の「△」マークを上に向けて差し込んでください。
- SCSI装置のSCSI IDはID0〜ID6の間で設定してください。(3.5インチデバイスベイを搭載しているモデルのみ)
- 本装置に標準装備のシリアルポートから専用回線に直接接続することはできません。専用回線へ接続する場合には、必ず回線電気通信事業法で定められた認定を受けた端末機器から接続してください。(専用回線とは、特定の利用者に設置される専用の伝送路設備およびその付属設備を指します。NTT等の公衆回線も含まれます。)
- 接続した電源コードは電源ユニットに付いているロックスプリングでしっかりと固定してください。
- ケーブルがラックのドアや側面のガイドレールなどに当たらないようフォーミングしてください。
- 電源コードは本装置のACインレット部分で少したるませる程度にフォーミングしてください。本装置を引き出したときに電源コードが抜けるのを防ぐためです。
- 電源コードのプラグ部分が圧迫されないようにしてください。

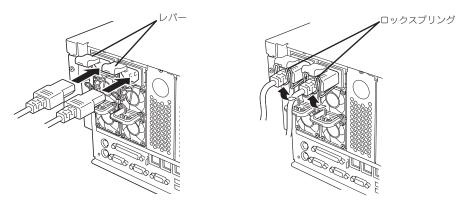
シリアルポートへの接続について

本装置の前面にあるRJ-45シリアルポートは、さまざまなシリアルデバイスを接続することができますが、デバイスによってはオプションのシリアルポート変換ケーブルを介して接続したりする必要があります。
オプションのK410-110シリアルポート変換ケーブルには、「F」のラベルが貼り付けられているものと、「R」のラベルが貼り付けられているものの2種類のケーブルがセットで添付されていますが「F」のラベルが貼り付けられているケーブルのみを使用し、「R」のラベルが貼り付けられているケーブルは使用しません。
本装置のシリアルポートBは本装置の前面と背面それぞれにあり、それぞれ排他的に使用します。通常、本装置背面のポートが有効になっておりますが、前面のポートに切り替える場合は、オプションのK410-110シリアルケーブル(F)を本装置前面のシリアルポートBコネクタに接続すれば自動で切り替わります。

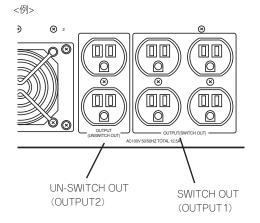
機器間の電位差で本装置が故障するおそれがあります。シリアルポートへ接続したケーブルを抜き差しするときは、本装置と接続先の装置の電源をOFFにし、電源コードを抜いてから行ってください。

電源コードの接続について

電源コードを電源ユニットのACインレットに挿入します。
接続後、電源ユニットに付いているロックスプリングで電源コードを固定してください。

重要 **電源コードを接続した後、POWERスイッチを押すまで30秒以上の時間をあけてください。**

無停電電源装置(UPS)への接続について

本装置の電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続する場合は、UPSの背面にあるサービスコンセントに接続します。
UPSのサービスコンセントには、「SWITCH OUT」と「UN-SWITCH OUT」という2種類のコンセントがあります(「OUTPUT1」、「OUTPUT2」と呼ぶ場合もあります)。

<例>

UPSを制御するアプリケーション(ESMPRO/UPSControllerなど)から電源の制御をしたい場合は、SWITCH OUTに電源コードを接続します。
常時給電させたい場合は、UN-SWITCH OUTに電源コードを接続します(24時間稼働させるモデムなどはこのコンセントに接続します)。

本装置の電源コードをUPSに接続している場合は、UPSからの電源供給と連動(リンク)させるために本装置のBIOSの設定を変更してください。
BIOSの「Server」ー「AC-LINK」を選択すると表示されるパラメータを切り替えることで設定することができます。詳しくは232ページを参照してください。

基本的な操作

本装置の基本的な操作の方法について説明します。

フロントベゼルの取り付け/取り外し

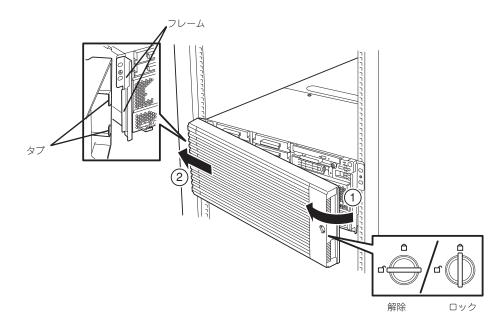
本装置の電源のON/OFFやフロッピーディスクドライブ(オプション)、CD-ROMドライブ、3.5インチデバイス(オプション)を取り扱うとき、ハードディスクドライブやプロセッサボード、メモリボードの取り付け/取り外しを行うときはフロントベゼルを取り外します。

重要

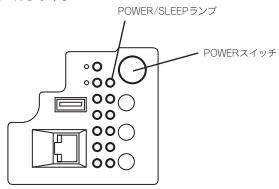
フロントベゼルは、添付のセキュリティキーでロックを解除しないと開けることができません。

1. キースロットに添付のセキュリティキーを差し込み、キーを軽く押しながら左に回してロックを解除する。

2. フロントベゼルの右端を軽く持って手前に引く。

3. フロントベゼルを左に少しスライドさせてタブをフレームから外して本装置から取り外す。

フロントベゼルを取り付けるときは、フロントベゼルの左端のタブを本装置のフレームに引っかけるようにしながら取り付けます。取り付けた後はセキュリティのためにもキーでロックしてください。

電源のON

本装置の電源は前面にあるPOWERスイッチを押すとONの状態になります。
次の順序で電源をONにします。

1. ディスプレイ装置および本装置に接続している周辺装置の電源をONにする。

無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

2. 本装置前面にあるPOWERスイッチを押す。

POWER/SLEEPランプが緑色に点灯し、しばらくするとディスプレイ装置の画面には「NEC」ロゴまたはPOST画面が表示されます。

重要

- **ACインレットに電源コードを接続した後、POWERスイッチを押すまで30秒以上の時間をあけてください。**
- **画面に「NEC」ロゴもしくはPOST画面が表示されるまでは電源をOFFにしないでください。本装置の構成によって異なりますが表示まで1−5分程度かかる場合があります。**

「NEC」ロゴを表示している間、本装置は自己診断プログラム(POST)を実行して本装置自身の診断しています。詳しくはこの後の「POSTのチェック」をご覧ください。POSTを完了するとOSが起動します。

POST中に異常が見つかるとPOSTを中断し、エラーメッセージを表示します。128ページを参照してください。

POSTのチェック

POST(Power On Self-Test)は、本装置のI/Oボード内に記録されている自己診断機能です。

POSTは本装置の電源をONにすると自動的に実行され、I/Oボード、メモリボード、プロセッサ、キーボード、マウスなどをチェックします。また、POSTの実行中に各種のBIOSセットアップユーティリティの起動メッセージなども表示します。

本装置の出荷時の設定ではPOSTを実行している間、ディスプレイ装置には「NEC」ロゴが表示されます。<Esc>キーを押すと、POSTの実行内容が表示されます。

BIOSのメニューで<Esc>キーを押さなくても、はじめからPOSTの診断内容を表示させることができます。「BIOSのセットアップ」の「Advanced(218ページ)」にある「Boot-time Diagnostic Screen」の設定を「Enabled」に切り替えてください。

POSTの実行内容は常に確認する必要はありません。次の場合にPOST中に表示されるメッセージを確認してください。

- 本装置の導入時
- 「故障かな？」と思ったとき
- 電源ONからOSの起動の間に何度もビープ音がしたとき
- ディスプレイ装置になんらかのエラーメッセージが表示されたとき

POSTの流れ

次にPOSTで実行される内容を順を追って説明します。

システムの構成によっては、ディスプレイの画面に「Press Any Key」とキー入力を要求するメッセージを表示する場合もあります。これは取り付けたPCIボードのBIOSが要求しているためのものです。PCIボードに添付されている説明書の内容を確認してから何かキーを押してください。

1. 電源ON後、POSTが起動し、メモリチェックを始める。

   ディスプレイ装置の画面左上に基本メモリと拡張メモリのサイズをカウントしているメッセージが表示されます。また、画面下に以下のメッセージが表示されます。

   Press <F2> to enter SETUP, <F4> Service Partition, <F12> Network

   ヒント

   BIOSセットアップの「Advanced」-「Extended RAM Step」を出荷時の設定から変更しメモリテストを実行している場合は、ここで<Space> キーを押すと、メモリテストをスキップすることができます。

   なお、本装置に搭載されているメモリの量によっては、メモリチェックが完了するまでに数分かかる場合もあります。同様に再起動(リブート)した場合など、画面に表示をするのに約1分程の時間がかかる場合があります。

2. 続いて本装置に内蔵のRAIDコントローラを検出し、MegaRAID Configuration Utilityの起動を促すメッセージが表示されるので(そのまま何も入力せずにいると数秒後にPOSTを自動的に続ける)、表示にあわせてキーを押してください。

```
LSI MegaRAID BIOS    Version XXX (Build XXX XX XXXX)
Copyright(c) 2005 LSI Logic Corp.
HA-X (Bus XX Dev XX) MegaRAID SCSI 320-2E
 Standard FW XXXX DRAM = 256MB (SDRAM)
Battery module is present on adapter
 Channel-0 ID-14 - - XXX    XXXXX
 Channel-1 ID-14 - - XXX    XXXXX
X Logical Drive(s) found on the host adapter.
X Logical Drive(s) handled by BIOS
Press <Ctrl><M> or <Enter> to Run Config Utility
Or Press <Ctrl><H> for WebBIOS
```

ここで<Enter>キーを押すとユーティリティが起動します。<Ctrl>+ <M>キーでのユーティリティ起動は行わないでください。

<Ctrl>+<H>キーは押さないでください。万一、誤って押した場合はWebBIOSが起動します。WebBIOS 起動後、画面右上の「Control-M」をクリックしてください。

本装置搭載のSCSI機器(ハードディスクドライブや3.5インチテープデバイス)の接続を変更した時などはユーティリティを使用してください。
ユーティリティを終了すると、本装置は自動的にもう一度はじめからPOSTを実行します。
本装置のPCIバスに複数のSCSIコントローラボードを搭載しているときは、PCIスロット番号のPCI #3→PCI #4→PCI #5→PCI #8→PCI #9→PCI #6→PCI #7→標準RAIDコントローラ→PCI #1→PCI #2の順で搭載しているボードのSCSI BIOSセットアップユーティリティの起動メッセージを表示します。(詳細や起動の順番は、「搭載可能スロット」(187ページ参照)のヒントを参照してください。)

3. 接続しているSCSI装置が使用しているSCSI ID番号などを画面に表示する。

4. ディスクアレイコントローラなど、一部のオプションボードを搭載すると、当該ボードのBIOSセットアップユーティリティの起動を促すメッセージが表示されます。

起動の仕方については、当該オプションボードに添付の説明書を参照してください。

オプションボードのセットアップユーティリティを起動するために<Ctrl>キーと他のいずれかのキーとを同時に押す場合、稀にその後キー操作が不正(キーを押しても効かない、または押したキーと異なる動作をする)となります。その場合、もういちど <Ctrl>キーを押すと復旧します。

5. 次にプロセッサや接続しているキーボード、マウスなどを検出したことを知らせるメッセージを表示する。

6. その後、以下のメッセージ*を表示する。

パターン1:

```
Press <F2> to enter SETUP or <F12> to Network
```

パターン2:

```
Press <F2> to enter SETUP, <F4> Service Partition, <F12> Network
```

または

パターン3:

```
Press <F1> to resume, <F2> to enter Setup, <F12> to Network
```

パターン4:

```
Press <F1> to resume, <F2> to enter Setup, <F4> Service Partition, <F12> Network
```

* 本装置の状態によってメッセージの内容は異なります。

ヒント

それぞれのキーを入力した場合の動作や起動するユーティリティは以下のようになっています。通常では、特に起動する必要はありません。

● <Esc>キー

<Esc>キーを押すと、POSTの終わりでBootメニューを表示します。このメニューから起動するデバイスを選択することができます。

```
Boot Menu

1. CD-ROM Drive
2. +Removable Devices
3. +Hard Drive
4. IBA GE Slot 0B20 v1222
5. IBA GE Slot 0B21 v1222

< Enter Setup >
```

● <F2>キー

<F2>キーを押すと、BIOSセットアップユーティリティを起動します。本装置を使用する環境にあった設定に変更するときに起動してください。エラーメッセージを伴った上記のメッセージが表示された場合を除き、通常では特に起動して設定を変更する必要はありません。設定方法やパラメータの機能については、207ページを参照してください。

● <F4>キー

<F4>キーを押すと、保守用パーティションから起動します。保守用パーティションについては、317ページの「保守用パーティションの設定」を参照してください。

● <F12>キー

<F12>キーを押すと、ネットワークブートを実行します。

● <F1>キー

「Press <F1> to resume」のメッセージが表示される場合は、POST中に何らかの異常を検出しています。メッセージの内容や対処方法については「POST中のエラーメッセージ」を参照してください。エラーメッセージが表示されている場合でも、<F1>キーを押下すると起動します。

7. BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」でパスワードの設定をすると、POSTが正常に終了した後に、パスワードを入力する画面が表示される。

   パスワードの入力は、3回まで行えます。3回とも入力を誤ると本装置を起動できなくなります。この場合は、本装置の電源をOFFにしてから、約10秒ほど時間をあけてONにして本装置を起動し直してください。

   重要

   OSをインストールするまではパスワードを設定しないでください。

8. POSTを終了するとOSを起動する。

ハードウェア編

POST中のエラー

POST中にエラーを検出するとディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示したり、ビープ音が鳴ったりします。

ディスプレイに表示されるエラーメッセージ

次にエラーメッセージの一覧と原因、その対処方法を示します。

重要 **保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示をメモしておいてください。エラーメッセージの内容は保守を行うときに有用な情報となります。**

エラーメッセージ一覧のプロセッサやメモリ、ファンなどのデバイスに関するエラーメッセージとデバイスの搭載位置は136ページの図のように対応しています。

故障しているプロセッサまたはメモリはSETUPユーティリティからでも確認できます(216ページ、219ページ参照)。

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
0200	Failure Fixed Disk	ハードディスクドライブエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0210	Stuck Key	キーボード接続エラー。	キーボードを接続し直してください。
0211	Keyboard error	キーボードエラー。	• キーボードを接続し直してください。 • 再起動してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0212	Keyboard Controller Failed	キーボードコントローラエラー。	
0213	Keyboard locked - Unlock key switch.	キーボードがロックされている。	キースイッチのロックを解除してください。ロックを解除しても直らない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
0220	Monitor type does not match CMOS - Run SETUP	モニタのタイプがCMOSと一致しない。	SETUPを起動してください。SETUPで直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0230	System RAM Failed at offset:	システムRAMエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0231	Shadow Ram Failed at offset:	シャドウRAMエラー。	
0232	Extended RAM Failed at address line:	拡張RAMエラー。	
0250	System battery is dead - Replace and run SETUP	システムのバッテリがない。	保守サービス会社に連絡してバッテリを交換してください。(本装置を再起動後、SETUPを起動して設定し直してください。
0251	System CMOS checksum bad - Default configuration used	システムCMOSのチェックサムが正しくない。	デフォルト値が設定されました。SETUPを起動して、設定し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0252	Password checksum bad - Passwords cleared	パスワードのチェックサムが正しくない。	パスワードがクリアされました。SETUPを起動して設定し直してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
0260	System timer error	システムタイマーエラー。	SETUPを起動して、時刻や日付を設定し直してください。設定し直しても同じエラーが続けて起きるときは保守サービス会社に連絡してください。
0270	Real time clock error	リアルタイムクロックエラー。	
0271	Check date and time setting	リアルタイムクロックの時刻設定に誤りがある。	
0280	Previous boot incomplete-Default configuration used	前回の起動が正常終了せず、デフォルト値が設定された。	保守サービス会社に連絡してください。
02B0	Diskette drive A error	フロッピーディスクドライブAのエラー。	SETUPを起動して、「Main」メニューの「Legacy Floppy A」、「Legacy Floppy B」を設定し直してください。設定し直しても同じエラーが続けて起きるときは保守サービス会社に連絡してください。
02B1	Diskette drive B error	フロッピーディスクドライブBのエラー。	
02B2	Incorrect Drive A type - run SETUP	フロッピーディスクドライブAのタイプが正しくない。	SETUPを起動して、設定し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
02B3	Incorrect Drive B type - run SETUP	フロッピーディスクドライブBのタイプが正しくない。	
02D0	System cache error - Cache disabled	システムキャッシュエラー。	キャッシュを使用できません。保守サービス会社に連絡してください。
02D1	System Memory exceeds the CPU's caching limit	メモリがプロセッサのキャッシュの限界を超えた。	保守サービス会社に連絡してください。
02F5	DMA Test Failed	DMAテストエラー。	
02F6	Software NMI Failed	ソフトウェアNMIエラー。	
02F7	Fail-safe Timer NMI Failed	フェイルタイマのNMIエラー。	
0500	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 01	対応するPCIスロットに実装されているデバイス（ボード）に搭載されているBIOSの初期化が実行されなかった。	
0501	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 02		
0502	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 03		
0503	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 04		
0504	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 05		
0505	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 06		
0506	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 07		
0507	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 08		
0508	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 09		

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
0615	COM B configuration changed	COM Bの構成エラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0616	COM B config. error - device disabled.	COM Bの構成デバイスエラー。	
0617	Flopppy configuration changed	フロッピーディスクドライブの構成エラー。	
0618	Floppy config. error - device disabled	フロッピーディスクドライブの構成デバイスエラー。	
0619	Parallel port configuration changed	パラレルポートの構成エラー。	
061A	Parallel port config. error - device disabled	パラレルポートの構成デバイスエラー。	
0B00	Rebooted during BIOS boot at Post Code	BIOSブート中に再起動した。	
0B1B	PCI System Error on Bus/Device/Function	バス/デバイス/機能でPCIシステムエラーが発生した。	
0B1C	PCI Parity Error on Bus/Device/Function	バス/デバイス/機能でPCIパリティエラーが発生した。	
0B28	Unsupported Processor detected on Processor 1	プロセッサ #1ソケットにサポートしていないプロセッサが搭載されている。	本装置がサポートしているプロセッサであることを確認してください。確認できない場合は保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
0B29	Unsupported Processor detected on Processor 2	プロセッサ #2ソケットにサポートしていないプロセッサが搭載されている。	
0B2A	Unsupported Processor detected on Processor 3	プロセッサ #3ソケットにサポートしていないプロセッサが搭載されている。	
0B2B	Unsupported Processor detected on Processor 4	プロセッサ #4ソケットにサポートしていないプロセッサが搭載されている。	
0B30	Fan 1 Alarm occurred.	ファンの異常。	ファンの故障、またはファンの目詰まりが考えられます。保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
0B31	Fan 2 Alarm occurred.		
0B32	Fan 3 Alarm occurred.		
0B33	Fan 4 Alarm occurred.		
0B34	Fan 5 Alarm occurred.		
0B35	Fan 6 Alarm occurred.		
0B50	Processor #1 with error taken off ine.	プロセッサ #1でエラーを検出したため、プロセッサ #1を縮退した。	プロセッサが縮退しています。保守サービス会社に連絡してください。
0B51	Processor #2 with error taken offline.	プロセッサ #2でエラーを検出したため、プロセッサ #2を縮退した。	
0B52	Processor #3 with error taken offline.	プロセッサ #3でエラーを検出したため、プロセッサ #3を縮退した。	
0B53	Processor #4 with error taken offline.	プロセッサ #4でエラーを検出したため、プロセッサ #4を縮退した。	
0B5F	Forced to use Processor with error	プロセッサエラーを検出した。	すべてのプロセッサでエラーを検出したため、強制的に起動しています。保守サービス会社に連絡してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
0B60	DIMM group #1 has been disabled.	メモリエラーを検出した。DIMM Group #1が縮退している。	保守サービス会社に連絡してください。
0B61	DIMM group #2 has been disabled.	メモリエラーを検出した。DIMM Group #2が縮退している。	
0B62	DIMM group #3 has been disabled.	メモリエラーを検出した。DIMM Group #3が縮退している。	
0B63	DIMM group #4 has been disabled.	メモリエラーを検出した。DIMM Group #4が縮退している。	
0B64	DIMM group #5 has been disabled.	メモリエラーを検出した。DIMM Group #5が縮退している。	
0B65	DIMM group #6 has been disabled.	メモリエラーを検出した。DIMM Group #6が縮退している。	
0B66	DIMM group #7 has been disabled.	メモリエラーを検出した。DIMM Group #7が縮退している。	
0B67	DIMM group #8 has been disabled.	メモリエラーを検出した。DIMM Group #8が縮退している。	
0B70	The error occurred during temperature sensor reading.	温度異常を検出する途中にエラーを検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
0B71	System Temperature out of the range.	温度異常を検出した。	ファンの故障、またはファンの目詰まりが考えられます。保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
0B74	The error occurred during voltage sensor reading.	電圧を検出中にエラーが起きた。	保守サービス会社に連絡してください。
0B75	System voltage out of the range.	システムの電圧に異常を検出した。	
0B78	The error occurred during fan sensor reading.	FANセンサの検出中にエラーが起きた。	
0B7C	The error occurred during fredundant power module confirmation.	冗長電源を構成している途中でエラーを検出した。	保守サービス会社に連絡して電源ユニットを交換してください。
0B7D	The normal operation can't be guaranteed with use of only one PSU.	本装置に必要な基本電源構成を満たしていない。	保守サービス会社に連絡して電源ユニットを増設または交換してください。
0B80	BMC Memory Test Failed.	BMCデバイス(チップ)のエラー。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B81	BMC Firmware Code Area CRC check failed.		
0B82	BMC core hardware failure.		
0B83	BMC IBF or OBF check failed.	BMCのアドレスへのアクセスに失敗した。	
0B8A	BMC SEL area full.	システムイベントログを書き込める容量がない。	
0B8B	BMC progress check timeout.	BMCチェックを一時中断した。	

ハードウェア編

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意　味	対処方法
0B8C　BMC command access failed.	BMCコマンドアクセスに失敗した。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B8D　Could not redirect the console - BMC Busy -	コンソールリダイレクトができない（BMCビジー）。	
0B8E　Could not redirect the console - BMC Error -	コンソールリダイレクトができない（BMCエラー）。	
0B8F　Could not redirect the console - BMC Parameter Error -	コンソールリダイレクトができない（BMCパラメータエラー）。	
0B90　BMC Platform Information Area corrupted.	不正なPlatform Information Areaを検出した。	
0B91　BMC update firmware corrupted.	BMCデバイス(チップ)エラー。	
0B92　Internal Use Area of BMC FRU corrupted.	Chassis情報を格納したSROMの故障。	FRUコマンド、およびEMP機能以外は使用できます。致命的な障害ではありませんが、一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B93　BMC SDR Repository empty.	BMCデバイス(チップ)エラー。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B94　IPMB signal lines do not respond.	SMC (Sattelite Management Controller)の故障。	IPMB経由でのSMCへのアクセス機能以外は使用できます。致命的な障害ではありませんが、一度電源を OFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B95　BMC FRU device failure.	Chassis情報を格納したSROMの故障。	FRUコマンド、およびEMP機能以外は使用できます。致命的な障害ではありませんが、一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B96　BMC SDR Repository failure.	センサデータレコード情報を格納したSROMの故障。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B97　BMC SEL device failure.	BMCデバイス(チップ)の故障。	
0B98　BMC RAM test error.	BMC RAMのエラー。	
0B99　BMC Fatal hardware error.	BMCのエラー。	
0B9A　BMC not responding.	BMCのエラー。	
0B9B　Private I2C bus not responding.	プライベートI2Cバスより無応答。	
0B9C　BMC internal exception.	BMCのエラー。	
0B9D　BMC A/D timeout error.	BMCのエラー。	
0B9E　SDR repository corrupt.	BMCのエラーまたはSDRのデータの破損。	
0B9F　SEL corrupt.	BMCのエラーまたはシステムイベントログのデータの破損。	

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
0BB0	SMBIOS - SROM data read error.	SROMのデータリードエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0BB1	SMBIOS - SROM data checksum bad.	SROMのデータェックサムエラー。	
0BC0	POST detected startup failure of 1st Processor.	プロセッサ #1のエラー。	保守サービス会社に連絡して該当するプロセッサを交換ください。
0BC1	POST detected startup failure of 2nd Processor.	プロセッサ #2のエラー。	
0BC2	POST detected startup failure of 3nd Processor.	プロセッサ #3のエラー。	
0BC3	POST detected startup failure of 4th Processor.	プロセッサ #4のエラー。	
8120	Unsupported DIMM detected in DIMM group #1.	本装置でサポートしていないDIMMを検出した。	保守サービス会社に連絡して該当するグループのDIMM(2枚)を交換してください。
8121	Unsupported DIMM detected in DIMM group #2.		
8122	Unsupported DIMM detected in DIMM group #3.		
8123	Unsupported DIMM detected in DIMM group #4.		
8124	Unsupported DIMM detected in DIMM group #5.		
8125	Unsupported DIMM detected in DIMM group #6.		
8126	Unsupported DIMM detected in DIMM group #7.		
8127	Unsupported DIMM detected in DIMM group #8.		

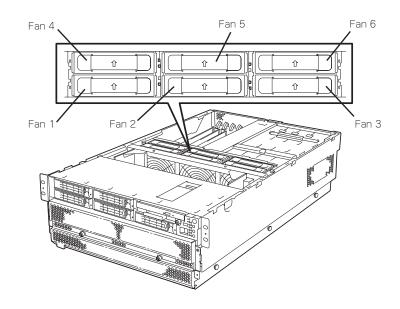
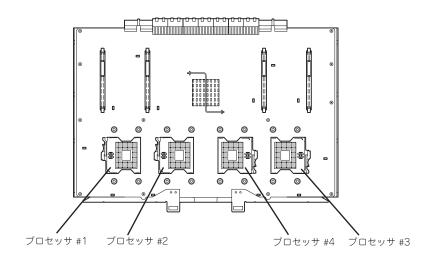
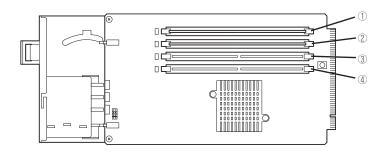
ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
8130	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group #1.	DIMMの種類が一致していない。	DIMMに貼り付けられているラベルを見て、グループごとに同じ種類のDIMMが取り付けられていることを確認してください。異なっている場合は、保守サービス会社に連絡してDIMMを交換してください。
8131	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group #2.		
8132	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group #3.		
8133	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group #4.		
8134	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group #5.		
8135	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group #6.		
8136	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group #7.		
8137	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group #8.		
8140	DIMM group #1 with error is enabled.	メッセージにあるグループでエラーを起こしたDIMMを検出した。	保守サービス会社に連絡して該当するグループのDIMM(2枚)を交換してください。
8141	DIMM group #2 with error is enabled.		
8142	DIMM group #3 with error is enabled.		
8143	DIMM group #4 with error is enabled.		
8144	DIMM group #5 with error is enabled.		
8145	DIMM group #6 with error is enabled.		
8146	DIMM group #7 with error is enabled.		
8147	DIMM group #8 with error is enabled.		
8150	NVRAM Cleared By Jumper.	ジャンパ設定によりNVRAMをクリアした。	電源OFF後、ジャンパの設定を元に戻してください。
8151	Password Cleared By Jumper	ジャンパ設定によりパスワードをクリアした。	

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
8160	Mismatch Processor Speed detected on Processor 1.	プロセッサ #1の周波数が合っていない。	プロセッサの周波数を確認してください。確認できない場合は保守サービス会社に連絡してください。
8161	Mismatch Processor Speed detected on Processor 2.	プロセッサ #2の周波数が合っていない。	
8162	Mismatch Processor Speed detected on Processor 3.	プロセッサ #3の周波数が合っていない。	
8163	Mismatch Processor Speed detected on Processor 4.	プロセッサ #4の周波数が合っていない。	
8170	Processor 1 not operating at intended frequency	プロセッサ #1が期待する周波数で動作しない。	プロセッサの周波数を確認してください。確認できない場合は保守サービス会社に連絡してください。
8171	Processor 2 not operating at intended frequency	プロセッサ #2が期待する周波数で動作しない。	
8172	Processor 3 not operating at intended frequency	プロセッサ #3が期待する周波数で動作しない。	
8173	Processor 4 not operating at intended frequency	プロセッサ #4が期待する周波数で動作しない。	
817F	All Processor not operating at intended frequency	すべてのプロセッサが期待する周波数で動作しない。	
8200	Online Spare Memory was not ready.	オンラインスペアメモリ機能がEnableのときに、搭載されたDIMMのTypeが同じではない。	保守サービス会社に連絡してください。
8201	Mirroring Memory was not ready.	メモリミラーリング機能が有効になっているときにDIMM group #1と#3に搭載されたDIMMのタイプが合っていない。またはDIMM group #2に搭載されている。	保守サービス会社に連絡してください。
8202	Memory RAID was not ready	BIOS SETUPでこの機能が、Enabledになっていた場合、Memory RAIDを構築するためのメモリの実装条件を満たしていない場合に表示される。 また、BIOS SETUPのmemory error Policyに連携する。	全メモリの容量とType、またメモリの実装構成が適切であるかを確認する。
8300	Secondary BIOS is corrupted	システム運用中に障害が発生し、プライマリBIOSとセカンダリBIOSが切り替わった。または、BIOSアップデート時に障害が発生した。(「システムBIOSの二重化」(7ページ)参照)	保守サービス会社に連絡してください。

その他のPOSTエラー

次のエラーはディスプレイに表示されませんが、システムイベントログに登録されます。

エラーコード	意　味	対処方法
8301	システムBIOS起動の初期段階(Bootblock Task)にて、BIOSチェックサムエラーを検出した。このエラーによりシステムBIOSはセカンダリBIOSに切り替わった。 (「システムBIOSの二重化」(7ページ)参照)	保守サービス会社に連絡してください。

● ファンのエラーメッセージに対応するファンの取り付け位置

● プロセッサのエラーメッセージに対応するプロセッサの取り付け位置

● メモリのエラーメッセージに対応するメモリの取り付け位置

	メモリボードスロット#1		メモリボードスロット#2		メモリボードスロット#3		メモリボードスロット#4	
①	DIMMスロット#1	DIMM GROUP #1	DIMMスロット#1	DIMM GROUP #3	DIMMスロット#1	DIMM GROUP #5	DIMMスロット#1	DIMM GROUP #7
②	DIMMスロット#2		DIMMスロット#2		DIMMスロット#2		DIMMスロット#2	
③	DIMMスロット#3	DIMM GROUP #2	DIMMスロット#3	DIMM GROUP #4	DIMMスロット#3	DIMM GROUP #6	DIMMスロット#3	DIMM GROUP #8
④	DIMMスロット#4		DIMMスロット#4		DIMMスロット#4		DIMMスロット#4	

ビープ音によるエラー通知

POST中にエラーを検出しても、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示できない場合があります。この場合は、一連のビープ音でエラーが発生したことを通知します。エラーはビープ音のいくつかの音の組み合わせでその内容を通知します。たとえば、ビープ音が1回、連続して3回、1回、3回の組み合わせで鳴った(ビープコード: 1-3-1-3)ときはキーボードコントローラエラーが起きたことを示します。
次にビープコードとその意味、対処方法を示します。

ビープコード	意　味	対処方法
1-2	Video BIOS初期化エラー	ディスプレイ装置になにも表示されない場合は、ディスプレイのコネクタの取り付け状態を確認してください。問題が解決されない場合は、保守サービス会社に連絡して、I/Oボードを交換してください。 増設したPCIボードのオプションROMの展開が表示されない場合は、PCIボードの取り付け状態を確認してください。問題が解決されない場合は、保守サービス会社に連絡して、I/Oボード、増設したPCIボードを交換してください。
1-2	オプションROM初期化エラー	
1-3-1-3	キーボードコントローラエラー	キーボードを接続し直してください。問題が解決されない場合は、保守サービス会社に連絡して、I/Oボードを交換してください。
1-3-3-1	メモリを検出できない。あるいは、DIMMボードのタイプが異なる	DIMMおよびメモリボードの取り付け状態を確認してください。問題が解決されない場合は、保守サービス会社に連絡して、DIMMまたはメモリボードを交換してください。
1-3-4-1	DRAMアドレスエラー	
1-3-4-3	DRAMテストLow Byteエラー	
1-4-1-1	DRAMテストHigh Byteエラー	
1-5-1-1	プロセッサが起動できなかった	プロセッサの取り付け状態を確認してください。問題が解決されない場合は、保守サービス会社に連絡して、プロセッサまたはプロセッサボードを交換してください。
1-5-2-2	プロセッサが搭載されていない	
1-5-2-3	種類、電圧が異なるプロセッサの混在エラー	増設したプロセッサがサポート対象品であることを確認してください。問題がなければ、プロセッサが正しく取り付けられていることを確認してください。それでも問題が解決されない場合は、保守サービス会社に連絡して、プロセッサまたはプロセッサボードを交換してください。
1-5-4-4	電圧異常	内部のボードの故障が考えられます。保守サービス会社に連絡して故障したボードの特定と交換を依頼してください。
2-2-3-1	不正割り込みテストエラー	保守サービス会社に連絡してI/Oボードを交換してください。

ビープコード「1-5-4-2」は停電や瞬断などによりAC電源の供給が遮断され、 システムの再起動が行われたことを通知するものです。異常ではありません。

電源のOFF

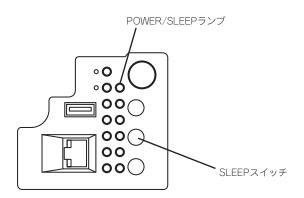
次の順序で電源をOFFにします。本装置の電源コードをUPSに接続している場合は、UPSに添付のマニュアルを参照するか、UPSを制御しているアプリケーションのマニュアルを参照してください。

1. OSのシャットダウンをする。
2. 本装置前面にあるPOWERスイッチを押す。
   POWER/SLEEPランプが消灯します。
3. 周辺装置の電源をOFFにする。

省電力モードの起動

本装置はACPIモードに対応しています。SLEEPスイッチで本装置の電力をほとんど使用しない状態(スタンバイ状態)にすることができます。

SLEEPスイッチは、Windows Server 2003/Windows 2000を使用しているときにACPIモードに対応したオペレーティングシステムで機能します。

前面にあるSLEEPスイッチを押すとスタンバイ状態になります(POWER/SLEEPランプが点滅します)。スタンバイ状態になってもメモリの内容やそれまでの作業の状態は保持されています。SLEEPスイッチを押すとスタンバイ状態は解除されます。

省電力モードへの移行または省電力モードからの復帰方法については、Windows Server 2003/Windows 2000の設定によって異なります。また、省電力モード中の動作レベルは、Windows Server 2003/Windows 2000の設定に依存します。

省電力モードへの移行または省電力モード中にシステム構成を変更しないでください。省電力モードから復帰する際に元の状態に復帰できない場合があります。

フロッピーディスクドライブ(オプション)

本装置にてフロッピーディスクドライブを使用する場合には、オプションのN8460-002 USB FDD UNITを本装置のUSBコネクタに接続してください。
本装置では3.5インチの2HDフロッピーディスク(1.44Mバイト)と2DDフロッピーディスク(720Kバイト)を使用することができます。

フロッピーディスクのセット/取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする前に本装置の電源がON(POWERランプ点灯)になっていることを確認してください。
フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに完全に押し込むと「カチッ」と音がして、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンが少し飛び出します。

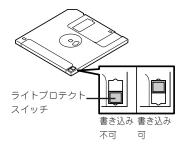
- 1.2Mバイトフォーマットのディスクは使用できません。
- フォーマットされていないフロッピーディスクをセットすると、ディスクの内容を読めないことを知らせるメッセージやフォーマットを要求するメッセージが表示されます。OSに添付のマニュアルを参照してフロッピーディスクをフォーマットしてください。
- フロッピーディスクをセットした後に本装置の電源をONにしたり、再起動したりするとフロッピーディスクから起動します。フロッピーディスク内にシステムがないと起動できません。

イジェクトボタンを押すとセットしたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出せます。

フロッピーディスクアクセスランプが消灯していることを確認してからフロッピーディスクを取り出してください。アクセスランプが点灯中に取り出すとデータが破壊されるおそれがあります。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは、データを保存する大切なものです。またその構造は非常にデリケートにできていますので、次の点に注意して取り扱ってください。

- フロッピーディスクドライブにはていねいに奥まで挿入してください。
- ラベルは正しい位置に貼り付けてください。
- 鉛筆やボールペンで直接フロッピーディスクに書き込んだりしないでください。
- シャッタを開けないでください。
- ゴミやほこりの多いところでは使用しないでください。
- フロッピーディスクの上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- たばこの煙に当たるところには置かないでください。
- 水などの液体の近くや薬品の近くには置かないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- クリップなどではさんだり、落としたりしないでください。
- 磁気やほこりから保護できる専用の収納ケースに保管してください。
- フロッピーディスクは、保存している内容を誤って消すことのないようにライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、読み出しはできますが、ディスクのフォーマットやデータの書き込みができません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、書き込み時以外はライトプロテクトをしておくようお勧めします。3.5インチフロッピーディスクのライトプロテクトは、ディスク裏面のライトプロテクトスイッチで行います。

- フロッピーディスクは、とてもデリケートな記憶媒体です。ほこりや温度変化によってデータが失われることがあります。また、オペレータの操作ミスや本装置自身の故障などによってもデータを失う場合があります。このような場合を考えて、万一に備えて大切なデータは定期的にバックアップをとっておくことをお勧めします。(本装置に添付されているフロッピーディスクは必ずバックアップをとってください。)

CD-ROMドライブ

本装置前面にCD-ROMドライブがあります。CD-ROMドライブはCD-ROM(読み出し専用のコンパクトディスク)のデータを読むための装置です。CD-ROMはフロッピーディスクと比較して、大量のデータを高速に読み出すことができます。

⚠注意

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

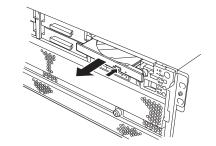
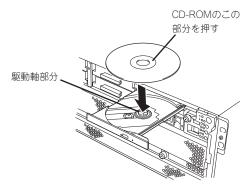
- **CD-ROMドライブのトレーを引き出したまま放置しない**

CD-ROMのセット/取り出し

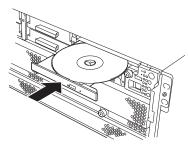
CD-ROMは次の手順でセットします。

1. CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする前に本装置の電源がON(POWER/SLEEPランプが緑色に点灯)になっていることを確認する。
2. CD-ROMドライブ前面のCDトレーイジェクトボタンを押す。

   トレーが出てきます。

3. CD-ROMの信号面をトレーに向けて持つ。
4. 右図のようにトレーの中心にある駆動軸部分にCD-ROMの穴がはまるように指で押して、トレーにセットする。

5. トレーの前面を軽く押して元に戻す。

   重要

   CD-ROMのセット後、CD-ROMドライブの駆動音が大きく聞こえるときはCD-ROMをセットし直してください。

CD-ROMの取り出しは、CD-ROMをセットするときと同じようにCDトレーイジェクトボタンを押してトレーを出します。

アクセスランプがオレンジ色に点灯しているときはCD-ROMにアクセスしていることを示します。CDトレーイジェクトボタンを押す前にアクセスランプがオレンジ色に点灯していないことを確認してください。

トレーの中心にある駆動軸部分を押さえながらCD-ROMの端を軽くつまみ上げるようにしてトレーから取り出します。CD-ROMを取り出したらトレーを元に戻してください。

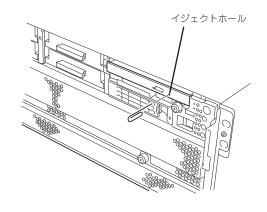
取り出せなくなったときの方法

CDトレーイジェクトボタンを押してもCD-ROMが本装置から取り出せない場合は、次の手順に従ってCD-ROMを取り出します。

1. POWERスイッチを押して本装置の電源をOFF(POWER/SLEEPランプ消灯)にする。
2. 直径約1.2mm、長さ約100mmの金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる)をCD-ROM前面下側にある強制イジェクトホールに差し込んで、トレーが出てくるまでゆっくりと押す。

重要

- **つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。**
- **上記の手順を行ってもCD-ROMが取り出せない場合は、保守サービス会社に連絡してください。**

3. トレーを持って引き出す。
4. CD-ROMを取り出す。
5. トレーを押して元に戻す。

CD-ROMの取り扱いについて

本装置にセットするCD-ROMは次の点に注意して取り扱ってください。

- CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクにつきましては、CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。
- CD-ROMを落とさないでください。
- CD-ROMの上にものを置いたり、曲げたりしないでください。
- CD-ROMにラベルなどを貼らないでください。
- 信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。
- 文字の書かれている面を上にして、トレーにていねいに置いてください。
- キズをつけたり、鉛筆やボールペンで文字などを直接CD-ROMに書き込まないでください。
- たばこの煙の当たるところには置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- 指紋やほこりがついたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてゆっくり、ていねいにふいてください。
- 清掃の際は、CD専用のクリーナをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーなどは使わないでください。
- 使用後は、専用の収納ケースに保管してください。

オプションの取り付け

オプションデバイスの取り付け方法および注意事項について記載しています。

重要

- ここで示す取り付け/取り外しはお客様ご自身でも行えますが、この場合の本装置および部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。本装置について詳しく、専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に取り付け/取り外しを行わせるようお勧めします。
- オプションおよびケーブルはNECが指定する部品を使用してください。指定以外の部品を取り付けた結果起きた本装置の誤動作または故障・破損についての修理は有料となります。
- ハードウェア構成を変更した場合も、必ずシステムをアップデートしてください(49ページまたは74ページを参照)。

安全上の注意

安全に正しくオプションの取り付け・取り外しをするために次の注意事項を必ず守ってください。

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- CD-ROMドライブの内部をのぞかない
- リチウムバッテリやニッケル水素バッテリを取り外さない
- プラグを差し込んだまま取り扱わない

注意

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 二人以下で持ち上げない
- 中途半端に取り付けない
- カバーを外したまま取り付けない
- 指を挟まない
- 高温注意

静電気対策について

本装置内部の部品は静電気に弱い電子部品で構成されています。取り付け・取り外しの際は静電気による製品の故障に十分注意してください。

- **リストストラップ(アームバンドや静電気防止手袋など)の着用**

  リスト接地ストラップを手首に巻き付けてください。手に入らない場合は部品を触る前に本装置の塗装されていない金属フレームに触れて身体に蓄積された静電気を放電します。
  また、作業中は定期的に金属フレームに触れて静電気を放電するようにしてください。

- **作業場所の確認**

  ー 静電気防止処理が施された床またはコンクリートの上で作業を行います。
  ー カーペットなど静電気の発生しやすい場所で作業を行う場合は、静電気防止処理を行った上で作業を行ってください。

- **作業台の使用**

  静電気防止マットの上に本装置を置き、その上で作業を行ってください。

- **着衣**

  ー ウールや化学繊維でできた服を身につけて作業を行わないでください。
  ー 静電気防止靴を履いて作業を行ってください。
  ー 取り付け前に貴金属(指輪や腕輪、時計など)を外してください。

- **部品の取り扱い**

  ー 取り付ける部品は本装置に組み込むまで静電気防止用の袋に入れておいてください。
  ー 各部品の端子や実装部品に触れないよう取り扱ってください。
  ー 部品を保管・運搬する場合は、静電気防止用の袋などに入れてください。

取り付け/取り外しの準備

次の手順に従って部品の取り付け/取り外しの準備をします。

1. OSのシャットダウン処理を行う。
2. POWERスイッチを押して本装置の電源をOFF(POWER/SLEEPランプ消灯)にする。
3. 本装置の電源コードをコンセントから抜く。

   本装置背面の電源ユニットにあるACスタンバイランプが消灯します。
4. 本装置背面に接続しているケーブルをすべて取り外す。
5. 本装置の前後左右および上部に1〜2mのスペースを確保する。

オプションの取り付け/取り外しは必ず電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。電源コードを接続したまま内部のケーブルを外すと、電源ON時にSTATUSランプがアンバー色に点灯します。一度電源コードを抜き差しして再起動させてください。

取り付け/取り外しの手順

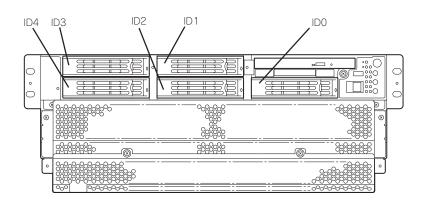
次の手順に従って部品の取り付け/取り外しをします。

3.5インチハードディスクドライブ

本装置の前面にある3.5インチディスクベイには、5つのスロットが用意されています。ハードディスクドライブは取り付けられていません(BTO(工場組み込み出荷)を除く)。別途購入してください。

重要

- NECで指定していないハードディスクドライブを使用しないでください。サードパーティのハードディスクドライブなどを取り付けると、ハードディスクドライブだけでなく本装置が故障するおそれがあります。次に示すモデルをお買い求めください。
  - N8150-162(36.3GB、10,000rpm、Ultra320)
  - N8150-163(73.2GB、10,000rpm、Ultra320)
  - N8150-165(36.3GB、15,000rpm、Ultra320)
  - N8150-171(146.5GB、10,000rpm、Ultra320)
  - N8150-172(73.2GB、15,000rpm、Ultra320)
  - N8150-192(300GB、10,000rpm、Ultra320)
  - N8150-193(146.5GB、15,000rpm、Ultra320)
- ディスクアレイコントローラがサポートするRAIDレベルは、使用するディスクアレイコントローラによって異なります。
  - オンボードRAIDを使用する場合
    RAID0,1,5の各レベルおよび、RAID1のスパンをサポートします(「ディスクアレイコンフィグレーション」(239ページ参照))。
  - オプションのディスクアレイコントローラを使用する場合
    ディスクアレイコントローラに添付の説明書を参照してください(BTO(工場組み込み出荷)で購入した場合は、本装置に添付されています)。

5つのスロットには約25.4mm(1インチ)厚のハードディスクドライブを取り付けることができます。SCSI IDは以下の図の値に固定で設定されています。

出荷時の構成では、3.5インチディスクベイのケーブルがI/Oボード上のSCSIコネクタ「SCSI-1」と「SCSI-HDD」の間に接続されています。
増設するハードディスクドライブは同一のNEC型番のものを使用してください。

3.5インチディスクベイの空きスロットにはダミーブロックが取り付けられています。これは本装置内部の冷却効果を高めるためのものです。ハードディスクドライブを搭載していないスロットにはダミーブロックを取り付けてください。

重要

ダミーブロックは、本装置の専用品を使用してください。

取り付け

次に示す手順でハードディスクドライブを取り付けます。その他のスロットへの取り付けも同様の手順で行えます。

ハードディスクドライブは、フロントベゼルを取り外すだけで取り付け/取り外しを行うことができます。本装置をラックから引き出す必要はありません。
またRAID1またはRAID5のディスクアレイ構成では本装置の電源がONのままでも行えます。

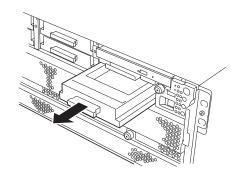
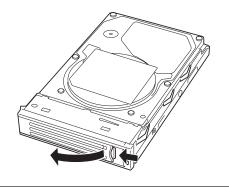
重要

ディスクアレイを構成している場合は、同じパックを構成するハードディスクドライブは同一のNEC型番のものを使用してください。

1. 146ページを参照して準備をする(ディスクアレイ構成時を除く)。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。
3. ハードディスクドライブを取り付けるスロットを確認する。

   スロットは5つあります。また、SCSI IDはスロットの位置で決まっています。
4. ダミーブロックを取り外す。

   重要

   ダミーブロックは大切に保管しておいてください。

5. ハードディスクドライブのロックを解除する。

6. 増設するハードディスクドライブとハンドルをしっかりと持ってスロットへ挿入する。

重要

- **ハンドルのフックがフレームに当たるまで押し込んでください。**
- **ハードディスクドライブは落としたり、振動や衝撃を与えたりしないようにしっかりとていねいに持ってください。**

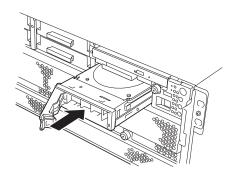
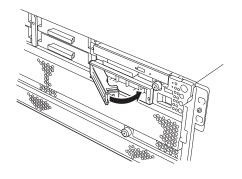
7. ハンドルをゆっくりと閉じる。

「カチッ」と音がしてロックされます。

重要

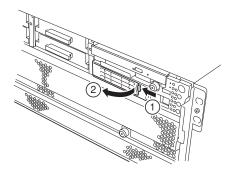
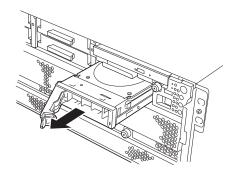
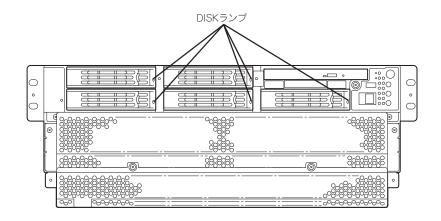
ハンドルとトレーに指を挟まないように注意してください。

ハンドルのフックがフレームに引っ掛かっていることを確認してください。

8. 手順2で取り外したフロントベゼルを取り付ける。

取り外し

次に示す手順でハードディスクドライブを取り外します。ハードディスクドライブを取り外したまま本装置を使用する場合は、空いているスロットにダミーブロックを取り付けてください。

1. システムを終了し、POWERスイッチを押して電源をOFFにする。

2. ハードディスクドライブのロックを解除する。

3. 増設するハードディスクドライブとハンドルをしっかりと持って取り出す。

ハードディスクドライブが故障したためにディスクを取り外す場合は、ハードディスクドライブのDISKランプがアンバー色に点灯しているスロットをあらかじめ確認してください。

ディスクアレイ構成の場合、故障したハードディスクドライブの交換後、交換した新しいディスクに交換前までの情報を記録することにより、故障を起こす以前の状態に戻すことのできるオートリビルド機能を使用することができます。オートリビルド機能は、RAIDレベルによって有効/無効となる場合があります。

オートリビルドは、故障したハードディスクドライブをホットスワップ(電源ONの状態でのディスクの交換)するだけで自動的に行われます。オートリビルドを行っている間、ハードディスクドライブにあるDISKランプが緑色とアンバー色に交互に点灯してオートリビルドを行っていることを示します。

重要

オートリビルドに失敗すると、ハードディスクドライブにあるDISKランプがアンバー色に点灯します。もう一度ディスクの取り外し/取り付けを行ってオートリビルドを実行してください(ディスクアレイ監視ユーティリティをインストールしている場合は、ユーティリティから確認してみてください)。

オートリビルドを行うときは、次の注意を守ってください。

- ハードディスクドライブが故障してから、オートリビルドを終了するまで本装置の電源をOFFにしないでください。
- ハードディスクドライブの取り外し/取り付けは、90秒以上の間隔をあけて行ってください。
- 他にリビルド中のハードディスクドライブがある場合は、ディスクの交換を行わないでください(リビルド中はハードディスクドライブにあるDISKランプが緑色とアンバー色に交互に点灯しています)。

電源ユニット

電源ユニットを増設して、3台の電源ユニットで動作させていると、万一電源ユニット(1台)が故障してもシステムを停止することなく運用することができます(冗長機能)。
また更に1台の電源ユニットを追加し合計4台の電源ユニットを使用した場合、電源ユニット2台ごとにAC電源供給ラインを分けることにより、万一AC電源供給ラインの一方が故障しても、システムを停止することなく運用することができます(AC冗長機能)。

- 電源ユニットが2台で稼動中のところにもう1台追加すると、OSのシステムイベントログに「電源回復」を示すログとともに、「電源縮退」を示すログが表示されることがあります。これは冗長構成ではあるが最大構成ではないことを意味します。
- 電源コードを接続後、すぐにその電源ユニットから電源コードを取り外すと、OSのイベントログには「電源回復」を示すログのみが表示され、「電源縮退」のログは表示されない場合があります。

取り付け

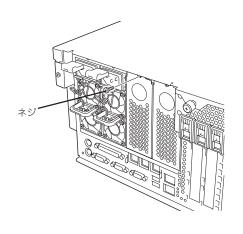
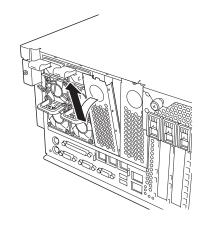
次の手順に従って電源ユニットを取り付けます。

1. 146ページを参照して準備をする。
2. ネジを1本外し、ブランクカバーを取り外す。

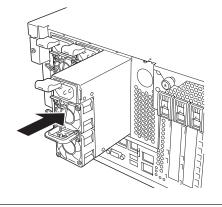
重要

取り外したブランクカバーは大切に保管しておいてください。

3. 電源ユニットを差し込む。

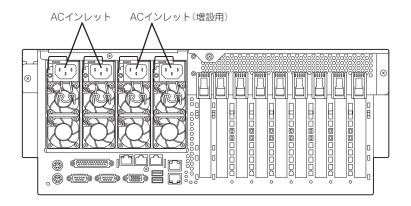
重要

電源ユニットはまっすぐに差し込んでください。差し込んでいる途中でななめにしたり、上下左右に力を加えたりすると、電源ユニットと内部の接続コネクタを破損するおそれがあります。

チェック

奥まで確実に差し込まれていることを確認してください。

4. ACインレットに電源コードを接続する。

標準で添付されていたものと増設した電源ユニットに添付されていたコードを使います。

重要

増設用電源スロットにはブランクカバーが取り付けられています。取り外したブランクカバーは大切に保管しておいてください。

5. 本装置の電源をONにする。

各電源ユニットのPOWERランプが点灯します。

6. STATUSランプやPOSTで電源ユニットに関するエラー表示がないことを確認する。

エラー表示の詳細については128ページを参照してください。
また、電源ユニットのPOWERランプが消灯している場合は、もう一度電源ユニットを取り付け直してください。それでも同じ表示が出たときは保守サービス会社に連絡してください。

故障した電源ユニットの交換

交換は電源ユニットが故障したときのみ行います。

正常に動作している電源ユニットを取り外さないでください。

ヒント

本装置に3台または4台の電源ユニットが取り付けられていて、その内の2台が正常に動作(電源ユニットのPOWERランプ点灯)している場合は、システム稼働中(電源ONの状態)でも故障した電源ユニットを交換できます(次の手順2をとばしてください)。

1. 背面にある電源ユニットのPOWERランプの表示で故障している電源ユニットを確認する。

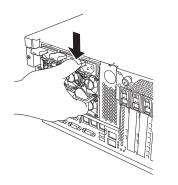
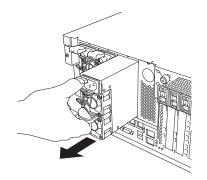
   POWERランプが消灯している電源ユニットが故障しています。

2. システムを終了し、POWERスイッチを押して電源をOFFにする。

3. 電源コードを取り外す。

4. 電源ユニットのロックタブを押さえながら、ハンドルを持ってゆっくりと手前に引き取り外す。

   重要

   電源ユニットはまっすぐに引き出してください。引き出す途中でななめにしたり、上下左右に力を加えたりすると、電源ユニットと内部の接続コネクタを破損するおそれがあります。

5. 電源ユニットを交換せず2台の電源ユニットで運用する場合は、「取り付け」の手順2で取り外したブランクカバーを取り付ける。

   重要

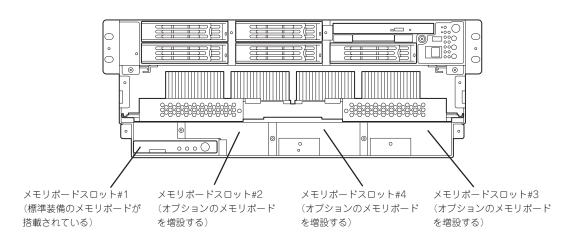
   本装置内部の冷却効果を保持するためにも電源ユニットを取り付けていないスロットにはブランクカバーを取り付けてください。

6. 「取り付け」の手順3～6の手順を参照して電源ユニットを取り付け、取り付け後の確認をする。

   ヒント

   3台または4台の電源ユニットで動作していた本装置の電源ユニットを電源ONのまま交換したときは、電源ユニットのPOWERランプが点灯します(運用を停止している間に交換したときは電源コードを接続し、電源をONにすると点灯します)。

メモリボード

メモリ(DIMM)を増設または交換するときにメモリボードを取り外します。本装置は標準で1枚のメモリボードを搭載しております。本装置は標準のメモリボードを含め最大4枚まで増設可能です。このことにより、システムとして最大32GBのメモリを搭載することが可能となります。
故障したDIMMやメモリボードを交換する場合、メモリがあらかじめ冗長構成に設定されていれば、メモリボードはホットスワップ(電源ONの状態での交換)で交換することができます。(メモリボードのホットスワップの手順については、この後のDIMMのメモリホットプラグ機能 1 およびメモリホットプラグ機能 2 を参照してください。)

* メモリボードはスロット#1→#2→#3→#4の順に増設します。

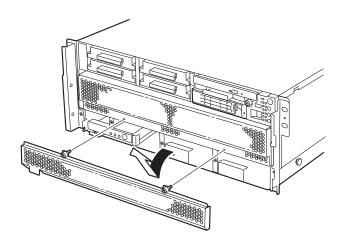
取り外し

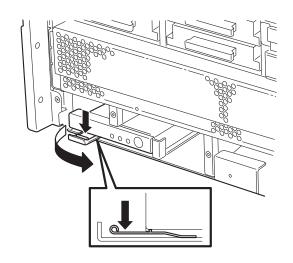
次の手順に従ってメモリボードを取り外します。

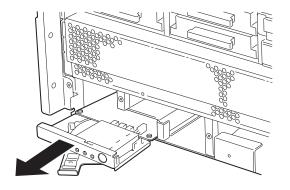
重要

- **メモリボードは大変静電気に弱い電子部品です。装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、ボードの端子部分や部品を素手で触ったり、ボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は146ページで詳しく説明しています。**
- **メモリボード通電中はとても熱くなりますので、取り外しの際には電源をオフした後、数分待ってから行ってください。**

1. 146ページを参照して準備をする。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り出す。

3. ネジ2本を外し、本装置前面のメモリスロットカバーを取り外す。

4. ロックを解除しイジェクタを開く。

重要

メモリボードは通電中とても熱くなっています。
電源をオフした後、数分待ってから引き抜いてください。
特にホットプラグの場合には、ロック解除(メモリボードPOWERランプが消灯する)によりメモリボードの電源がオフされますので、この状態で数分お待ちください。

5. イジェクタを持ち、本装置からメモリボードを引き抜く。

6. メモリボードを以下の条件を満たす場所にていねいに置く。

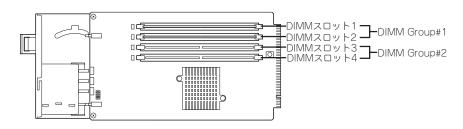
 − ほこりの少ない場所
 − 水などの液体がかかるおそれのない場所
 − 静電気や磁気が発生するおそれのない場所

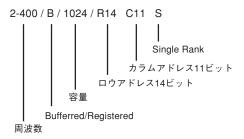
取り付け

取り付けは「取り外し」の逆を行ってください。

DIMM

DIMM(Dual Inline Memory Module)は、本装置に取り付けられているメモリボード上のDIMMソケットに取り付けます。
DIMMは2枚単位でDIMM番号の小さい順に取り付けます。

メモリは最大8GB(2GB×4枚)まで増設できます。

* DIMMボードの仕様は、DIMMボードに貼ってあるラベルに下記の内容で表示されています。

(例) 400MHz・Buffered・1GB・ロウアドレス14ビット・カラムアドレス11ビット・Single Rankの場合

DIMMボードに貼ってあるラベルの最後尾に印字されているのが、Single RankとDual Rankを示す記号になります。"S"はSingle Rankで"D"はDual Rankの意味を持ちます。同一メモリボード内でSingle RankとDual Rankを混在して実装する場合は、DIMM Group#1<DIMMスロット1,2>に必ずDual RankのDIMMを実装してください。
正しく実装しないとシステムが正常に立ち上がりません。

取り付け

次の手順に従ってDIMMを取り付けます。

重要

- DIMMは大変静電気に弱い電子部品です。本装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、ボードの端子部分や部品を素手で触ったり、ボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は146ページで詳しく説明しています。
- NECで指定していないDIMMを使用しないでください。サードパーティのDIMMなどを取り付けると、DIMMだけでなく本装置が故障するおそれがあります。また、これらの製品が原因となった故障や破損についての修理は保証期間中でも有料となります。
- インタリーブ装置であるため、グループ単位に2枚のDIMMボードを増設してください。1つのグループ内に異なった仕様*のDIMMボードを実装すると動作しません。
- 増設メモリスロットには、ブランクカバーが取り付けてあります。メモリボードを増設する際に取り外したブランクカバーは大切に保管してください。

* DIMMボードの仕様は、DIMMボードに貼ってあるラベルに下記の内容で表示されています。

（例）　400MHz・Bufferred・1GB・ロウアドレス14ビット・カラムアドレス11ビット・Single Rankの場合

2-400 / B / 1024 / R14　C11　S

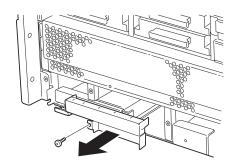
1. 146ページを参照して準備をする。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。
3. メモリスロットカバーを外し、DIMMを取り付けるメモリボードを取り外す（155ページ参照）。

ヒント

メモリボードを増設する場合は、ネジ1本を外して増設のスロットのブランクカバーを取り外します。

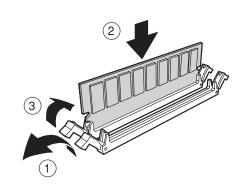
重要

取り外したブランクカバーは大切に保管しておいてください。

4. DIMMを取り付けるソケットを確認する。

5. DIMMを取り付けるソケット両側にあるレバーをいっぱいに開き(①)、ソケットカバーを取り外す。

重要

- **レバーに過度の力を加えないよう注意してください。**
- **取り外したソケットカバーは大切に保管しておいてください。**

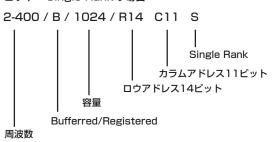
6. DIMMをソケットにまっすぐ押し込む(②)。

チェック

DIMMの向きに注意してください。DIMMの端子側には誤挿入を防止するための切り欠きがあります。

DIMMがDIMMソケットに差し込まれるとレバーが自動的に閉じます。レバーを内側に押して完全に閉じてください(③)。

重要

DIMMは2枚1組で取り付けてください。また同一仕様のメモリセットを使用してください。メモリの仕様はメモリに貼付けされているラベルに以下の内容で表示されています。

(例)　400MHz・Bufferred・1GB・ロウアドレス14ビット・カラムアドレス11ビット・Single Rankの場合

7. メモリボードを本装置のスロットに取り付け直す。

8. メモリスロットカバー、フロントベゼルを取り付け直す。

9. 本装置の電源をONにしてPOSTエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

   エラーメッセージが表示された場合は、メッセージをメモした後、128ページのエラーメッセージ一覧を参照してください。

10. SETUPを起動して「Advanced」—「Memory Configuration」の順でメニューを選択し、増設したDIMM Groupのステータス表示が「Normal」になっていることを確認する(219ページ参照)。

11. 「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

    ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは218ページをご覧ください。

12. Windows Server 2003またはWindows 2000を使用している場合は、ページングファイルサイズを推奨値以上(搭載メモリx1.5)に設定する。

    Windows Server 2003の場合は28ページ、Windows 2000の場合は、56ページを参照してください。

取り外し

次の手順に従ってDIMMを取り外します。

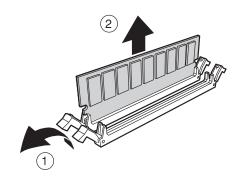
プロセッサボードは大変静電気に弱い電子部品です。本装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、ボードの端子部分や部品を素手で触ったり、ボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は146ページで詳しく説明しています。

故障したDIMMを取り外す場合は、POSTやESMPROで表示されるエラーメッセージを確認して、取り付けているDIMMソケット（グループ）を確認してください。

1. 146ページを参照して準備をする。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。
3. メモリスロットカバーを外し、取り外したいDIMMが実装されているメモリボードを取り外す（155ページ参照）。

   ヒント

   DIMMが故障した場合、そのDIMMに実装されているメモリボードのエラーランプが点灯します。
4. 取り外すDIMMのソケットの両側にあるレバーを左右にひろげる（①）。

   ロックが解除されDIMMを取り外せます（②）。

5. DIMMを取り外したソケットにカバーを取り付ける。
6. メモリボードを取り付ける。
7. メモリスロットカバー、フロントベゼルを取り付け直す。
8. 本装置の電源をONにしてPOSTでエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

   エラーメッセージが表示された場合は、メッセージをメモした後、128ページのエラーメッセージ一覧を参照してください。
9. SETUPを起動して「Advanced」ー「Memory Configuration」ー「Memory Retest」の順でメニューを選択し、取り外したDIMM Groupのエラー情報をクリアする（219ページ参照）。

   また、「Server」→「Clear FRU LED」→「Yes」でDIMMエラー関連のLEDをクリアします。（232ページ参照）
10. 「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

    ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは218ページをご覧ください。

メモリミラーリング機能/メモリRAID機能

本装置では、「メモリミラーリング機能」、「メモリRAID機能」をサポートしています。
これらの機能を使用する場合には、環境が構築できる構成にて、BIOSセットアップよりサポートする機能を選択します。

● メモリミラーリング機能を有効にする方法

メモリミラーリング機能とは、1つのメモリボードを予備として待機させることにより、運用しているメモリボードで訂正不可能なエラーが発生した場合、待機させているメモリボードに運用を切りかえる機能です。この機能を使用する場合には、運用/待機するメモリボードを組み合わせます。
メモリボード1とメモリボード2を実装してミラーリングするか、あるいはメモリボードを4枚実装し、メモリボード1と2の組み合わせ、メモリボード3と4の組み合わせでミラーリングする設定が可能です。
メモリミラーリング機能を有効にするためには、組み合わせた各メモリボードを同じ容量のDIMMで構成を合わせる必要があります。

次に取り付け時の組み合わせパターンの例を示します。

	メモリボード1	メモリボード2	メモリボード3	メモリボード4
A)	2GB(1GB×2枚)	2GB(1GB×2枚)	2GB(1GB×2枚)	2GB(1GB×2枚)
B)	8GB(2GB×4枚)	8GB(2GB×4枚)	8GB(2GB×4枚)	8GB(2GB×4枚)
C)	4GB(1GB×4枚)	4GB(1GB×4枚)	ー	ー

● メモリRAID機能を有効にする方法

メモリRAID機能とは、4枚のメモリボードの内1枚で故障などの訂正不可能なエラーが発生した場合、他のメモリボードに切り替えて運用する機能です。
この機能を使用する場合には、4枚のメモリボードが必要です。
メモリRAID機能を有効にするためには、各メモリボードを同じ容量のDIMMで合わせる必要があります。

次に取り付け時の組み合わせパターンの例を示します。

	メモリボード1	メモリボード2	メモリボード3	メモリボード4
A)	2GB(1GB×2枚)	2GB(1GB×2枚)	2GB(1GB×2枚)	2GB(1GB×2枚)
B)	8GB(2GB×4枚)	8GB(2GB×4枚)	8GB(2GB×4枚)	8GB(2GB×4枚)
C)	4GB(1GB×4枚)	4GB(1GB×4枚)	4GB(1GB×4枚)	4GB(1GB×4枚)

● BIOSの設定

SETUPを起動して「Advanced」ー「Memory Configuration」ー「Memory RAS Feature」の設定を以下のように変更します。

ー　メモリミラーリング機能を有効にする場合：「Mirror」を選択します。

ー　メモリRAID機能を有効にする場合：「Raid」を選択します。

● **その他**

- OSにおいて表示されるメモリ容量は、物理的に搭載されているすべてのメモリ容量から待機しているメモリ容量を差し引いたサイズとなります。(メモリミラーリング機能の場合は実メモリの半分。メモリRAID機能の場合は実メモリの3/4の容量。)
- メモリミラーリング機能またはメモリRAID機能が有効となっていてもアプリケーションの動作には影響ありません。
- ディスプレイに以下のエラーメッセージが表示された場合は、メモリミラーリング機能は自動的に無効となります。

  ```
  8201    Mirroring Memory was not ready.
  ```

  DIMMの実装状態を確認して正しく実装してください。
- ディスプレイに以下のエラーメッセージが表示された場合は、メモリRAID機能は自動的に無効となります。

  ```
  8202    Memory RAID was not ready.
  ```

  DIMMの実装状態を確認して正しく実装してください。

実際にメモリミラーリング機能またはメモリRAID機能が動作した場合、以下の動作・表示により確認ができます。

a) 本装置前面のメモリボードのRedundancyランプが緑色に点灯します。

b) 再起動時において、エラーしたDIMMグループは縮退されます。

c) ESMPRO/ServerAgentがインストールされている場合はイベントビューアのシステムログに以下のログが登録されます。

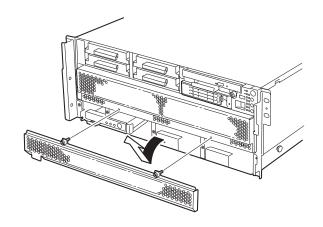
ソース名:　ESMCommonService
イベントID:　2313
説明:　メモリ障害によりDIMMの一部が切り離されました。
メモリ番号:　XX
日時:　XX

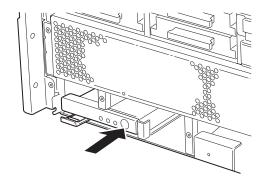
d) ESMPRO/ServerAgentにて通報設定がされている場合はManager通報/ALIVE通報が行われます。通報内容は以下のとおりです。

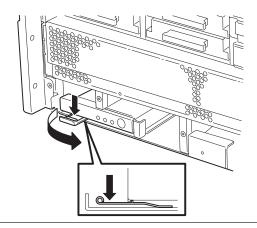
説明:　メモリ障害によりDIMMの一部が切り離されました。
メモリ番号:　XX
日時:　XX

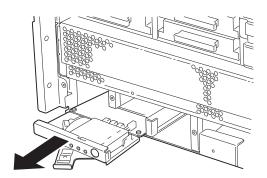
メモリホットプラグ機能1(Hot Replace)

メモリミラーリング構成およびメモリRAID構成のように冗長構成になっていれば、オペレーティングシステムが動作中でもメモリボードを取り外すことができます。

1. 146ページを参照して準備をする。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り出す。
3. ネジ2本を外し、本装置前面のメモリスロットカバーを取り外す。

4. 取り外したいメモリボードのAttentionスイッチを押す。

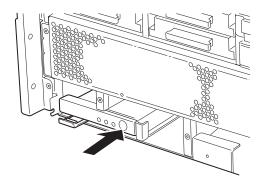
   そのメモリボードのPOWERランプとRedundancyランプが消灯します。

5. メモリボードPOWERランプとRedundancyランプが消灯してからメモリボードを取り外す。

重要

メモリボードは通電中とても熱くなっています。
電源をオフした後、数分待ってから引き抜いてください。
特にホットプラグの場合には、ロック解除(LEDが消灯する)によりメモリボードの電源がオフされますので、この状態で数分お待ちください。

6. イジェクタを持ち、本装置からメモリボードを引き抜く。

7. 再び冗長構成にするには、メモリボードを冗長可能な構成で、取り外しの逆の手順で実装し、メモリボードAttentionスイッチを押す。

   メモリボードPOWERランプが点滅し、しばらくすると点灯に変わります。
   また、メモリボードRedundancyランプも点灯します。

重要

再度冗長構成にする場合は、必ず冗長可能な構成にして挿してください。

8. 取り外しと逆の手順でメモリボードを取り付ける。

   以上でメモリボードのHot Replaceは完了します。

メモリホットプラグ機能2(Hot Addメモリ機能)

Windows Server 2003 Enterprise Editionにおいて、Hot-Addメモリ機能を使用することができます。システムをシャットダウンすることなく、物理メモリを追加することができます。

Hot-Addメモリ機能を使用する際は、下記のBIOS設定が必要です。

- **BIOSの設定**

  SETUPを起動して「Advanced」ー「Memory Configuration」ー「Memory RAS Feature」の設定を以下のように変更します。

  ー Normal ModeでのHot-Addメモリ機能:「Normal」に設定する

  ー Mirror ModeでのHot-Addメモリ機能:「Mirror」に設定する

  重要

  「Mirror」に設定する場合は、既にメモリボード1とメモリボード2でメモリミラー構成を構築してある必要があります。
  この場合、メモリホットプラグはメモリボード3とメモリボード4に対して行います。
  (メモリボード3とメモリボード4の各組み合わせもメモリミラーリング機能ができるように構成する必要があります)
  また、「Advanced」ー「Memory Configuration」ー「Hot-add Memory Support」を「Enable」に設定する必要があります。

- **Normal ModeでのHot-Addメモリ機能**

  標準構成のメモリボード1が実装された状態で、オペレーティングシステムを起動した場合、DIMMが実装されたメモリボードを、メモリボード2,3,4に追加することで、物理メモリを増やすことができます。メモリボードを取り付ける手順については、メモリホットプラグ機能1で説明した手順を参照してください。

  例えば、メモリボード2のスロットにメモリボード挿入し、そのボードのAttentionスイッチを押すと、POWERランプが点滅し、メモリの初期化処理が開始されます。
  POWERランプが点滅から点灯に変わると、オペレーティングシステムに対してメモリが追加されたことが通知されます。
  オペレーティングシステム上で処理が行われ、しばらくするとタスクマネージャのパフォーマンス表示等で物理メモリが追加されたことが確認できます。

  同様の手順で、メモリボード3、4とさらにメモリボードを追加することができます。

- **Mirror ModeでのHot-Addメモリ機能**

  メモリボード1,2でメモリミラー機能が使用できる構成で、メモリボード3とメモリボード4を追加します。
  メモリボード3,4もメモリミラー機能が使用できる構成にする必要があります。
  メモリボードを取り付ける手順については、メモリホットプラグ機能１で説明した手順を参照してください。

  Normal Modeとの違いは、メモリボード3のみにメモリボードを追加しただけでは、変化はありません。
  更にメモリボード4を追加されたことによりメモリミラー構成が構成され、初めてオペレーティングシステムに対し通知が行われます。
  Normal Modeと同様にオペレーティングシステム上で処理が行われ、しばらくするとタスクマネージャのパフォーマンス表示等で物理メモリが追加されたことが確認できます。メモリミラー構成のため、追加した物理メモリの容量の半分の容量が追加されたことが確認できます。

  メモリミラー構成であれば、Hot-Addメモリ機能で追加したメモリボードもHot Replaceが可能になります。

- **メモリをHot-Addした場合のESMPRO画面への反映について**

  Hot-Add機能を使用して動的にメモリボードを追加した場合、ESMPRO/ServerManager のデータビューアで[ハードウェア]ー[メモリバンク]ー[X]メモリバンクの[モジュールサイズ]にて、構成変更後のメモリサイズは反映されませんが、ご使用上は問題ありません。
  （※Xは動的に抜き差ししたメモリバンクの番号になります。）
  システム再起動後、メモリサイズは正しく反映されます。

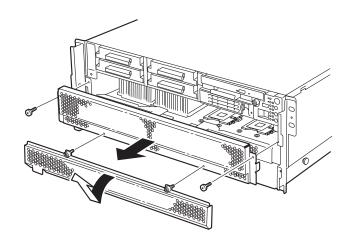
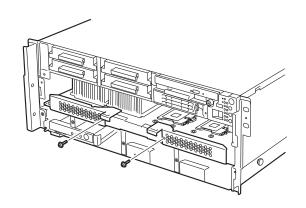
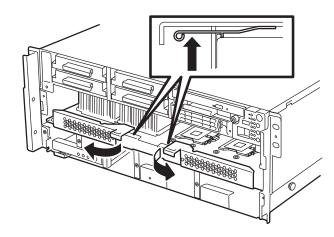
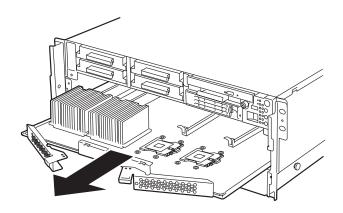
プロセッサボード

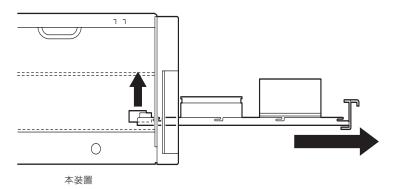
プロセッサを増設または交換するときにプロセッサボードを取り外します。

取り外し

次の手順に従ってプロセッサボードを取り外します。

プロセッサボードは大変静電気に弱い電子部品です。本装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、ボードの端子部分や部品を素手で触ったり、ボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は146ページで詳しく説明しています。

1. 146ページを参照して準備をする。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。
3. メモリボードスロットカバーを取り外す。
4. ネジを2本を外して、プロセッサボードカバーを取り外す。

5. イジェクタを固定しているネジ2本を外す。

6. ロックを解除し、左右のイジェクタを開く。

7. プロセッサボードをしっかりと持って本装置から引き抜く。

重要

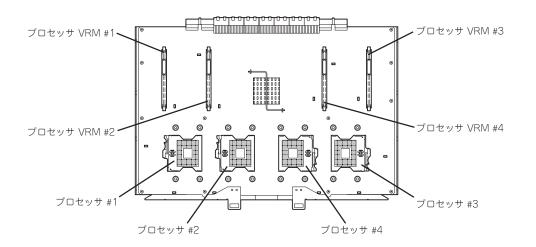
- プロセッサボードの重量は最大約7Kgあります。
  取り付け/取り外しの際には、落としてけがをしないようご注意ください。
- 取り外す際にコネクタを筐体にぶつけないようにご注意ください。
  下図の様に、途中まで引き出したら奥を持ち上げ気味にしながら抜くとコネクタを筐体にぶつけずに取り外すことができます。

8. プロセッサボードを以下の条件を満たす場所にていねいに置く。

- ほこりの少ない場所
- 水などの液体がかかるおそれのない場所
- 静電気や磁気が発生するおそれのない場所

取り付け

取り付けは「取り外し」の逆を行ってください。

プロセッサ

プロセッサボードには、プロセッサと、それに対応するVRMをそれぞれ4つ搭載することができるソケットがあります(標準で1つ搭載)。

増設できるプロセッサの種類はモデルにより異なります。
必ず各モデルに対応した型番のプロセッサを取り付けてください。

本装置がN8100-1034の場合、N8101-304増設プロセッサボードを本装置がN8100-1035の場合、N8101-305増設プロセッサボードを本装置がN8100-1065の場合、N8101-312増設プロセッサボードを本装置がN8100-1149の場合、N8101-329増設プロセッサボードを使用します。

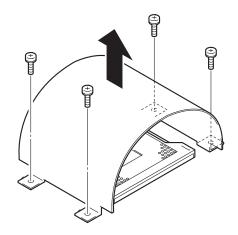
オプションのプロセッサの中には異なるレビジョン(ステッピング)のものが含まれている場合があります。異なるレビジョンのプロセッサを混在して取り付けた場合、Windowsではイベントビューアのシステムログに以下のようなログが表示されますが、動作には問題ありません。

取り付け

次の手順に従ってプロセッサを取り付けます。

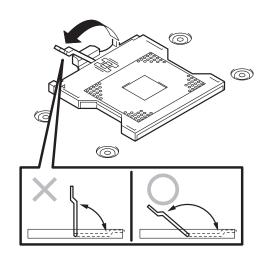
重要

- **プロセッサは大変静電気に弱い電子部品です。本装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからプロセッサを取り扱ってください。また、プロセッサのピンを素手で触ったり、プロセッサを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は146ページで詳しく説明しています。**
- **1個のプロセッサで運用する場合は、前ページの図のプロセッサ #1に取り付けていなければいけません。**
- **プロセッサの増設は前ページの図のとおりプロセッサ #1,#2,#3,#4の順に行います。**
- **プロセッサが取り付けられていないスロットおよび、VRMが取り付けられていないソケットには、ダミーカバーが取り付けられています。これらは適切なエアフローを確保し、プロセッサの冷却効果を高めたり、防塵のために必要な部材です。プロセッサを増設しない場合は、必ずダミーカバーを取り付けてください。**

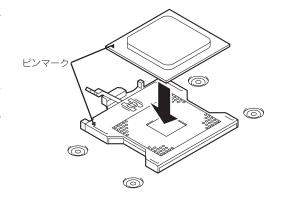
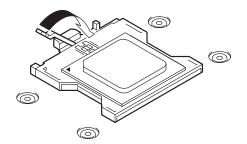
1. 146ページを参照して準備をする。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。
3. メモリスロットカバーを取り外す。
4. プロセッサスロットカバーを取り外す。
5. プロセッサボードを取り外す。
6. プロセッサを取り付けるソケットの位置を確認し、ネジ4本を外してソケットからダミーカバーを取り外す。

7. ソケットの表面に貼ってある保護カバーを取り外す。

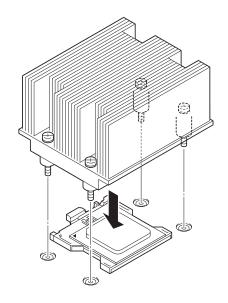
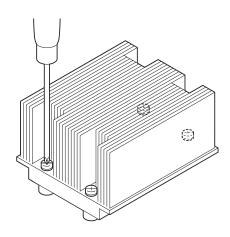
8. ソケットのレバーを持ち上げる。

重要

レバーは止まるまで完全に開いてください。レバーは120度以上開きます。

9. プロセッサをソケットの上にていねいにゆっくりと置く。

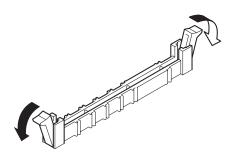
チェック

プロセッサの向きに注意してください。プロセッサとソケットは誤挿入を防止するためにピンマークがあります。プロセッサとソケット側のピンマークを確認して正しく取り付けてください。

10. プロセッサを軽くソケットに押しつけてからレバーを倒して固定する。

11. ヒートシンクをプロセッサの上に静かに置く。

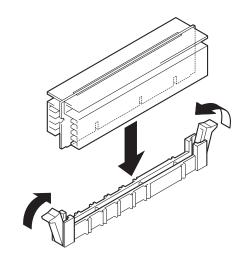
ヒートシンクの向きは、前後の区別はありません。

12. ヒートシンクに付いているネジ4か所を締め、ヒートシンクを固定する。

13. ヒートシンクがプロセッサボードと水平に取り付けられていることを確認する。

重要

斜めに傾いているときは、いったんヒートシンクを取り外し、プロセッサの取り付け状態を確認してください。

14. 取り付けたプロセッサに対応したVRMソケットの両側にあるレバーをいっぱいに開き、ダミーカバーを取り外す。

15. VRMをソケットにまっすぐ押し込む。

VRMがソケットに差し込まれるとレバーが自動的に閉じます。レバーを内側に押して完全に閉じてください。

VRMの向きに注意してください。VRMの端子側には誤挿入を防止するための切り欠きがあります。

16. プロセッサボード、プロセッサボードカバー、メモリボードカバーを取り付け直す。

17. BIOSセットアップユーティリティを起動して「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは218ページをご覧ください。

18. Windows Server 2003/Windows 2000で1プロセッサ構成の本装置にプロセッサを増設し、2つ以上のプロセッサで運用する場合は以下の手順を行う。

デバイスマネージャの「コンピュータ」のドライバが「ACPIシングルプロセッサPC」になっている場合は「ACPIマルチプロセッサPC」に変更し、メッセージに従って再起動後、システムのアップデート(49ページまたは74ページ)を行います。

取り外し

プロセッサを取り外すときは、「取り付け」の手順1～5を参照して取り外しの準備をした後、手順8～12の逆の手順を行ってください。

重要

- **プロセッサを故障以外で取り外さないでください。**
- **プロセッサが取り付けられていないスロットには、ダミーカバーが取り付けられています。ダミーカバーはプロセッサの冷却効果を高めるための適切なエアフローを起こすために必要な部材です。プロセッサを増設しない場合は、必ずダミーカバーを取り付けてください。**
- **運用後は熱によってヒートシンクの底面にあるクールシートがプロセッサに粘着している場合があります。ヒートシンクを取り外す際は、左右に軽く回して、ヒートシンクがプロセッサから離れたことを確認してから行ってください。プロセッサに粘着したままヒートシンクを取り外すとプロセッサやソケットを破損するおそれがあります。**

プロセッサの取り外し(または交換)後に次の手順を行ってください。
BIOSセットアップを起動して下記の設定をした後、再起動してください。
取り外したプロセッサのエラー情報をクリアするとともにハードウェアの構成情報を更新するためです。

「Main」ー「Processor Settings」ー「Processor Retest」ー「Yes」(216ページ参照)
「Advanced」ー「Reset Configuration Data」ー「Yes」(218ページ参照)
「Server」ー「Clear FRU LED」ー「Yes」(232ページ参照)

3.5インチデバイス

BTO(Build To Order)にて、N8154-07増設用HDDケージ(3.5"ベイ付)の組み込みを指定して、本装置をご購入になった場合、磁気テープドライブなどのバックアップデバイスを取り付けるスロットが1つ用意されています。
N8154-07増設用(3.5"ベイ付)は工場組み込みオプション製品です。お客様が別途購入することはできません。

搭載デバイスについて

3.5インチデバイスには、シングルハイトのSCSIデバイスを搭載することができます。

● **SCSI IDの設定**

SCSIコントローラに添付されている説明書を参照してください。

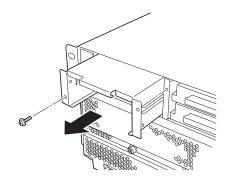
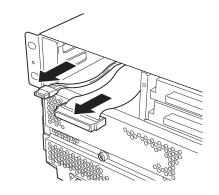
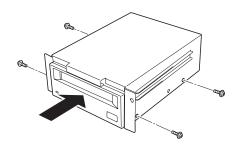
－ **SCSIデバイスの終端設定**

終端設定は「無効」に設定してください。

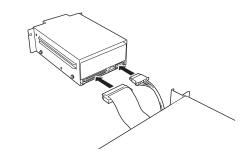
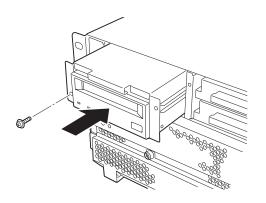
重要
テープデバイスをOn-Board SCSIに接続することは出来ません。
オプションのSCSIコントローラに接続して使用してください。

取り付け

次に示す手順で3.5インチデバイスを取り付けます。

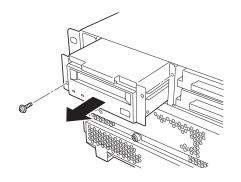
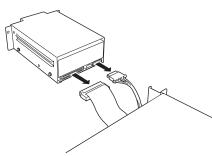
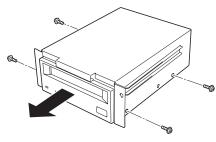
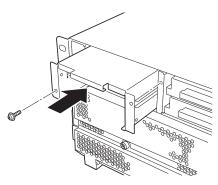
1. 146ページを参照して準備をする。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。
3. ネジ1本を外して、増設用トレーを取り外す。

4. 3.5インチデバイスベイ内にフォーミングされているSCSIケーブルと電源ケーブルを本装置外部に引き出す。

5. 3.5インチデバイスに添付のネジ4本で、デバイスを増設用トレーに取り付ける。

6. SCSIケーブルと、電源ケーブルからコネクタカバーを取り外し、ケーブルをデバイスに接続する。

重要

取り外したコネクタカバーは大切に保管してください。

7. デバイスを3.5インチデバイスベイ内に差し込み、ネジ1本で固定する。

8. フロントベゼルを取り付ける。

取り外し

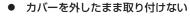
次に示す手順で3.5インチデバイスを取り外します。

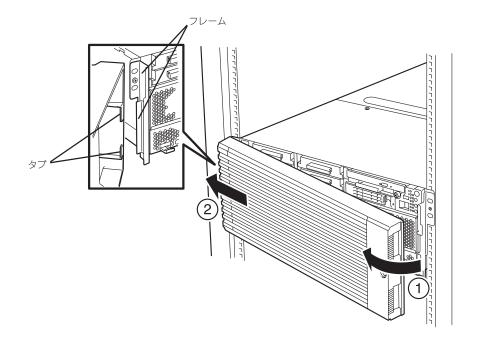
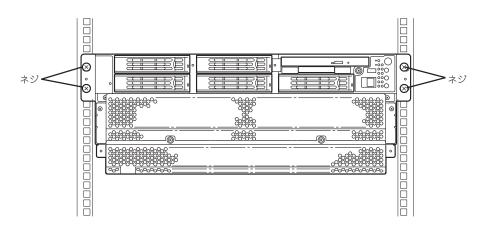
1. システムを終了し、POWERスイッチを押して電源をOFFにする。
2. 146ページを参照して準備をする。
3. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り出す。
4. ネジ1本を外して、デバイスをトレーごと3.5インチデバイスベイから引き出す。

5. SCSIケーブルと、電源ケーブルをデバイスから取り外し、ケーブルのコネクタにコネクタカバーを取り付ける。

6. 増設用トレーからデバイスを取り外す。

7. 増設用トレーを3.5インチデバイス内に差し込み、ネジ1本で固定する。

8. フロントベゼルを取り付ける。

本装置のラックからの引き出し

その他の部品の取り付け/取り外しの作業は本装置をラックから引き出した状態で行います。

⚠ 注意

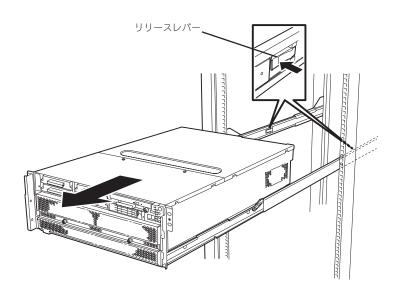
本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- カバーを外したまま取り付けない
- 指を挟まない
- 高温注意
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない

1. 146ページを参照して準備をする。
2. フロントベゼルを取り外す。

3. 前面のネジ4本をゆるめる。

4. リリースレバーを押しながらゆっくりと静かにラックから引き出す。

「カチッ」と音がしてラッチされます。

ラックへ戻す場合は、本装置側面のレールにあるリリースレバーを押して、ラッチされた状態を解除してください。このときに指を挟んだりしないよう十分に注意してください。

重要

リリースレバーはドライバなどを使って押してください。指で押すと指を挟んでけがをするおそれがあります。

リアアクセスカバー

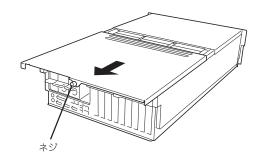
PCIボードの取り付け/取り外しや、内部のSCSIケーブルの接続を変更する場合は、本装置背面側にあるリアアクセスカバーを取り外します。

⚠ 注意

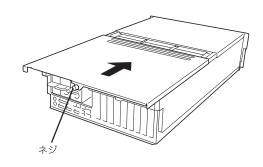
本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **電源をONにしたままリアアクセスカバーを取り外さない（PCIホットプラグやファンをホットスワップにする場合を除く）**

取り外し

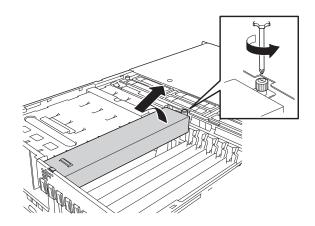
1. 146ページを参照して準備をする。
2. 本装置をラックから引き出す（180ページ参照）。
3. 背面のネジ1本をゆるめる。
4. 本装置背面へスライドさせる。
5. リアアクセスカバーを持ち上げて本装置から取り外す。

取り付け

リアアクセスカバーを取り付ける前に、本装置内部に工具やネジなどを置き忘れていないことや、本装置内部の部品が確実に固定されていること、取り付け忘れの部品がないことなどを確認してください。

1. リアアクセスカバーのタブが本装置フレームにあるスロットに合うように位置を合わせて置く。
2. 軽く本装置に押しつけながら、リアアクセスカバーを本装置前面にスライドさせる。
3. 本装置背面側にあるリアアクセスカバーのネジ1本でカバーを固定する。

PCIアクセスカバー

ホットスワップ未対応のPCIスロットへの取り付け／取り外しをする場合は、本装置内部にあるPCIアクセスカバーを取り外します。ホットスワップ対応のPCIスロットへの取り付け/取り外しの際には取り外す必要はありません。

取り外し

1. 146ページを参照して準備をする。
2. 本装置をラックから引き出す（180ページ参照）。
3. リアアクセスカバーを取り外す（182ページ参照）。
4. PCIアクセスカバーを固定しているネジ1本をゆるめる。
5. ゆるめたネジ側を持って、本装置からゆっくりとていねいに取り出す。

取り付け

次の手順で取り付けます。

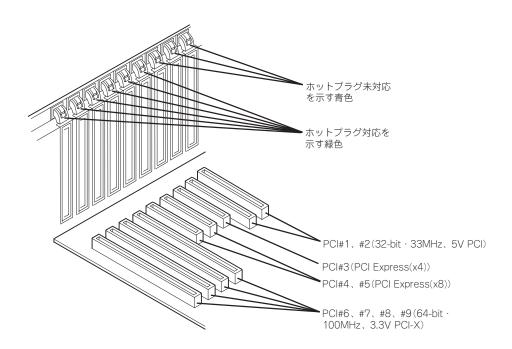
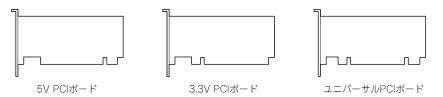
1. PCIアクセスカバーのネジが本装置前面側に向くようにして持つ。
2. PCIアクセスカバーの本装置背面側にあるタブを本装置のスロットに差し込む。
3. ゆっくりとていねいに装置に置き、ネジ1本で本装置に固定する。

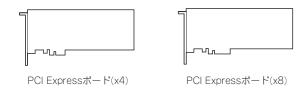
PCIボード

本装置には、PCIボードを取り付けることのできるスロットを6スロット、PCI Expressボードを取り付けることのできるスロットを3スロット用意しています。
PCIボードの中には、本装置の電源がONのままで取り付け/取り外しができる「ホットプラグ」をサポートしているものがあります。本装置はホットプラグ機能をサポートしていますが、Windows Server 2003/Windows 2000を使用している場合のみ行えます。ホットプラグに対応しているボードはN8104-86 100BASE-TX接続ボード、N8104-103 1000BASE-T、N8104-111 1000BASE-TX接続ボードのみです。

PCIボードは大変静電気に弱い電子部品です。本装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからPCIボードを取り扱ってください。また、PCIボードの端子部分や部品を素手で触ったり、PCIボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は146ページで詳しく説明しています。

チェック

ホットプラグに対応したスロットと対応していないスロットはタブで色分けされています。ホットプラグに対応するPCIスロット#4～#9のタブは緑色です。ホットプラグに対 応していないPCIスロット#1～#3のタブは青色です。
PCI Expressボードには、x1,x4,x8,x16のボードがあります。本装置のスロットには、x1,x4,x8のそれぞれのボードを取り付けることができます。

PCIボードには、5V PCIボード、3.3V PCIボード、ユニバーサルPCIボードがあります。5V PCIボードは5V PCIスロットに、3.3V PCIボードは、3.3V PCIスロットにのみ取り付けることができます。ユニバーサルPCIボードはどのPCIスロットにも取り付けることができます。

PCI Expressボードには、x1,x4,x8,x16のボードがあります。本装置ではPCI Express x4およびx8をサポートしております。PCI Express x8のボードはPCI Express x8スロットのみに取り付けることができます。PCI Express x4のボードはPCI Express x4のスロットおよび、PCI Express x8のスロットに取り付けることができます。

ハードウェア編

ディスクアレイコントローラに関する注意事項

標準装備のディスクアレイコントローラ(オンボードRAID機能)または、オプションのディスクアレイコントローラを使用して、本装置のハードディスクドライブをディスクアレイに構築する上で注意していただきたい点について説明します。

- ディスクアレイ構成に変更する場合や、RAIDを変更する場合は、ハードディスクドライブを初期化します。ディスクアレイとして使用するハードディスクドライブに大切なデータがある場合は、バックアップを別のハードディスクドライブにとってからボードの取り付けやディスクアレイの構築を行ってください。
- ディスクアレイを構築するには2台以上のハードディスクドライブが必要です。
- ディスクアレイとして使用するハードディスクドライブはパックごとにディスク回転速度と容量が同じハードディスクドライブを使用してください。
- オプションのディスクアレイコントローラを取り付けられるスロットについては187ページを参照してください。
- オプションのディスクアレイコントローラは本装置内部に最大4枚まで取り付けることができます。
- 本装置はさまざまなRAID(Redundant Arrays of Inexpensive[Independent] Disks)レベルを設定することができます。設定できるRAIDやデータ転送速度、アレイ構成についての詳細な説明は、このあとで説明する「ディスクアレイコンフィグレーション」を参照してください。また、オプションのディスクアレイコントローラについてはボードに添付の説明書を参照してください。

- ディスクアレイを構成すると、ディスクの信頼性が向上するかわりにディスクアレイを構成するハードディスクドライブの総容量に比べ、実際に使用できる容量が小さくなります(RAID 1、5の場合)。
- BIOSユーティリティ「SETUP」の「Advanced」メニューの「PCI Configuration」で取り付けたスロット番号のパラメータの「Option ROM Scan」を「Enabled」に、他のスロットは「Disabled」にしてください(本設定は出荷時に「Enabled」に設定されています)。ディスクアレイコントローラを複数枚搭載した場合は、ブートさせたいボードのスロットのみを「Enabled」にしてください。Embedded SCSIの Option ROM scan は Disableしないでください。
- アレイ環境設定においてパックおよびロジカルドライブを構成するハードディスクドライブの総物理容量は2TB(テラバイト)を超えることはできません。
- 1TB以上のロジカルドライブに、Windows 2000、Linux をインストールすることはできません。
- I/Oボードや、オプションのディスクアレイコントローラボードを交換する場合

  ディスクアレイの構成情報(コンフィグレーション情報)をフロッピーディスクにバックアップして交換後のディスクアレイコントローラにリストアしてください。バックアップやリストアはコンフィグレーションユーティリティを使用します。詳しくは、このあとで説明する「ディスクアレイコンフィグレーション」または、ディスクアレイコントローラに添付の説明書を参照してください。ただし、ディスクアレイコントローラを交換した場合は、ユーティリティを使って新規でコンフィグレーション情報を作成してください。
- 複数のディスクアレイコントローラボードを搭載する場合、ブートさせたいシステムディスクが接続されるディスクアレイコントローラボードはPCIスロット番号でブート優先順位が一番高いスロットに搭載してください。

  ブート優先順位：　PCI #3→PCI #4→PCI #5→PCI #8→PCI #9→PCI #6→PCI #7→PCI #1→PCI #2

  例えば、4枚のディスクアレイコントローラボードをPCIスロット#6～#9に搭載した場合、システムディスクはPCIスロット#8に搭載したボードに接続します。

搭載可能スロット

○: 搭載可能　ー: 搭載不可

型　名	製品名	PCI		PCI Express			PCI-X				備　考
		#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8	#9	
		バスA		バスB	バスC	バスD	バスE		バスF		
		32-bit/33MHz		x4レーン	x8レーン		64-bit/100MHz				
	スロットサイズ	Full-height									
	PCIボードタイプ	5V		x8ソケット			3.3V				
	搭載可能なボードサイズ	ロング/ショート									
	ホットプラグ	未対応			対応						
N8103-65	SCSIコントローラ (32bit/33MHz PCI)	○	○	ー	ー	ー	○	○	○	○	最大6枚まで
N8103-75	SCSIコントローラ (64bit/133MHz PCI-X)	○	○	ー	ー	ー	○	○	○	○	最大6枚まで
N8190-126	Fibre Channelコントローラ (64bit/133MHz PCI-X)	○	○	ー	ー	ー	○	○	○	○	最大2枚まで
N8103-81	ディスクアレイコントローラ (64bit/66MHz PCI)	ー	ー	ー	ー	ー	○	○	○	○	最大4枚まで
N8190-120	Fibre Channelコントローラ (2Gbps/Optical) (64bit/133MHz PCI-X)	ー	ー	ー	ー	ー	○	○	○	○	最大4枚まで
N8190-127	Fibre Channelコントローラ (2Gbps/Optical) (x4/PCI Express)	ー	ー	○	○	○	ー	ー	ー	ー	最大3枚まで
N8104-101	高速回線ボード (32bit/33MHz PCI)	ー	ー	ー	ー	ー	○	○	○	○	最大4枚まで
N8104-102	高速多回線ボード (32bit/33MHz PCI)	ー	ー	ー	ー	ー	○	○	○	○	最大4枚まで
N8104-114	1000BASE-T接続ボード(1ch) (x1/PCI Express)	ー	ー	○	○	○	ー	ー	ー	ー	最大3枚まで
N8104-113	1000BASE-T接続ボード(2ch) (64bit/133MHz PCI-X)	ー	ー	ー	ー	ー	○	○	○	○	PCI-Xバス当たり最大1枚まで
N8104-103	1000BASE-T接続ボード (64bit/133MHz PCI-X)	ー	ー	ー	ー	ー	○	○	○	○	PCI-Xバス当たり最大1枚まで
N8104-111	1000BASE-TX接続ボード (32bit/33MHz PCI)	○	○	ー	ー	ー	○	○	○	○	最大4枚まで
N8104-112	1000BASE-SX接続ボード (64bit/133MHz PCI-X)	ー	ー	ー	ー	ー	○	○	○	○	PCI-Xバス当たり最大1枚まで
N8104-86	100BASE-TX接続ボード (32bit/33MHz PCI)	○	○	ー	ー	ー	○	○	○	○	最大2枚まで
N8104-94	4回線音声・FAX処理ボード (32bit/33MHz PCI)	○	○	ー	ー	ー	○	○	○	ー	最大5枚まで
N8104-95*1	4回線対応音声処理ボード (32bit/33MHz PCI)	○	○	ー	ー	ー	○	○	○	ー	最大5枚まで

*　同一バスに異なる周波数のカードを実装した場合は低い方の周波数で動作します。
*1　5枚以上実装する場合（4枚以内の場合でも隣り合うスロット以外に実装の場合）はCTバス接続ケーブル[K410-109(00)]が必須。（ボード内部のケーブル長は4スロット分）

システムBIOSは下記の順番でPCIスロットの初期化を行います。ただし、搭載するPCIカードの種類や枚数などによって入れ替わる場合もあります。

PCI#3→PCI#4→PCI#5→PCI#8→PCI#9→PCI#6→PCI#7→標準RAIDコントローラ→PCI#1→PCI#2

標準ネットワークについて

標準ネットワーク(オンボード同士)ではAFT/ALBのTeamingを組むことが可能です。しかしながら、標準ネットワークとオプションLANボードで同一のAFT/ALBのTeamingを組むことは不可能です。
標準ネットワーク同士でTeamingを構築している場合、Windows起動時に以下のシステムイベントログが表示されますが、問題なく使用できます。

<警告メッセージ>

ソース　　：iANSMiniport
イベントID：11/13/16/22

イベントログ上、標準ネットワークの2番目のポートが"Intel(R) PRO/1000MT Dual Port Network Connectio..."と表示されますが故障ではありません。

ホットプラグに対応していないPCIボード

ホットプラグに対応していないボードの取り付け・取り外し手順を示します。

取り付け

次の手順に従ってPCIボードスロットに接続するボードの取り付けを行います。

- **PCIボードスロット#6～#9には3.3V PCIボード、およびユニバーサルPCIボードを取り付けることができます。**
- **PCIボードスロット#1～#2には5V PCIボード、およびユニバーサルPCIボードを取り付けることができます。**

- PCIボードを取り付けるときは、ボードの接続部の形状とPCIボードスロットのコネクタ形状が合っていることを確認してください。
- PCIスロットの間には「インシュレータ」が取り付けられています。インシュレータはPCIボードの取り付け/取り外しの際にボードや搭載済みのボードを保護するためのものです。取り付け/取り外しの後にインシュレータを正しく取り付けられていること、および正しく固定されていることを確認してください。

1. 146ページを参照して準備をする。

   重要

   ホットプラグに対応していないボードはシステムの電源をOFFにして取り付けてください。電源がONのまま取り付けると、本装置および取り付けたボードが破損するおそれがあります。

2. 本装置をラックから引き出す（180ページ参照）。

3. リアアクセスカバーを取り外す（182ページ参照）。

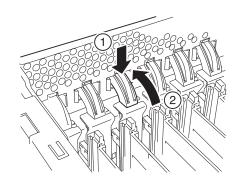
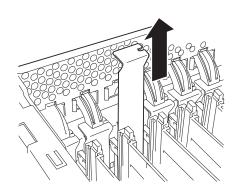
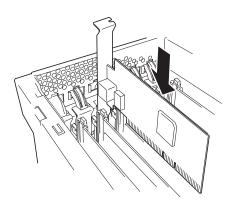
4. ボードを取り付けるスロットを確認する。

5. 取り付けるスロットと同じ位置にある増設スロットカバーの先端にあるタブを押してロックを解除し、タブを開く。

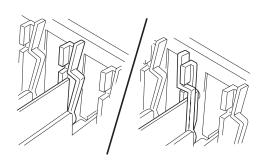
重要

タブを開く際は、閉じた位置から90度以上開かないでください。無理に開くとタブを破損するおそれがあります。

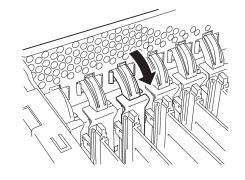
6. 増設スロットカバーを取り外す。

重要

取り外した増設スロットカバーは、大切に保管しておいてください。

7. ガイドレールの溝にボードを合わせてゆっくり本装置内へ差し込む。

8. ボードの接続部分がスロットに確実に接続するようしっかりとボードを押し込む。

> **重要**
>
> **うまくボードを取り付けられないときは、ボードをいったん取り外してから取り付け直してください。ボードに過度の力を加えるとボードを破損するおそれがありますので注意してください。**

> **チェック**
>
> - ロングボードを取り付けた際は、ガイドレール上部のロックでボードを固定してください。
>
>
>
> - PCIスロットの間には「インシュレータ」が取り付けられています。インシュレータはPCIボードの取り付け/取り外しの際にボードや搭載済みのボードを保護するためのものです。取り付け/取り外しの後にインシュレータを正しく取り付けられていること、および正しく固定されていることを確認してください。

9. タブをゆっくりと閉じてボードを固定する。

   また、「Server」→「FRU LED Feature」→「Yes」でDIMM エラー関連のLEDをクリアします。(232ページ参照)

> **チェック**
>
> タブが確実にロックされていないとPCIボードがぐらつき、PCIボードおよびI/Oボードの故障の原因となります。確実にロックされていることを確認してください。

10. 取り外した部品を取り付ける。

11. 本装置の電源をONにしてPOSTの画面でボードに関するエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

    POSTのエラーメッセージの詳細については128ページを参照してください。

12. BIOSセットアップユーティリティを起動して「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

    ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは218ページをご覧ください。

取り外し

ボードの取り外しは、取り付けの逆の手順を行ってください。

ホットプラグに対応しているPCIボードの取り付け・取り外し

本装置のPCIスロット#6～#9では、システムの電源がONのままでホットプラグに対応したPCIボード*を交換したり、新しく追加したりすることができます。

* ホットプラグに対応しているボードはN8104-86 100BASE-TX接続ボード、N8104-103 1000BASE-T接続ボード、N8104-111 1000BASE-TXボードのみです。

PCIホットプラグには、次の機能があります。

- Hot Add: システムの電源がONの状態でホットプラグ対応のPCIボードの取り付けをする。
- Hot Remove: システムの電源がONの状態でホットプラグ対応のPCIボードの取り外しをする。
- Hot Replace: システムの電源がONの状態でホットプラグ対応のPCIボードの交換をする。

重要

- PCIボードを取り外す際は、必ずOS(Windows Server 2003/Windows 2000)からPCIボードを搭載しているスロットのドライバを停止させなければいけません。この操作をしないとシステムが動作しなくなることがあります。
- Windows Server 2003/Windows 2000の場合、PCIホットプラグを行った後に休止状態の機能は使用しないでください。休止状態から再開させる場合に元の状態へ戻らなくなります。
- PCIホットプラグを行う場合は、あらかじめBIOSセットアップユーティリティで以下の設定にしておく必要があります。

  「Advanced」→「PCI Configuration」→「Hot-plug PCI Control」→「Reserving memory space for PHP」→搭載するボードに割り当てるメモリスペースの割合*1

  *1 システムのメモリ容量は、実際に搭載しているメモリ容量よりも少なくなります。
- PCIホットプラグを行う場合は、必ずAdministratorの権限を持つユーザーでログインしてください。
- Hot Addする場合、PCIスロット#6、#7または#8、#9単位であらかじめ設定されているクロックスピードによってHot Addできるボードが異なります。異なるクロックで動作するPCIボードをHot Addすると、PCIスロットFaultランプが点灯し、ホットプラグが正常に行えません。
  ただし、システムを再起動することによりBIOSが設定値を無視して自動的に最適な設定で動作するよう機能します。

Hot AddできるPCIボードの条件

1) 同じバス内にPCIボードが取り付けられていない場合

187ページ「搭載可能スロット」を参照して、PCIカードをHot Addしてください。

2) 同じバス内にPCIボードが取り付けられている場合

同一クロックで動作するPCIボードをHot Addしてください。

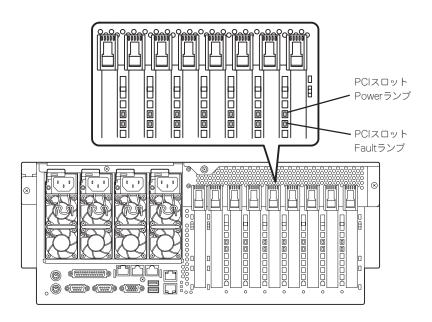
- **ステータスランプの確認**

ホットプラグによるボードの取り付け/取り外しをする場合は、本装置背面にある2つのランプを参照してください(ランプは本装置内部からも確認することができます)。

－ PCIスロットPowerランプ

そのスロットおよびスロットに取り付けられているPCIボードに電力が供給されていることを示すランプです。本装置の電源がONの状態で、ボードが実装されている間、緑色に点灯します。

－ PCIスロットFaultランプ

PCIボードやPCIボードを取り付けたスロットに異常が起きるとアンバー色に点灯します。Hot RemoveやHot Replaceの際にWindows Server 2003/Windows 2000からドライバを停止させると点滅します。

● Hot Add

Hot Addは次の手順で行います。

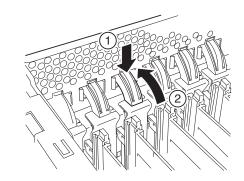
1. 電源がONの状態のまま本装置をラックから引き出す（180ページ参照）。

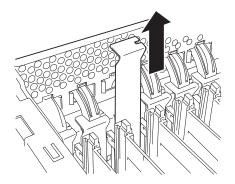
2. リアアクセスカバーを取り外す（182ページ参照）。

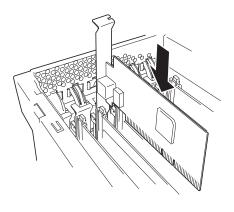
3. ボードを取り付けるスロットを確認する。

> ✔ チェック
>
> ボードを取り付けるスロットのPCIスロットPowerランプが点灯していないことを確認してください。

4. 取り付けるスロットと同じ位置にある増設スロットカバーの先端にあるタブを押してロックを解除し、タブを開く。

> 重要
>
> **タブを開く際は、閉じた位置から90度以上開かないでください。無理に開くとタブを破損するおそれがあります。**

5. 増設スロットカバーを取り外す。

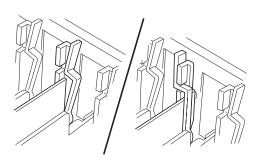
> 重要
>
> **取り外した増設スロットカバーは、大切に保管しておいてください。**

6. PCIボードをゆっくり本装置内へ差し込む。

ハードウェア編

7. ボードの接続部分がスロットに確実に接続するようしっかりとボードを押し込む。

重要

うまくボードを取り付けられないときは、ボードをいったん取り外してから取り付け直してください。ボードに過度の力を加えるとボードを破損するおそれがありますので注意してください。

チェック

- ロングボードを取り付けた際は、ガイドレール上部のロックでボードを固定してください。

- PCIスロットの間には「インシュレータ」が取り付けられています。インシュレータはPCIボードの取り付け/取り外しの際にボードや搭載済みのボードを保護するためのものです。取り付け/取り外しの後にインシュレータを正しく取り付けられていること、および正しく固定されていることを確認してください。

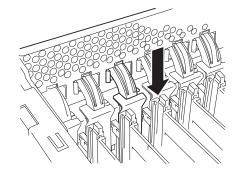
8. PCIボードを手でしっかりと支えながらボードにケーブルを接続する。

9. タブをゆっくりと閉じてボードを固定する。

10. 取り付けたPCIボードのスロットにあるPCIホットプラグスイッチを押す。

PCIスロットPowerランプが1度点滅した後、点灯します。

Windows Server 2003/Windows 2000の場合、OSによって自動的にボードが認識されドライバがインストールされます。

チェック

PCIボードやPCIボードを取り付けたスロットに異常があるとPCIスロットFaultランプがアンバー色に点灯します（102ページ参照）。

11. リアアクセスカバーを取り付け、本装置をラックへ戻す。

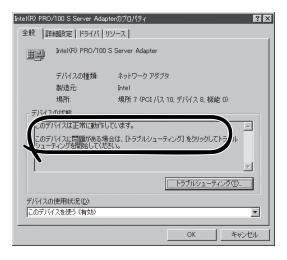
12. 以下の手順で取り付けたPCIボードが正常に認識され、動作していることを確認する。

① ［コントロールパネル］→［管理ツール］→［コンピュータの管理］→［デバイスマネージャ］の順でデバイスマネージャを起動する。

② 追加したボードにカーソルを移動する。

③ プロパティの「全般」を表示させて、デバイスの状態が正常に動作していることを確認する。

＊ PCIスロットの位置によって表示が異なります。

ハードウェア編

● Hot Remove

Hot Removeは次の手順で行います。

1. 次の手順で取り外したいホットプラグPCIボードが使用しているデバイスドライバを停止する。

重要

PCIボードを取り外す際は、必ずPCIボードを搭載しているスロットのドライバを停止してください。ドライバを停止させないとシステムが動作しなくなることがあります。

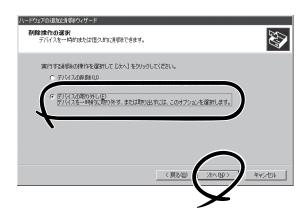
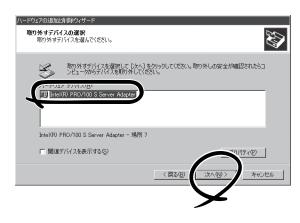
<u>OS画面上からデバイスドライバを停止する場合</u>

① [コントロールパネル]の[ハードウェアの追加と削除]を開く。

[ハードウェアの追加と削除]ウィザードが起動します。

② [次へ]をクリックする。

③ ハードウェアに関する作業の選択で、[デバイスの削除/取り外し]を選択し、[次へ]をクリックする。

④　削除操作の選択で、[デバイスの取り外し]を選択し、[次へ]をクリックする。

⑤　取り外すデバイスの選択でデバイスを選択し、[次へ]をクリックする。

⑥　デバイスの確認で取り外すデバイスが使用しているドライバであることを確認して[次へ]をクリックする。

[ハードウェアの追加と削除]ウィザードが完了します。

⑦　[完了]をクリックする。

⑧　電源がONの状態のまま本装置をラックから引き出す(180ページ参照)。

⑨　リアアクセスカバーを取り外し、取り外すPCIボードのスロットを確認する。

取り外すPCIスロットのPCIスロットPowerランプが消灯していることを確認してください。

PCIホットプラグスイッチでデバイスドライバを停止する場合

①　電源がONの状態のまま本装置をラックから引き出す(180ページ参照)。

②　リアアクセスカバーを取り外し、取り外すPCIボードのスロットを確認する。

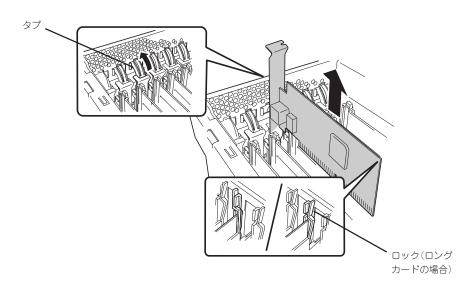
③　取り外すPCIボードのスロットにあるPCIホットプラグスイッチを押す。

取り外すPCIスロットのPCIスロットPowerランプが消灯していることを確認してください。

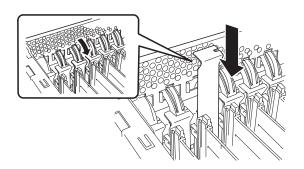
2.　ボードに接続しているケーブルをすべて取り外す。

3. タブを押してロックを解除し、ゆっくりとタブを開いてPCIボードを取り外す。

重要

タブを開く際は、閉じた位置から90度以上開かないでください。無理に開くとタブを破損するおそれがあります。

4. 増設スロットカバーを取り外したスロットに取り付け、タブを静かに閉じる。

重要

PCIボードを取り外したスロットには、本装置の電磁放射特性および冷却性の維持のために必ずブランクプレートを取り付けてください。

5. リアアクセスカバーを取り付け、本装置をラックに戻す。

● Hot Replace

Hot Replaceは次の手順で行います。

1. 次の手順で交換したいホットプラグPCIボードが使用しているデバイスドライバを停止する。

重要

PCIボードを取り外す際は、必ずPCIボードを搭載しているスロットのドライバを停止してください。ドライバを停止させないとシステムが動作しなくなることがあります。

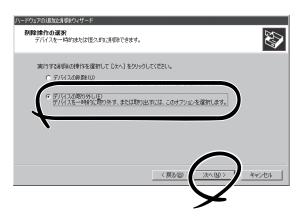
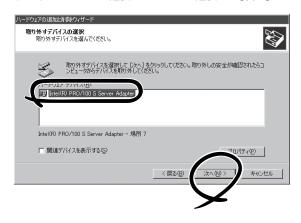
<u>OS画面上からデバイスドライバを停止する場合</u>

① [コントロールパネル]の[ハードウェアの追加と削除]を開く。

[ハードウェアの追加と削除]ウィザードが起動します。

② [次へ]をクリックする。

③ ハードウェアに関する作業の選択で、[デバイスの削除/取り外し]を選択し、[次へ]をクリックする。

④　削除操作の選択で、[デバイスの取り外し]を選択し、[次へ]をクリックする。

⑤　取り外すデバイスの選択でデバイスを選択し、[次へ]をクリックする。

⑥　デバイスの確認で取り外すデバイスが使用しているドライバであることを確認して[次へ]をクリックする。

[ハードウェアの追加と削除]ウィザードが完了します。

⑦　[完了]をクリックする。

⑧　電源がONの状態のまま本装置をラックから引き出す(180ページ参照)。

⑨　リアアクセスカバーを取り外し、取り外すPCIボードのスロットを確認する。

取り外すPCIスロットのPCIスロットPowerランプが消灯していることを確認してください。

PCIホットプラグスイッチでデバイスドライバを停止する場合

①　電源がONの状態のままリアアクセスカバーを取り外し、取り外すPCIボードのスロットを確認する。

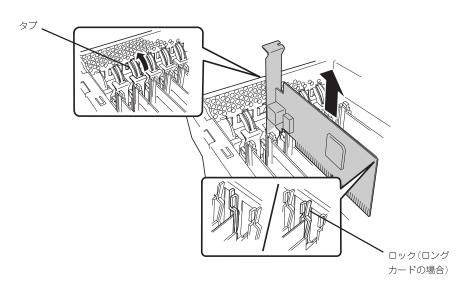
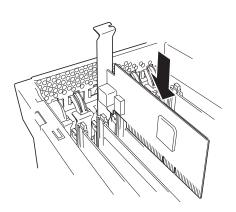
②　取り外すPCIボードのスロットにあるPCIホットプラグスイッチを押す。

取り外すPCIスロットのPCIスロットPowerランプが消灯していることを確認してください。

2. ボードに接続しているケーブルをすべて取り外す。

3. タブを押してロックを解除し、ゆっくりとタブを開いてPCIボードを取り外す。

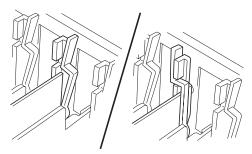
重要

タブを開く際は、閉じた位置から90度以上開かないでください。無理に開くとタブを破損するおそれがあります。

4. PCIボードをゆっくり本装置内へ差し込む。

5. ボードの接続部分がスロットに確実に接続するようしっかりとボードを押し込む。

重要

うまくボードを取り付けられないときは、ボードをいったん取り外してから取り付け直してください。ボードに過度の力を加えるとボードを破損するおそれがありますので注意してください。

チェック

- ロングボードを取り付けた際は、ガイドレール上部のロックでボードを固定してください。

- PCIスロットの間には「インシュレータ」が取り付けられています。インシュレータはPCIボードの取り付け/取り外しの際にボードや搭載済みのボードを保護するためのものです。取り付け/取り外しの後にインシュレータを正しく取り付けられていること、および正しく固定されていることを確認してください。

6. PCIボードを手でしっかりと支えながらボードにケーブルを接続する。

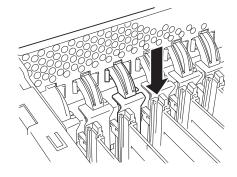
7. タブをゆっくりと閉じてボードを固定する。

8. 取り付けたPCIボードのスロットにあるPCIホットプラグスイッチを押す。

   PCIスロットPowerランプが1度点滅した後、点灯します。

ヒント

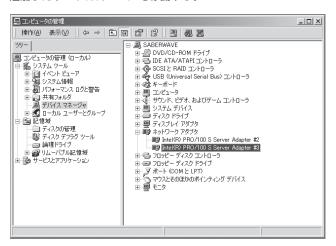
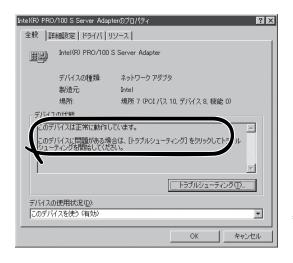
Windows Server 2003/Windows 2000の場合、OSによって自動的にボードが認識されドライバがインストールされます。

チェック

PCIボードやPCIボードを取り付けたスロットに異常があるとPCIスロットFaultランプがアンバー色に点灯します（102ページ参照）。

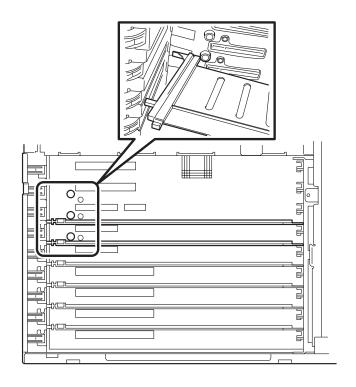
9. PCIスロットカバーを取り付け、本装置をラックに戻す。

10. 以下の手順で取り付けたPCIボードが正常に認識され、動作していることを確認する。

① [コントロールパネル]→[管理ツール]→[コンピュータの管理]→[デバイスマネージャ]の順でデバイスマネージャを起動する。

② 追加したボードにカーソルを移動する。

③ プロパティの「全般」を表示させて、デバイスの状態が正常に動作していることを確認する。

* PCIスロットの位置によって表示が異なります。

PCIスロットのインシュレータ付け外しの際の注意事項

PCIスロットのインシュレータを取り外す場合は、装置の電源をOFFして電源コードをコンセントから抜き、PCI Expressスロットのコンデンサにインシュレータを接触させないよう注意して取り外してください。

BIOSのセットアップ

Basic Input Output System(BIOS)の設定方法について説明します。

本装置を導入したときやオプションの増設／取り外しをするときはここで説明する内容をよく理解して、正しく設定してください。

システムBIOS　～SETUP～

SETUPは本装置の基本ハードウェアの設定を行うためのユーティリティツールです。このユーティリティは本装置内のフラッシュメモリに標準でインストールされているため、専用のユーティリティなどがなくても実行できます。

SETUPで設定される内容は、出荷時に本装置にとって最も標準で最適な状態に設定していますのでほとんどの場合においてSETUPを使用する必要はありませんが、この後に説明するような場合など必要に応じて使用してください。

重要

- SETUPの操作は、システム管理者(アドミニストレータ)が行ってください。
- SETUPでは、パスワードを設定することができます。パスワードには、「Supervisor」と「User」の2つのレベルがあります。「Supervisor」レベルのパスワードでSETUPにアクセスした場合、すべての項目の変更ができます。「Supervisor」のパスワードが設定されている場合、「User」レベルのパスワードでは、設定内容を変更できる項目が限られます。
- OS(オペレーティングシステム)をインストールする前にパスワードを設定しないでください。
- ここでは特に説明していない項目(メニュー)があります。これらの項目は、出荷時の設定以外の値(パラメータ)に変更しないでください。これらの項目の値を変更すると、本装置の動作の保証ができなくなるばかりでなく、本装置が故障するおそれがあります。
- 本装置には、最新のバージョンのSETUPユーティリティがインストールされています。このため設定画面が本書で説明している内容と異なる場合があります。設定項目については、オンラインヘルプを参照するか、保守サービス会社に問い合わせてください。

起　動

次の手順に従ってSETUPを起動します。

1. サーバの電源をONにする。

   画面にロゴが表示されます(SETUPの設定によってはPOSTの画面が表示されることがあります。

   しばらくすると次のメッセージ*が画面下に表示されます。

   パターン1:

Press <F2> to enter SETUP or <F12> to Network

   パターン2:

Press <F2> to enter SETUP, <F4> Service Partition, <F12> Network

   または

   パターン3:

Press <F1> to resume, <F2> to enter Setup, <F12> to Network

   パターン4:

Press <F1> to resume, <F2> to enter Setup, <F4> Service Partition, <F12> Network

   *　本装置の状態によってメッセージの内容は異なります。

2. <F2>キーを押す。

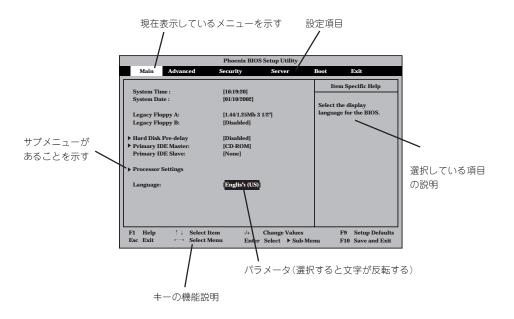
   SETUPが起動してMainメニューを表示します。

   以前にSETUPを起動してSecurity項目の設定を変更している場合には、パスワードを入力する画面が表示される場合があります。その際には設定したパスワードを入力してください。

   パスワードの入力は、3回まで行えます。3回とも誤ったパスワードを入力すると、本装置は動作を停止します(これより先の操作を行えません)。電源をOFFにしてください。

パスワードには、「Supervisor」と「User」の2種類のパスワードがあります。「Supervisor」では、SETUPでのすべての設定の状態を確認したり、それらを変更したりすることができます。「User」では、確認できる設定や、変更できる設定に制限があります。

キーと画面の説明

キーボード上の次のキーを使ってSETUPを操作します（キーの機能については、画面下にも表示されています）。

カーソルキー（↑、↓）	画面に表示されている項目を選択します。文字の表示が反転している項目が現在選択されています。
カーソルキー（←、→）	MainやAdvanced、Security、Server、Boot、Exitなどのメニューを選択します。
<−>キー／<+>キー	選択している項目の値（パラメータ）を変更します。サブメニュー（項目の前に「▶」がついているもの）を選択している場合、このキーは無効です。
<Enter>キー	選択したパラメータの決定を行うときに押します。
<Esc>キー	ひとつ前の画面に戻ります。
<F1>キー	SETUPの操作でわからないことがあったときはこのキーを押してください。SETUPの操作についてのヘルプ画面が表示されます。<Esc>キーを押すと、元の画面に戻ります。
<F9>キー	現在表示している項目のパラメータをデフォルトのパラメータに戻します（出荷時の設定と異なる場合があります）。
<F10>キー	SETUPの設定内容を保存し、SETUPを終了します。

設定例

次にソフトウェアと連係した機能や、システムとして運用するときに必要となる機能の設定例を示します。

管理ソフトウェアとの連携関連

「ESMPRO/ServerAgent」が持つ温度監視機能と連携させる

「Server」→「Thermal Sensor」→「Enabled」

「ESMPRO/ServerManager」を使ってネットワーク経由で本装置の電源を制御する

「Server」→「AC-LINK」→「StayOff」
「Advanced」→「Advanced Chipset Control」→「Wake On Lan/PME」→「Enabled」

「Wake On Lan/PME」は、オンボードのLANコントローラ(1000BASE-T/100BASE-TX)でサポートしています。

UPS関連

UPSと電源連動させる

- UPSから電源が供給されたら常に電源をONさせる
  「Server」→「AC-LINK」→「Power On」
- POWERスイッチを使ってOFFにしたときは、UPSから電源が供給されても電源をOFFのままにする
  「Server」→「AC-LINK」→「Last State」
- UPSから電源が供給されても電源をOFFのままにする
  「Server」→「AC-LINK」→「StayOff」

起動関連

本装置に接続している起動デバイスの順番を変える

「Boot」→起動順序を設定する

POSTの実行内容を表示する

「Advanced」→「Boot-time Diagnostic Screen」→「Enabled」
「NEC」ロゴの表示中に<Esc>キーを押しても表示させることができます。

HWコンソールから制御する

「Server」→「Console Redirection」→それぞれの設定をする

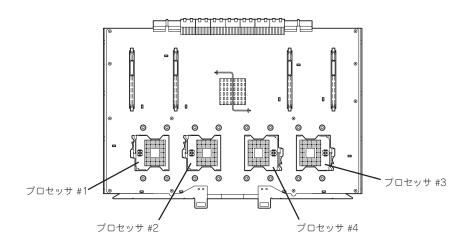
プロセッサ関連

プロセッサが縮退した場合にPOSTをいったん停止する

「Advanced」→「Memory/Processor Error」→「Halt」(停止)

搭載しているプロセッサの状態を確認する

「Main」→「Processor Settings」→表示を確認する

画面に表示されているプロセッサ番号とベースボード上のソケットの位置は下図のように対応しています。

プロセッサのエラー情報をクリアする

「Main」→「Processor Settings」→「Processor Retest」→「Yes」
「Server」→「Clear FRU LED」→「Yes」*
に設定後リブートするとクリアされる。

* 「Server」→「FRU LED Feature」が「Enabled」の場合のみ

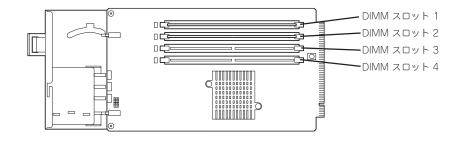
メモリ関連

メモリが縮退した場合にPOSTをいったん停止する

「Advanced」→「Memory/Processor Error」→「Halt」(停止)

搭載しているメモリ(DIMM)の状態を確認する

「Advanced」→「Memory Configuration」→表示を確認する

画面に表示されているDIMMのソケットの位置は下図のように対応しています。

メモリ(DIMM)のエラー情報をクリアする

「Advanced」→「Memory Configuration」→「Memory Retest」→「Yes」
「Server」→「Clear FRU LED」→「Yes」*
に設定後リブートするとクリアされる。

* 「Server」→「FRU LED Feature」が「Enabled」の場合のみ

メモリミラーリング機能またはメモリRAID機能を有効にする

「Advanced」→「Memory Configuration」→「Memory RAS Feature」→「Mirror」もしくは「RAID」を選択する。

セキュリティ関連

BIOSレベルでのパスワードを設定する

「Security」→「Set Supervisor Password」→パスワードを入力する
管理者パスワード(Supervisor)、ユーザーパスワード(User)は個別に設定することができます。しかし、ユーザーパスワードを設定した場合はSETUPメニューへのアクセス制限があります。

POWERスイッチおよびSLEEPスイッチの機能を有効/無効にする

「Security」→「Power Switch Inhibit」→「Enabled」(無効)
「Security」→「Power Switch Inhibit」→「Disabled」(有効)

「Power Switch Inhibit」を「Enabled」に設定すると、POWERスイッチによるON/OFF操作に加え、「強制シャットダウン(305ページ参照)」も機能しなくなります。また、SLEEPスイッチも機能しなくなります。

セキュアモードを設定する

「Security」→「Secure Mode」→それぞれを設定する

外付けデバイス関連

外付けデバイスに対する設定をする

「Advanced」→「Peripheral Configuration」→それぞれのデバイスに対して設定をする

内蔵デバイス関連

本装置内蔵のPCIデバイスに対する設定をする

「Advanced」→「PCI Configuration」→それぞれのデバイスに対して設定をする

ハードウェアの構成情報をクリアする（内蔵デバイスの取り付け/取り外しの後）

「Advanced」→「Reset Configuration Data」→「Yes」

PCIホットプラグ関連

PCIボードをホットプラグする

「Advanced」→「PCI Configuration」→「Hot Plug PCI Control」→「Minimum/Middle/Maximum*」

* ホットプラグをするPCIボードによって設定は異なります。各ボードの設定値については次の表を参照してください。

N型番	ボード名	設定値
N8104-86	100BASE-TX 接続ボード	Minimum
N8104-103	1000BASE-T 接続ボード	Minimum
N8104-111	1000BASE-TX 接続ボード	Minimum

設定内容のセーブ関連

BIOSの設定内容を保存する

「Exit」→「Exit Saving Changes」または「Save Changes」

変更したBIOSの設定を破棄する

「Exit」→「Exit Discarding Changes」または「Discard Changes」

BIOSの設定を出荷時の設定にもどす

「Exit」→「Load Setup Defaults」

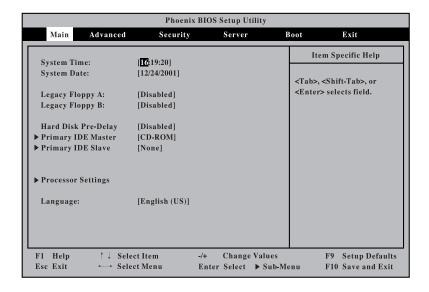
パラメータと説明

SETUPには大きく6種類のメニューがあります。

- Mainメニュー
- Advancedメニュー
- Securityメニュー
- Serverメニュー
- Bootメニュー
- Exitメニュー

このメニューの中からサブメニューを選択することによって、さらに詳細な機能の設定ができます。次に画面に表示されるメニュー別に設定できる機能やパラメータ、出荷時の設定を説明をします。

Main

SETUPを起動すると、まずはじめにMainメニューが表示されます。項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

Mainメニューの画面上で設定できる項目とその機能を示します。

項　　目	パラメータ	説　　明
System Time	HH:MM:SS	時刻の設定をします。
System Date	MM/DD/YYYY	日付の設定をします。
Legacy Floppy A	[Disabled] 1.2MB 5 1/4" 720Kb 3 1/2" 1.44/1.25MB 3 1/2" 2.88MB 3 1/2"	フロッピーディスクドライブAの設定をします。本装置ではドライブAをサポートしていないので「Disable」に設定されています。
Legacy Floppy B	[Disabled] 1.2MB 5 1/4" 720Kb 3 1/2" 1.44/1.25MB 3 1/2" 2.88MB 3 1/2"	フロッピーディスクドライブBの設定をします。本装置ではドライブBをサポートしていないので「Disable」に設定されています。
Hard Disk Pre-Delay	[Disabled] 3 Seconds 6 Seconds 9 Seconds 12 Seconds 15 Seconds 21 Seconds 30 Seconds	POST中に初めてIDEデバイスへアクセスする時に、設定された時間だけ待ち合わせを行います。
Primary IDE Master Primary IDE Slave	ー	それぞれのチャネルに接続されているデバイスの情報をサブメニューで表示します。(表示のみ)
Language	[English(US)] French German Spanish Italian	SETUPで表示する言語を表示します。

[　　]: 出荷時の設定

Processor Settings

Mainメニューで「Processor Settings」を選択すると、以下の画面が表示されます。

```
                    Phoenix BIOS Setup Utility
 Main
        Processor Settings                      Item Specific Help

 Processor Retest              [No]             Select 'Yes', BIOS
                                                will clear historical
 Processor Speed Setting:      3.16GHz          processor status and
                                                retest all processors
 Processor 1 CPUID:            0F41             on next boot.
 Processor 1 L2 Cache Size:    1024KB

 Processor 2 CPUID:            0F41
 Processor 2 L2 Cache Size:    1024KB

 Processor 3 CPUID:            0F41
 Processor 3 L2 Cache Size:    1024KB

 Processor 4 CPUID:            0F41
 Processor 4 L2 Cache Size:    1024KB

 F1   Help   ↑↓  Select Item   -/+    Change Values       F9   Setup Defaults
 Esc  Exit   ←→  Select Menu   Enter  Select ▶ Sub-Menu   F10  Save and Exit
```

項目については次の表を参照してください。

項　目	パラメータ	説　明
Processor Retest	[No] Yes	「Yes」に設定するとプロセッサエラー情報をクリアします。故障したプロセッサを交換したいときは、エラー情報をクリアしてください。
Processor Speed Setting	―	搭載しているプロセッサのクロックスピードを表示します(表示のみ)。
Processor 1 CPUID Processor 2 CPUID Processor 3 CPUID Processor 4 CPUID	―	プロセッサが正常な場合には。搭載しているプロセッサのIDを表示します(表示のみ)。プロセッサが実装されていない場合は、「Not Installed」と表示されます。またBMCによってDisabledされている場合には「Disabled」と表示されます。
Processor 1 L2 Cache Size Processor 2 L2 Cache Size Processor 3 L2 Cache Size Processor 4 L2 Cache Size	―	搭載しているプロセッサのL2キャッシュサイズを表示します(表示のみ)。
Processor 1 L3 Cache Size Processor 2 L3 Cache Size Processor 3 L3 Cache Size Processor 4 L3 Cache Size	― ―	搭載しているプロセッサにL3キャッシュが存在する場合、そのサイズを表示します(表示のみ)。
Hyper-Threading Technology	Disabled [Enabled]	有効(Enabled)に設定すると、ACPIモードにおいてHyper-Threading Technologyを使用します。 また、OSからはプロセッサの数が実際に搭載されている数の倍の表示になります。なお、Hyper-Threading Technologyは、Windows 2000 Server/Advanced Serverでは動作保証外です。

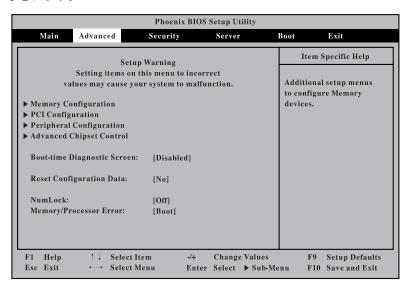
＜次ページへ続く＞

項　　目	パラメータ	説　　明
Execute Disable Bit	[Disabled] Enabled	プロセッサのExecute Disable Bitの有効/無効を設定します。
Intel(R) Virtualization Technology	[Disabled] Enabled	プロセッサがIntel® Virtualization Technologyをサポートしている場合のみ表示されます。 Intel® Virtualization Technologyの有効/無効を設定します。 この設定を変更した場合には、システムをDC-Offすることが必要です。まず「Exit」→「Exit Saving Changes」を実行し、いったんシステムを再起動してください。その後POST画面が表示されたら、システムをDC-Offしてください。
Echo TPR	[Enabled] Disabled	N8100-1149の場合のみ表示されます。 Echo TPRの有効/無効を設定します。

[　　]: 出荷時の設定

Advanced

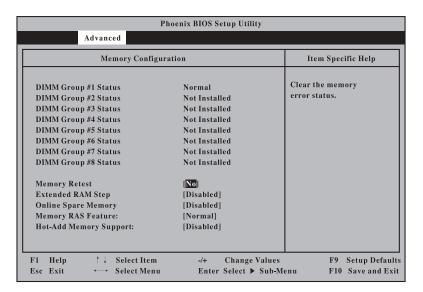
カーソルを「Advanced」の位置に移動させると、Advancedメニューが表示されます。

項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

項目については次の表を参照してください。

項　目	パラメータ	説　明
Boot-time Diagnostic Screen	[Disabled] Enabled	起動時の自己診断(POST)の実行画面を表示させるか、表示させないかを設定します。「Disabled」に設定すると、POSTの間、「NEC」ロゴが表示されます。(ここで<Esc>キーを押すとPOSTの実行画面に切り替わります。) 「Console Redirection」が設定された場合は無条件に「Enabled」に設定されます。
Reset Configuration Data	[No] Yes	Configuration Data(POSTで記憶しているシステム情報)をクリアするときは「Yes」に設定します。本装置の起動後にこのパラメータは「No」に切り替わります。
NumLock	On [Off]	システム起動時にNumlockの有効/無効を設定します。
Memory/Processor Error	[Boot] Halt	POSTを実行中、プロセッサまたはメモリのエラーが発生した際にPOSTの終わりでPOSTをいったん停止するかどうかを設定します。「Server」メニューの「POST Error Pause」が「Enabled」に設定されていても、この項目が「Boot」に設定されているときには、プロセッサまたはメモリのエラーが発生した際にPOSTの終わりで停止しません。

[　　]: 出荷時の設定

Memory Configuration

Advancedメニューで「Memory Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。

項目については次の表を参照してください。

項　　目	パラメータ	説　　明
DIMM Group #1 - #8 Status	Normal Not Installed Disabled	メモリの現在の状態を表示します。 「Normal」はメモリが正常であることを示します。「Disabled」は故障していることを、「Not Installed」はメモリが取り付けられていないことを示します（表示のみ）。 画面に表示されているDIMM Group番号に対するベースボード上のDIMMソケットについては、158ページを参照してください。
Memory Retest	[No] Yes	「Yes」に設定すると、メモリのエラー情報をクリアします。故障した（「Disabled」と表示された）メモリを交換したときは、エラー情報をクリアしてください。
Extended RAM Step	1MB 1KB Every Location [Disabled]	メモリのテストを実施するかどうかを設定します。
Online Spare Memory	[Disabled] Enabled	オンラインスペアメモリ機能を有効にするためには「Enabled」に設定する必要があります。

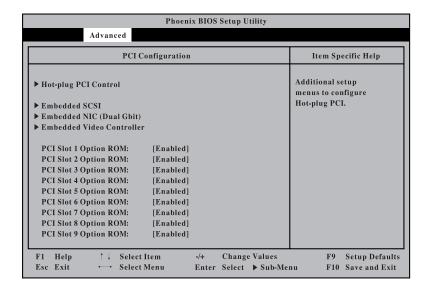
<次ページへ続く>

ハードウェア編

項　　目	パラメータ	説　　明
Memory RAS Feature	[Normal] Mirror RAID	メモリの構成を設定します。メモリミラーリング機能を有効にする場合には「Mirror」に設定してください。またMemory RAID機能を有効にする場合には「RAID」に設定してください。各機能の詳細については162ページを参照してください。
Hot-Add Memory Support	[Disabled] Enabled	Windows Server 2003 Enterprise EditionまたはDatacenter Editionの場合、Hot-Add Memory機能を使用するか否かを設定します。「Enabled」に設定するとHot-Add Memory機能を使用することができます。

[　　]: 出荷時の設定

PCI Configuration

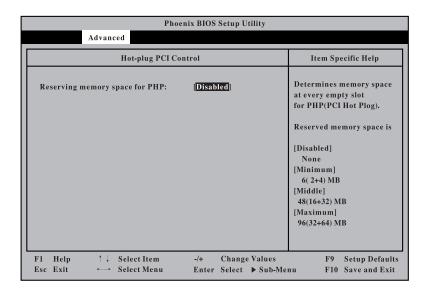
Advancedメニューで「PCI Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。それぞれを選択するとサブメニューが表示されます。

項目については次の表を参照してください。

項　　目	パラメータ	説　　明
PCI Slot 1～9 Option ROM	[Enabled] Disabled	PCIバスに接続されているデバイス(ボード)に搭載されているBIOSの有効/無効を設定します。

[　　]: 出荷時の設定

PCIスロット#3～#9にPCIカードを搭載した場合、このPCIカードからOSブートを行わず内蔵ハードディスクドライブのOSからブートさせるためには、PCIカードを搭載したスロットに対応する本項目(PCI Slot x Option ROM)を[Disabled]に設定する必要があります。

Hot-plug PCI Control

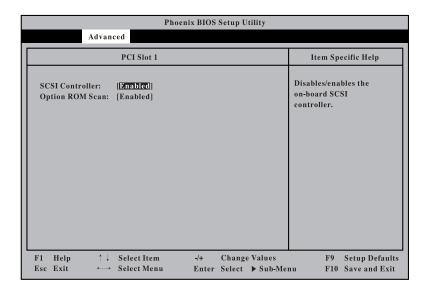
PCI Configurationサブメニューで「Hot-plug PCI Control」を選択すると、以下の画面が表示されます。

項目については次の表を参照してください。

項　目	パラメータ	説　明
Reserving memory space for PHP	[Disabled] Minimum Middle Maximum	PCIカードを搭載していないPCIスロットに対してPCIホットプラグのために予約するPCIメモリサイズを設定します。

[　]: 出荷時の設定

本項目を Disableに設定した場合と、Disable以外に設定した場合とで、各PCIスロット(PCIバス)のバス番号が変化します。
プログラムの再セットアップ等が必要となる場合がありますのでご注意ください。

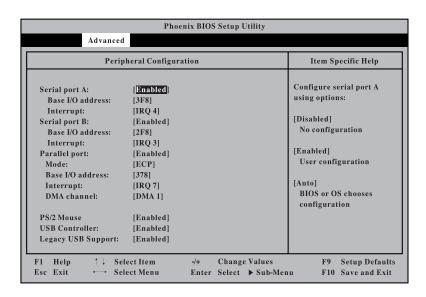
Embedded SCSI/Embedded NIC/Embedded Video Controller

PCI Configurationサブメニューで上記のメニューをそれぞれ選択すると、以下の画面が表示されます(以下は、「Embedded SCSI」を選択した場合のメニューです)。

項目については次の表を参照してください。

項　目	パラメータ	説　明
SCSI Controller LAN Controller VGA Controller	[Enabled] Disabled	内蔵のSCSIコントローラ、LANコントローラおよびViedoコントローラの有効/無効を設定します。
Option ROM Scan	[Enabled] Disabled	各コントローラのBIOS展開の有効/無効を設定します。なお、VGA Controllerにはこの項目はありません。

[　]: 出荷時の設定

Peripheral Configuration

Advancedメニューで「Peripheral Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。

項目については次ページの表を参照してください。

割り込みやベースI/Oアドレスが他と重複しないように注意してください。設定した値が他のリソースで使用されている場合は黄色の「＊」が表示されます。黄色の「＊」が表示されている項目は設定し直してください。

項　　目	パラメータ	説　　明
Serial Port A	Disabled [Enabled]	シリアルポートAの有効/無効を設定します。
Base I/O Address	[3F8] 2F8 3E8 2E8	シリアルポートAが有効([Enable])の場合、ベースアドレスおよび割り込みを設定します。シリアルポートAが[Disable]の時には表示されません。
Interrupt	IRQ 3 [IRQ 4]	
Serial Port B	Disabled [Enabled]	シリアルポートBの有効/無効を設定します。
Base I/O Address	3F8 [2F8] 3E8 2E8	シリアルポートBが有効([Enable])の場合、ベースアドレスおよび割り込みを設定します。シリアルポートBが[Disable]の時には表示されません。
Interrupt	[IRQ 3] IRQ 4	
Parallel Port	Disabled [Enabled]	パラレルポートの有効/無効を設定します。
Mode	Output only Bi-directional EPP [ECP]	パラレルポートの動作モードを設定します。パラレルポートが[Disable]の時には表示されません。
Base I/O Address	[378] 278	
Interrupt	IRQ 5 [IRQ 7]	
DMA channel	[DMA 1] DMA 3	
PS/2 Mouse	Disabled [Enabled]	PS/2マウスの有効/無効を設定します。
USB Controller	Disabled [Enabled]	USBコントローラの有効/無効を設定します。
Legacy USB Support	Disabled [Enabled]	USBを正式にサポートしていないOSでもUSBキーボードが使用できるようにするかどうかを設定します。

[　　]: 出荷時の設定

Advanced Chipset Control

Advancedメニューで「Advanced Chipset Control」を選択すると、次の画面が表示されます。

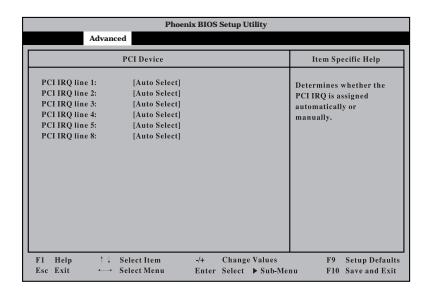
```
                         Phoenix BIOS Setup Utility
              Advanced
            Advanced Chipset Control                    Item Specific Help

 ▶ PCI Device                                          Additional setup
                                                       menus to configure
   Multimedia Timer:         [Disabled]                PCI Devices.

   Wake On LAN/PME:          [Disabled]
   Wake On Ring:             [Disabled]
   Wake On RTC Alarm:        [Disabled]

 F1   Help      ↑↓  Select Item    -/+    Change Values        F9   Setup Defaults
 Esc  Exit      ←→  Select Menu    Enter  Select ▶ Sub-Menu   F10  Save and Exit
```

項目については次の表を参照してください。

項　　目	パラメータ	説　　明
Multimedia Timer	[Disabled] Enabled	使用しているOSがHPET機能をサポートしている場合、「Enabled」に設定することによって機能を有効にできます。
Wake On LAN/PME	[Disabled] Enabled	ネットワークを介したリモートパワーオン機能の有効／無効を設定します。
Wake On Ring	[Disabled] Enabled	シリアルポートを介したリモートパワーオン機能の有効／無効を設定します。
Wake On RTC Alarm	[Disabled] Enabled	RTCアラームによるリモートパワーオン機能の有効/無効を設定します。

[　　]:　出荷時の設定

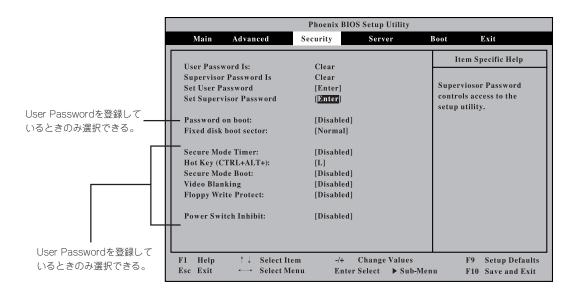
PCI Device

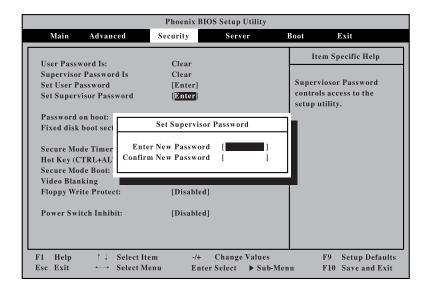
Advancedメニューの「Advanced Chipset Control」で「PCI Device」を選択すると、以下の画面が表示されます。

項目については次の表を参照してください。

項　目	パラメータ	説　明
PCI IRQ line 1 - 5 PCI IRQ line 8	Disabled [Auto Select] 3 4 5 6 7 9 10 11 12 14 15	PCIバスにある割り込み信号をどのIRQリクエストに割り当てるかを設定します。 パラメータの[11]は[Server]メニューの[BMC IRQ]で設定されていないときのみ選択できます。

[　　]: 出荷時の設定

Security

カーソルを「Security」の位置に移動させると、Securityメニューが表示されます。

Set Supervisor PasswordもしくはSet User Passwordのどちらかで<Enter>キーを押すと以下のような画面が表示されます(画面は「Set Supervisor Password」を選択したときの画面です)。

ここでパスワードの設定を行います。パスワードは7文字以内の英数字および記号でキーボードから直接入力します。

- OSのインストール前にパスワードを設定しないでください。
- パスワードを忘れてしまった場合は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

各項目については次の表を参照してください。

項　目	パラメータ	説　明
Set User Password	7文字までの英数字	<Enter>キーを押すとユーザーのパスワード入力画面になります。このパスワードではSETUPメニューへのアクセスが制限されます。
Set Supervisor Password	7文字までの英数字	<Enter>キーを押すとスーパーバイザのパスワード入力画面になります。この設定は、SETUPを起動したときのパスワードの入力で「Supervisor」でログインしたときのみ設定できます。
Password on boot	[Disabled] Enabled	ブート時にパスワードの入力を行う／行わないの設定をします。ユーザパスワードを設定する必要があります。
Fixed disk boot sector	[Normal] Write Protect	[Write Protect]に設定すると、ハードドライブのboot sectorを書き込み禁止に設定することによりウィルスから保護します。
Secure Mode Timer	[Disabled] 1 minute 2 minutes 5 minutes 10 minutes 20 minutes 60 minutes 120 minutes	キーボードやマウスからの入力が途絶えてからSecure Modeに入るまでの時間を設定します。
Hot Key (CTRL+ALT+)	[L] Z	Secure Modeを起動させるキーを設定します。<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら設定したキーを押すとSecure Modeが起動します。
Secure Mode Boot	[Disabled] Enabled	本装置の起動時にSecure Modeで起動させるかどうかを設定します。[Enabled]に設定するとPOST中にSecure Modeに入ります。
Video Blanking	[Disabled] Enabled	Secure Modeに入った時にモニタ画面を非表示にするかどうか設定します。
Floppy Write Protect	[Disabled] Enabled	Secure Modeの間、フロッピーディスクドライブにセットしたフロッピーディスクへの書き込みを許可するか禁止するかを設定します。
Power Switch Inhibit	[Disabled] Enabled	POWERスイッチの機能の有効／無効を設定します。[Enabled]に設定すると、POWERスイッチで電源をOFFできなくなります(強制シャットダウン(POWERスイッチを4秒以上押して強制的にシャットダウンさせる機能)も含む)。また、SLEEPスイッチを押しても省電力モードへ移行できません。

[　　]:　出荷時の設定

Secure Modeについて

Secure Modeは、ユーザーパスワードを持つ利用者以外からのアクセスを制御するモードです。Secure Modeを解除するまでPOWERスイッチやSLEEPスイッチ、RESETスイッチ、およびキーボード、マウスは機能しません。Secure Mode中、サーバのキーボード上のランプがScrollLockランプ、CapsLockランプ、NumLockランプの順に点滅します。

Secure Modeの状態にあるサーバを通常の状態に戻すには、キーボードからユーザーパスワードを入力して<Enter>キーを入力してください。

Server

カーソルを「Server」の位置に移動させると、Serverメニューが表示されます。

Serverメニューで設定できる項目とその機能を示します。「System Management」と「Console Redirection」は選択後、<Enter>キーを押してサブメニューを表示させてから設定します。

各項目については次の表を参照してください。

項　目	パラメータ	説　明
Assert NMI on PERR	Disabled [Enabled]	[Enable]に設定すると、PCIバスパリティエラー(PERR)検出を有効にし、エラー発生時にはNMIとして通知されます。
Assert NMI on SERR	Disabled [Enabled]	[Enable]に設定すると、PCIバスシステムエラー(SERR)検出を有効にし、エラー発生時にはNMIとして通知されます。
FRB-2 Policy	Disable FRB2 Timer [Disable BSP] Do Not Disabl BSP Retry 3 Times	BSPでFRB-2エラーが発生した場合、プロセッサを[Disabled]にするかしないかを設定します。
Boot Monitoring	[Disabled] 5 minutes 10 minutes 15 minutes 20 minutes 25 minutes 30 minutes 35 minutes 40 minutes 45 minutes 50 minutes 55 minutes 60 minutes	起動時のブート監視の機能タイマの有効/無効を設定します。[Disabled]以外を選択すると、タイマが有効になります。なお、この機能を使用する場合は、ESMPRO/ServerAgentをインストールしてください。ESMPRO/ServerAgentをインストールしていないOSから起動する場合には、この機能を無効にしてください。ARCServeでDisaster Recovery Optionを使用する場合は、[Disabled]にしてください。

<次ページに続く>

項　　目	パラメータ	説　　明
Boot Monitoring Policy	[Retry 3 times] Retry Service Boot Always Reset	ブート監視機能を有効にした場合に表示されます。ブート監視時にタイムアウトが発生した場合の処理を設定します。 [Retry 3 times]に設定するとタイムアウト発生後にシステムをリセットし、OSブートを3回までリトライします。3回目にブートを失敗すると、サービスパーティションからブートを試みます。 [Retry Service Boot]に設定するとタイムアウト発生後にシステムをリセットし、OSブートを3回までリトライします。その後、サービスパーティションからのブートを3回試みます。 [Always Reset]に設定するとタイムアウト発生後にシステムをリセットし、OSブートのリトライを繰り返します。
Thermal Sensor	Disabled [Enabled]	温度センサ監視機能の有効/無効を設定します。
BMC IRQ	Disabled [IRQ 11]	BMC割り込みのIRQを設定します。
Post Error Pause	Disabled [Enabled]	POSTの実行中にエラーが発生した際に、POSTの終わりでPOSTをいったん停止するかどうかを設定します。
AC-LINK	Stay Off [Last State] Power On	AC-LINK機能を設定します。AC電源が再度供給されたときの本装置の電源の状態を設定します(下表参照)。
Power ON Delay Time	[0]～255	AC-LINKの設定が「Power On」もしくは「Last State」の場合に、DC-onの遅延時間を設定します。
FRU LED Feature	Disabled [Enabled]	「Enabled」に設定すると、システムで異常を検出した場合に、その発生箇所を特定するためのエラーランプを点灯させることができます。
Clear FRU LED	[No] Yes	「Yes」に設定後リブートすると、発生箇所を特定するためのエラーランプを消灯させます。
Platform Event Filtering	Disabled [Enabled]	BMCの通報機能を設定します。

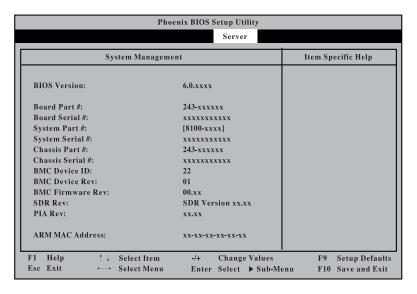
[　　]: 出荷時の設定

「AC-LINK」の設定と本装置のAC電源がOFFになってから再度電源が供給されたときの動作を次の表に示します。

AC電源OFFの前の状態	設　　定		
	Stay Off	Last State	Power On
動作中	Off	On	On
停止中(DC電源もOffのとき)	Off	Off	On
強制シャットダウン*	Off	Off	On

*　POWERスイッチを4秒以上押し続ける操作です。強制的に電源をOFFにします。

System Management

Serverメニューで「System Management」を選択し<Enter>キーを押すと、以下の画面が表示されます。

項目については次の表を参照してください。

項　　目	パラメータ	説　　明
BIOS Version	―	システムBIOSのバージョンを表示します。
Board Part #	―	ベースボードの情報を表示します。
Board Serial #	―	
System Part #	―	システムの情報を表示します。
System Serial #	―	
Chassis Part #	―	筐体の情報を表示します。
Chassis Serial #	―	
BMC Device ID	―	BMC(ベースボードマネージメントコントローラ)の情報を表示します。
BMC Device Rev	―	
BMC Firmware Rev	―	
SDR Rev	―	SDR(センサ装置情報)のレビジョンを表示します。
PIA Rev	―	PIAのレビジョンを表示します。
ARM MAC Address	―	管理LAN用ポートのDefault DNS (Hostname)を表示します。

[　　]: 出荷時の設定

Console Redirection

Serverメニューで「Console Redirection」を選択し<Enter>キーを押すと、以下の画面が表示されます。

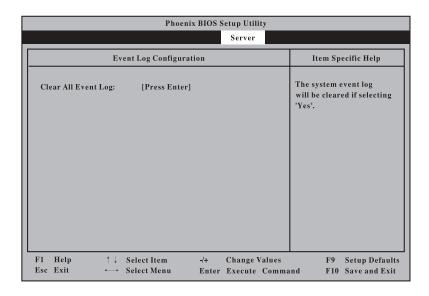
```
                         Phoenix BIOS Setup Utility
                                                Server
  Console Redirection                              Item Specific Help

  BIOS Redirection Port:     [Disabled]            Selects the Serial port
  ACPI Redirection Port:     [Disabled]            to use for Console
                                                   Redirection.
  Baud Rate:                 [19.2K]               "Disabled" completely
  Flow Control:              [CTS/RTS]             disables Console
  Console Type:              [VT100+]              Redirection.
  Remote Console Reset:      [Disabled]

F1  Help    ↑↓  Select Item    -/+    Change Values       F9   Setup Defaults
Esc Exit    ←→  Select Menu    Enter  Select ▶Sub-Menu    F10  Save and Exit
```

項目については次の表を参照してください。

項　目	パラメータ	説　明
BIOS Redirection Port	[Disabled] Serial Port A Serial Port B	コンソールリダイレクションで使用するI/Oポートのアドレス/割り込みを設定します。「Serial Port A」または「Serial Port B」を選択すると、AdvancedメニューのPeripheral Configuration 「Serial Port A」、「Serial Port B」で選択されているアドレス/割り込みを使用します。 [Disabled]を選択すると、コンソールリダイレクション機能が無効になります。
ACPI Redirection Port	[Disabled] Serial Port A Serial Port B	ACPIヘッドレスコンソールリダイレクションで使用するI/Oポートのアドレス/割り込みを設定します。[Disabled]を選択すると、コンソールリダイレクション機能が無効になります。
Baud Rate	9600 [19.2K] 38.4K 57.6K 115.2K	接続するHWコンソールとのインタフェースに使用するボーレートを設定します。
Flow Control	None XON/XOFF [CTS/RTS] CTS/RTS+CD	フロー制御の方法を設定します。
Console Type	PC ANSI [VT100+] VT-UTF8	コンソールタイプを選択します。
Remote Console Reset	[Disabled] Enabled	リモートコンソールからのリセットの有効/無効を設定します。

[　　]: 出荷時の設定

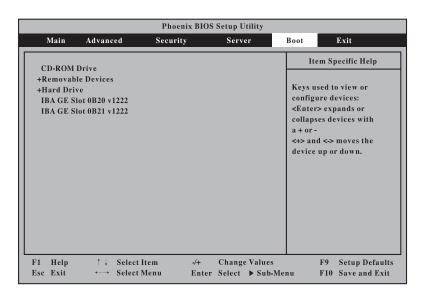
Event Log Configuration

Serverメニューで「Event Log Configuration」を選択し<Enter>キーを押すと、以下の画面が表示されます。

項目については次の表を参照してください。

項　　目	パラメータ	説　　明
Clear All Event Log	ー	<Enter>キーを押し、「Yes」を選択するとシステムイベントログが初期化されます。

［　　］: 出荷時の設定

Boot

カーソルを「Boot」の位置に移動させると、起動順位を設定するBootメニューが表示されます。

本装置は起動時にこのメニューで設定した順番にデバイスをサーチし、起動ソフトウェアを見つけるとそのソフトウェアで起動します。

<↑>キー／<↓>キー、<+>キー／<−>キーでブートデバイスの優先順位を変更できます。各デバイスの位置へ<↑>キー／<↓>キーで移動させ、<+>キー／<−>キーで優先順位を変更できます。

EXPRESSBUILDERを起動する場合は、上図に示す順番に設定してください。

Exit

カーソルを「Exit」の位置に移動させると、Exitメニューが表示されます。

このメニューの各オプションについて以下に説明します。

Phoenix BIOS Setup Utility

Main　Advanced　Security　Server　Boot　Exit

Exit Saving Changes
Exit Discarding Changes
Load Setup Defaults
Load Custom Defaults　[Enter]
Save Custom Defaults　[Enter]
Discard Changes
Save Changes

Item Specific Help

Exit System Setup and save your changes to CMOS.

F1 Help　↑↓ Select Item　-/+ Change Values　F9 Setup Defaults
Esc Exit　←→ Select Menu　Enter Execute Command　F10 Save and Exit

Exit Saving Changes

新たに選択した内容をCMOS(不揮発性メモリ)内に保存してSETUPを終わらせる時に、この項目を選択します。Exit Saving Changesを選択すると、確認の画面が表示されます。
ここで、「Yes」を選択すると新たに選択した内容をCMOS内に保存してSETUPを終了し、本装置は自動的にシステムを再起動します。

Exit Discarding Changes

新たに選択した内容をCMOS(不揮発性メモリ)内に保存しないでSETUPを終わらせたい時に、この項目を選択します。
ここで、「Yes」を選択すると変更した内容をCMOS(不揮発性メモリ)内に保存せずにSETUPを終了します。SETUPの内容を変更している場合には確認メッセージが表示されます。
ここで、「No」を選択すると、変更した内容を保存しないでSETUPを終わらせることができます。「Yes」を選択すると変更した内容をCMOS内に保存してSETUPを終了し、本装置は自動的にシステムを再起動します。

Load Setup Defaults

SETUPのすべての値をデフォルト値(出荷時の設定)に戻したい時に、この項目を選択します。Load Setup Defaultsを選択すると、確認の画面が表示されます。
ここで、「Yes」を選択すると、デフォルト値に戻ります。「No」を選択するとExitメニューの画面に戻ります。

Save Custom Defaults/Load Custom Defaults

お客様のSETUPパラメータの設定を一時的にCMOSに保存する場合、Save Custom Defaultsを選択します。また、ここで保存した設定をロードする場合には、Load Custom Defaultsを選択します。

Discard Changes

新たにCMOSに値を保存する前に今回の変更を以前の値に戻したい場合は、この項目を選択します。
ここで、「Yes」を選択すると、以前の値に戻ります。「No」を選択するとExitメニューの画面に戻ります。

Save Changes

SETUPを終了せず、新たに選択した内容をCMOS(不揮発性メモリ)内に保存する時に、この項目を選択します。
ここで、「Yes」を選択するとCMOS(不揮発性メモリ)内に保存します。「No」を選択するとExitメニューの画面に戻ります。

ディスクアレイコンフィグレーション

～MegaRAID® Configuration Utility～

MegaRAID_ Configuration Utilityは、標準装備のディスクアレイ機能(オンボードRAID機能)を使用して、内蔵のハードディスクをディスクアレイ構築するための詳細な設定・制御を行うためのソフトウェアです。

使用上の注意

ユーティリティを使用して正しく本装置のディスクアレイを構築するために以下のことに注意してください。

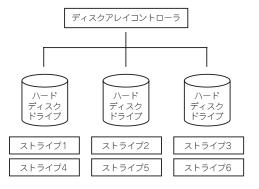
- オンボードRAID機能は、次の 3 つの機能および RAID1のスパンをサポートしています。

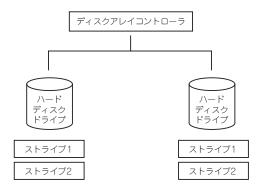
レベル	機　能	冗長性	特　長
RAID0	ストライピング	無し	データ読み書きが最も高速 記憶容量が最大 記憶容量 = Disk容量 x Disk台数
RAID1	同じデータを2台のハードディスクドライブにそれぞれ書き込む（ミラーリング）	有り	ハードディスクドライブが2台必要 記憶容量 = Disk容量 x Disk台数の1/2
RAID5	データおよび冗長データのストライピング	有り	ハードディスクドライブが3台以上必要 記憶容量 = Disk容量 x (Disk台数-1)
RAID1のスパン	データのストライピングとミラーリング	有り	HDDは4台必要 記憶容量=Disk容量×Disk台数の1/2

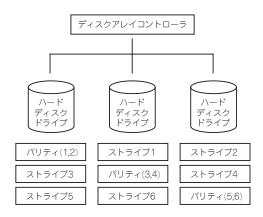
– RAID0

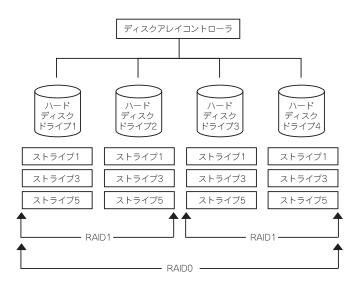
データを各ハードディスクドライブへ「ストライピング」で分割して記録します。ストライピングはハードディスクドライブにデータを記録するときに一定の規則を持たせる技術です。データは各ハードディスクドライブへ分割して記録されます。図ではストライプ1(Disk1)、ストライプ2(Disk2)、ストライプ3(Disk3)....というようにデータが記録されます。すべてのハードディスクドライブに対して一括してアクセスできるため、ハードディスクドライブを単体で使用しているときと比較してディスクアクセスの性能を向上させることができます。

重要

RAID0はデータの冗長性がありません。ハードディスクドライブが故障するとデータの復旧ができません。

– RAID1

1つのハードディスクドライブに対してもう1つのハードディスクドライブへ同じデータを記録する方法です。この方法を「ミラーリング」と呼びます。1台のハードディスクドライブにデータを記録するとき、同時に別のハードディスクドライブに同じデータが記録されます。使用中の一方のハードディスクドライブが故障したときに同じ内容が記録されているもう一方のハードディスクドライブを代わりとして使用することができるため、システムをダウンすることなく運用できます。

－ RAID5

データはRAID0と同様に各ハードディスクドライブへ「ストライピング」で分割して記録されます。RAID5はパリティ（冗長データ）を各ハードディスクドライブへ分散して記録します。これを「分散パリティ」と呼びます。分散パリティでは各ハードディスクドライブのストライプで区切られた1列の各ストライプサイズのうち、1つが順番にパリティ部として扱われます。データはストライプ1、ストライプ2、そして生成されたパリティというように記録されます。パリティ部として割り当てられる容量はRAID5で構成したハードディスクドライブの1台分となります。構成されたハードディスクドライブのうち、1台が故障しても、問題なくデータが使用可能です。

－ RAID1のスパン

RAID1のスパンはRAID0およびRAID1の組み合わせです。データを各ハードディスクドライブへ「ストライピング」で分割し「ミラーリング」で記録します。

- 本装置のオンボードRAIDコントローラに接続するハードディスクドライブを単体ディスクとして使用していただく際には、本ユーティリティを用いて単体ディスクに対し、RAID 0のコンフィグレーション設定を実施してください。
- ディスクアレイのアレイ構成を構築・変更した後は、コンフィグレーション情報のバックアップをとってください。バックアップは、Power Console Plusで作成できます。Power Console Plusについては、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMにあるオンラインドキュメント「Power Console Plusユーザーズマニュアル」を参照してください。
- コンシステンシチェックはRAID 5またはRAID 1の場合のみ実行可能です。コンシステンシチェックには次の3つの方法があります。
  - このユーティリティを使った方法(この項の説明を参照)
  - OS起動後にコマンドプロンプトからのスケジュール実行(「EXPRESSBUILDER」CD-ROMにあるオンラインドキュメント「Power Console Plusユーザーズマニュアル」またはオプションボードに添付の説明書を参照してください)
  - Power Console Plusを使った方法(「EXPRESSBUILDER」CD-ROMにあるオンラインドキュメント「Power Console Plusユーザーズマニュアル」を参照してください)。
- 故障したハードディスクドライブを交換し、正常なディスクの状態に戻す「リビルド」は、このユーティリティ以外にPower Console Plusを使ってもできます(「EXPRESSBUILDER」CD-ROMにあるオンラインドキュメント「Power Console Plusユーザーズマニュアル」を参照してください)。
- ハードディスクドライブベイに「スタンバイディスク」を設定しておくと、ハードディスクドライブが故障したときに自動でスタンバイディスクを使ったリビルドが機能します。ただし、あらかじめスタンバイディスクとしての設定が必要です(設定するハードディスクドライブは同一容量、同一回転数のものを使用してください)。
- このユーティリティではハードディスクドライブの状態を次のように表示します。
  - READY　通電状態でコンフィグレーションされる前の状態
  - ONLIN　通電状態で正常に動作でき、パックの一部として構成されている状態
  - HOTSP　通電状態でホットスペア用ディスク(スタンバイディスク)の状態
  - FAIL　ディスクアレイコントローラによって不良ディスクと判断されている状態
  - REBLD　リビルド中の状態

Configuration Utilityの起動

MegaRAID Configuration Utilityの起動方法を以下に示します。ユーティリティはI/Oボードにある RAIDコントローラのBIOSに格納されており、Power On Self-Test（POST）中に起動します。

MegaRAID Configuration Utilityの起動

1. 本装置の電源をONした後、次に示す画面が表示された時に、<Esc>キーを押す。

   POSTの画面が表示されます。

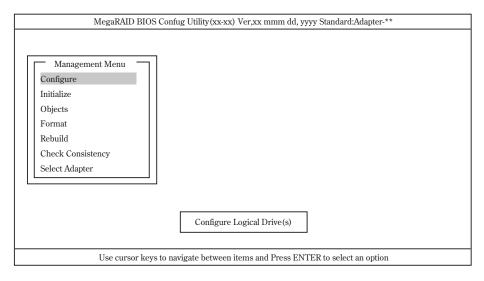
Press <F2> to enter Setup, <F4> Service Partition, <F12> Network

2. POST画面で、以下の表示を確認したら、<Enter>キーを押す。

   MegaRAID Configuration Utilityが起動します。

```
LSI MegaRAID BIOS      Version XXX (Build XXX XX XXXX)
Copyright(c) 2005 LSI Logic Corp.
HA-X (Bus XX Dev XX) MegaRAID SCSI 320-2E
 Standard FW XXXX DRAM = 256MB (SDRAM)
Battery module is present on adapter
 Channel-0 ID-14 - - XXX    XXXXX
 Channel-1 ID-14 - - XXX    XXXXX
X Logical Drive(s) found on the host adapter.
X Logical Drive(s) handled by BIOS
Press <Ctrl> <M> or <Enter> to Run Config Utility
Or Press <Ctrl> <H> for WebBIOS
```

<Ctrl><H>が点滅しますが、<CTRL>+<H>キーは押さないでください。
万一、誤って押した場合は、POST終了後に、WebBIOSが起動します。
WebBIOS起動後、画面右上の「Control-M」をクリックしてください。
MegaRAID Configuration Utilityが起動します。

MegaRAID Configuration Utility TOPメニュー(Management Menu)画面

故障等によりI/Oボードを交換した場合は、オンボードRAIDの構成情報は、ハードディスクドライブに保存されている構成情報がI/Oボード上にバックアップされます。
このため、I/Oボードを交換する際はハードディスクドライブの構成/接続を変更しないでください。また、SCSIの接続方法も交換前と同じ接続をしてください。
万一の場合に備えて、必ずフロッピーディスク等への保存を行ってください。

```
...
x Logical Drives found on the HOST Adapter.
x Logical Drive(s) handled by BIOS.
Configuration of NVRAM and drives mismatch(Normal mismatch)

Run View/Add Configuration option of Config Utility
Press <Ctrl> <H> for WebBIOS Or
Press A Key to Run Configuration Utility
```

MegaRAID Configuration Utilityの終了

MegaRAID Configuration UtilityのTOPメニューで<ESC>キーを押します。
確認のメッセージが表示されるので、「Yes」を選択します。

```
Please Press Ctrl-Alt-Del to REBOOT the system.
```

上に示すメッセージが表示されたら、<CTRL>+<ALT>+<DEL>キーを押します。
本装置が再起動します。

メニューツリー

設定一覧

◇：選択・実行パラメータ　●：設定パラメータ　・：情報表示
◆：ロジカルドライブ生成後設定(変更)可能

メニュー	説　明
◇Configure	Configuration設定を行う
◇Easy Configuration	Configurationの設定(固定値使用)
◇New Configuration	Configurationの新規設定
◇View/Add Configuration	Configurationの追加設定、表示
◇Clear Configuration	Configurationのクリア
◇Specify Bootable Logical Drive	起動するロジカルドライブを選択する
◇Initialize	ロジカルドライブ初期化
◇Objects	各種設定
◇Adapter	ディスクアレイコントローラ設定
◇Clear Configuration	Configurationのクリア
*1　●FlexRAID PowerFail	リビルド時電源断再起動、続行の設定
*2　●Fast Initialization	高速イニシャライズの設定 (ON/OFF)
*3　●Disk Spin up Timings	HDDのSpin-upの設定
*4　●Cache Flush Timings	Cache Flushタイミングの設定
*5　●Rebuild Rate	Rebuild Rateの設定 (0%～100%)
*6　●Alarm Control	アラーム音(ON/OFF)設定
◇Other Adapter Information	ボード情報表示
・FW Supports	ファームウェアがサポートするスパン数とロジカルドライブ数
・FW Ver	ファームウェアバージョン
・Bios Ver	BIOSバージョン
・DRAM	メモリ容量
・Adapter Type	ボードシリーズNo.
◇Factory Default	デフォルト値に設定
*7　●Disable(Enable) BIOS	BIOS Enable/Disable設定
◇Battery Information	バッテリ情報
・Backup Module	バッテリのモジュールの有無
・Battery Pack	バッテリの有無
・Temperature	温度状態
・Voltage	電圧状態
・Fast Charging	FAST充電状況
・No of Cycles	充電回数の表示
◇Reset Battery Charge Counter	充電回数のクリア
◇Other Adapter Options	ボード詳細設定

<次ページへ続く>

メニュー	説　明
*8　●Emulation	制御モード設定
*9　●Auto Rebuild	オートリビルドEnable/Disable設定
・Initiator ID	Initiator ID No.の表示
*10　●Multiple PCI Delayed Trans	PCIバスブリッジの設定
*11　●Force Boot	コンフィグレーション情報(HDD)の強制設定
*12　●Coercion Algorithm	HDD最大容量設定パラメータ
●Abort BI & CC Activities	バックグランドイニシャライズとチェックコンシステンシの停止
*13　●CC Restoration	チェックコンシステンシのモード設定
*14　●Temporary Offline RAID	テンポラリオフライン機能の設定
◇Logical Drive	ロジカルドライブ操作
◇Logical Drives	ロジカルドライブの選択(複数ロジカルドライブが存在)
◇Initialize	ロジカルドライブの初期化
◇Check Consistency	ロジカルドライブの冗長性チェック
◇View/Update Parameters	ロジカルドライブ情報表示
・　RAID	RAIDレベルの表示
・　SIZE	ロジカルドライブの容量表示
・　Stripe SIZE	ストライプサイズの表示
◆√Write Policy	Writeモードの設定
◆√Read Policy	Readモードの設定
◆√Cache Policy	キャッシュモードの設定
◆√FlexRAID Virtual Sizing	バーチャルサイジングのEnable/Disable設定 **※Enableに設定しないでください**
・　#Stripes	ロジカルドライブを構成しているHDD数を表示
・　State	ロジカルドライブの状態表示
◇Physical Drive	物理ドライブ操作
◇Physical Drive Selection Menu	物理ドライブの選択
◇Rebuild	リビルドの実行
◇Format	ローレベルフォーマットの実行　**※使用しないでください**
◇Make Online	ディスクをオンラインにする
◇Fail Drive	ディスクをオフラインにする
◇Make HotSpare	オートリビルド用ホットスペアディスクに設定
◇View Drive Information	HDD情報の表示
・Device Type	デバイス種類
・Capacity	容量
・Vender ID	ベンダ名
・Product ID	型番
・Revision	レビジョン
・SCSI Standard	対応SCSI
・Media Errors	メディアエラー発生数
・Other Errors	その他エラー発生数
*15　●Synchronous Negotiation	SCSI同期設定

<次ページへ続く>

メニュー	説　明
*16　●SCSI Command Q Tagging	SCSI Command Q Tagの設定
◇Channel	SCSIチャネルの設定
◇Channels	チャネル選択
*17　●Termination State	終端設定
*18　●Enable Auto Termination	自動終端設定
*19　●SCSI Transfer rate	転送速度の設定
◇Format	ローレベルフォーマット　**※使用しないでください**
◇Rebuild	リビルド実行
◇Reconstruct	Add Capacity　**※使用しないでください**
◇Select Adapter	ディスクアレイコントローラの選択 (ディスクアレイコントローラ未実装の時は表示されない)

各設定値

No.	設定パラメータ	出荷時設定	設定変更
*1	FlexRAID PowerFail	Enabled	不可
*2	Fast Initialization	On	可
*3	Disk Spin-up Timing	2 disks every 6 secs	不可
*4	Cache Flush Timing	Every 4 Seconds	不可
*5	Rebuild Rate	30%	可
*6	Alarm Control	Disable Alarm	不可
*7	Disable(Enable) BIOS	Enable (画面表示:Disable BIOS)	不可
*8	Emulation	MASS Storage	不可
*9	Auto Rebuild	Enabled	不可
*10	Multiple PCI Delayed Trans	Enabled	不可
*11	Force Boot	ON	不可
*12	Coercion Algorithm	NONE	不可
*13	CC Restoration	Enabled	可
*14	Temporary Offline RAID	Disabled	不可
*15	Synchronous Negotiation	Enabled	不可
*16	SCSI Command Q Tagging	Enhanced QTAG Scheduling	不可
*17	Termination State	ENABLED(AUTO)	不可
*18	Enable Auto Termination	On	不可
*19	SCSI Transfer rate	320M	不可

*　Alarm ControlをEnableに設定しても、ビープ音による異常報告はされません。

設定変更について

以下の項目は、設定が変更可能です。各説明に従って設定してください。

*2	Fast Initialization	設定値「On」を推奨します。「On」設定ではディスクの先頭領域のみイニシャライズを行います。
*5	Rebuild Rate	設定値「30%」を推奨します。
*14	CC Restoration	出荷時の設定値は「Enabled」です。「Enabled」設定では整合性チェックにて不整合が見つかった場合、その不整合を自動的に修復します。

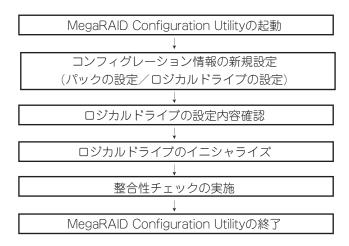
重要

- Disable(Enabled) BIOSの設定の表示に注意してください。表示は、変更する設定値(現在の設定値の反対)を表示します。

  「Enabled」設定時 ：Disable BIOSを表示
  「Disabled」設定時：Enable BIOSを表示

- 「Disabled」設定時は本装置配下に接続されているハードディスクドライブにインストールしたOSから起動できなくなります。
- 「Factory Default」実行時は設定値が変更になります。
- 「Factory Default」実行後は各パラメータの再設定を行って下さい。
- MegaRAID Configuration Utilityのバージョンによっては、「Factory Default」の設定値が変更される場合があります。「Factory Default」実行後は各パラメータの設定を確認してください。
- 「Factory Default」実行後、本装置の再起動が必要です。

Configuration Utility操作手順

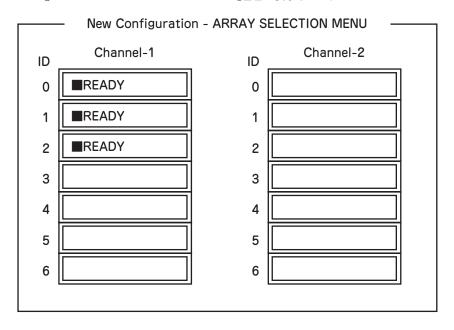
Configurationの新規作成／追加作成

1. MegaRAID Configuration Utilityを起動する。
2. TOPメニュー(Management Menu)より、「Configure」→「New Configuration」を選択する。

   追加作成の場合は、「View／add Configuration」を選択します。

   重要

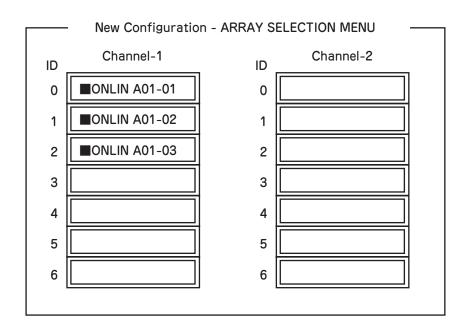
   - 「New Configuration」でConfigurationを作成の場合、既存のコンフィグレーション情報がクリアされます。既存のコンフィグレーション情報に追加作成の場合は、「View／add Configuration」を選択してください。
   - 「Easy Configuration」では、RAID1のスパンの作成、ロジカルドライブ容量の設定ができません。「New Configuration」か「View／Add Configuration」で作成してください。

3. 確認のメッセージ (Proceed?) が表示されるので、「Yes」を選択します。

4. SCAN DEVICEが開始され(画面下にスキャンの情報が表示される)、終了すると、「New Configuration - ARRAY SELECTION MENU」画面が表示される。

チェック

オンボードRAIDコントローラにN8151-25B 内蔵MO装置を接続している場合、内蔵MO装置は「UNKWN」と表示されますが動作には問題ありません。

5. カーソルキーでパックしたいハードディスクドライブにカーソルを合わせ、<SPACE>キーを押す。

ハードディスクドライブが選択されます(選択ハードディスクドライブの表示がREADYからONLINになり、Axx-xxが点滅します)。

6. ハードディスクドライブの選択が完了したら、<Enter>キーで確定する(点滅が止まる)。

7. <F10>キーを押してロジカルドライブの作成を行う。

「Logical Drives Configure」画面が表示されます(下記図は、HDD3台、RAID5を例に示しています)。

```
                     Logical Drives Configured
 LD      RAID      Size      #Stripes      StrpSz      Srive-State
 1       5         xxxxMB    3             64KB        OPTIMAL

   Logical Drives Configured           Advanced
     RAID = 5                           StripeSize = 64KB
     Size = xxxxMB                      Write Policy = WRTHRU
     Advanced Menu                      Read Policy = NORMAL
     Accept                             Cache Policy = DirectIO
     Span = NO
```

8. カーソルキーで、「RAID」、「Size」、「Advanced Menu」を選択し、<Enter>キーで確定させ、各値を設定する。

「Advanced」を選択すると、「Advanced」画面が表示されます。

①「RAID」:RAIDレベルの設定を行います。

パラメータ	備　考
0	-
1	-
5	-

パックを組んだHDDの数によって選択可能なRAIDレベルが変わります。

②「Size」:ロジカルドライブのサイズを指定します。内蔵のディスクアレイコントローラで最大40個のロジカルドライブが作成できます。

③「Advanced Menu」

a)「StripeSize」:ストライプサイズの設定を行います。

パラメータ	備　考
2	-
4	-
8	-
16	-
32	-
64	**デフォルト表示、推奨設定値**
128	-

b)「Write Policy」：Write Policyの設定を行います。

パラメータ	備　考
WRTHRU	ライトスルー設定、デフォルト表示
WRBACK	**ライトバック設定、推奨設定値**

c)「Read Policy」：Read Policyの設定を行います。

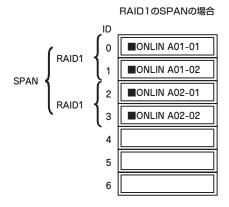
パラメータ	備　考
NORMAL	**先読みを行わない、デフォルト表示 推奨設定値**
READAHEAD	先読みを行う
ADAPTIVE	2回連続して継続したセクタに対してアクセスを行った場合先読みを行う

d)「Cache Policy」：Cache Policyの設定を行います。

パラメータ	備　考
Cached IO	読み込んだデータをメモリにバッファする
Direct IO	**デフォルト表示、推奨設定値**

e)「SPAN」：スパン設定を行います。

パラメータ	備　考
CANSPAN	SPAN=YES
NOSPAN	SPAN=NO

- パックを組んだハードディスクドライブの構成がスパン設定可能な場合デフォルトで「YES」が表示されます。
- スパン実行時は、パックを組む時に図の様に2組以上の同一パックを作成します。詳細な手順は、「SPANの設定方法」(257ページ)を参照してください。

9. すべての設定が完了したら、「Accept」を選択して、<Enter>キーを押す。

   ロジカルドライブが生成され、「Logical Drive Configured」画面にロジカルドライブが表示されます。

10. ロジカルドライブを生成したら、<ESC>キーを押して画面を抜け、「Save Configuration?」画面まで戻り、「Yes」を選択する。

   Configurationがセーブされる。

11. Configurationのセーブ完了メッセージが表示されたら、<ESC>キーでTOPメニュー画面まで戻る。

12. TOPメニュー画面より「Objects」→「Logical Drive」→「View／Update Parameters」を選択してロジカルドライブの情報を確認する。

「Write Policy」、「Read Policy」、「Cache Policy」の設定値は変更が可能です。

重要

ここで必ず、「√FlexRAID Virtual Sizing」が「DISABLED」に設定されている事を確認して下さい。「ENABLED」に設定しないでください。
バーチャルサイジング機能は、仮想的な大きいサイズのディスク容量をオペレーティングシステムに見せているため、使用方法を誤ると、オペレーティングシステムのインストールやディスク領域の確保ができません。

13. TOPメニュー画面より「Initialize」を選択する。

14. 「Logical Drives」の画面が表示され、イニシャライズを行うロジカルドライブにカーソルを合わせ、スペースキーを押す。

ロジカルドライブが選択される。また、<F2>キーを押すと、表示されている全ロジカルドライブが選択されます。

15. ロジカルドライブを選択したら、<F10>キーを押してイニシャライズを行う。

実行確認画面が表示されるので、「Yes」を選択するとイニシャライズが実行されます。
「Initialize Logical Drive Progress」画面のメータ表示が100%になったら、イニシャライズは完了です。

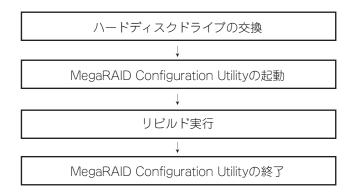
16. Initializeを実施済みのロジカルドライブに対して、整合性チェックを行う。

詳細な実行方法は「整合性チェック」(256ページ)をご参照ください。

17. <ESC>キーでTOPメニューまで戻って、MegaRAID Configuration Utilityを終了する。

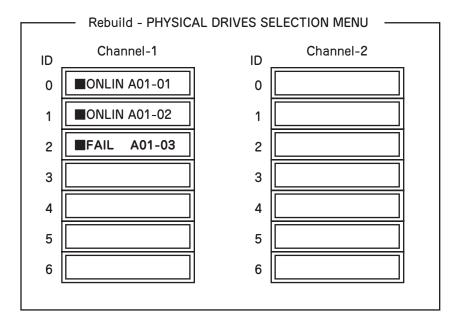
重要

- **コンフィグレーションの作成を行った時は、必ず、整合性チェックを実行してください。**
- **整合性チェックには修復モードと修復無しモードがあります(CC Restration)。デフォルトの設定は「Enable」(修復モード)です。**

マニュアルリビルド

1. ハードディスクドライブを交換し、本装置を起動する。

2. MegaRAID Configuration Utilityを起動する。

3. TOPメニューより、「Rebuild」を選択する。

   以下のような「Rebuild - PHYSICAL DRIVES SELECTION MENU」画面が表示される。

4. 「FAIL」になっているハードディスクドライブにカーソルを合わせ、<SPACE>キーで選択する。

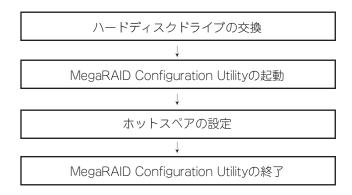
   複数のハードディスクドライブを選択可能(同時リビルド)です。
   ハードディスクドライブが選択されると、“FAIL”の表示が点滅します。

5. ハードディスクドライブの選択が完了したら、<F10>キーを押してリビルドを実行する。

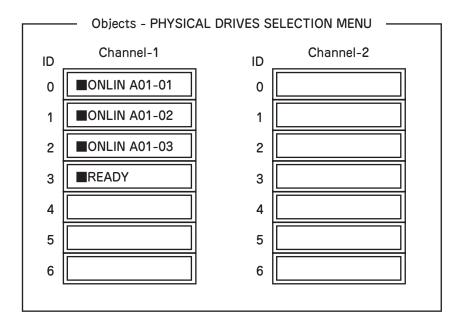
6. 確認の画面が表示されるので、「Yes」を選択する。

   リビルドがスタートします。
   「Rebuild Physical Drives in Progress」画面のメータ表示が100%になったらリビルド完了です。

7. <ESC>キーでTOPメニューまで戻って、MegaRAID Configuration Utilityを終了する。

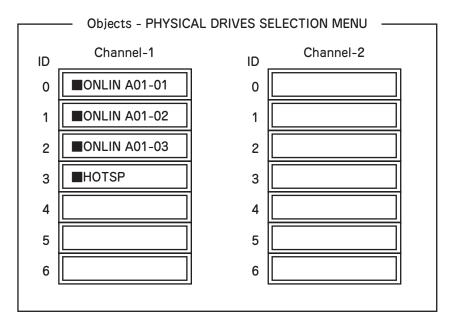
ホットスペアの設定

1. ホットスペア用のハードディスクドライブを実装し、本装置を起動する。

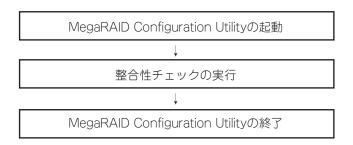
2. MegaRAID Configuration Utilityを起動する。

3. TOPメニューより、「Objects」→「Physical Drive」を選択する。
   以下のような「Objectsts - PHYSICAL DRIVE SELECTION MENU」画面が表示される。

4. ホットスペアに設定するハードディスクドライブにカーソルを合わせて、<ENTER>キーを押す。

5. 「Channel X,Target X」の画面が表示されるので、「Make HotSpare」を選択する。

6. 確認の画面が表示されるので、「Yes」を選択する。
   ハードディスクドライブの表示が、「HOTSP」に変更されます。

7. <ESC>キーでTOPメニューまで戻って、MegaRAID Configuration Utilityを終了する。

- ホットスペアの設定を取り消すには、「Objects」→「Physical Drive」→「Fail Drive」を選択します。
- ホットスペア用ハードディスクドライブが複数(同一容量)ある場合は、CH番号／ID番号が小さいHDDから順にリビルドが実施されます。

整合性チェック

1. MegaRAID Configuration Utilityを起動する。

2. TOPメニューより、「Check Consistency」を選択する。

3. 「Logical Drives」の画面が表示され、整合性チェックを行うロジカルドライブにカーソルを合わせ、スペースキーを押す。

   ロジカルドライブが選択されます。また、<F2>キーを押すと、表示されている全ロジカルドライブが選択されます。

4. ロジカルドライブを選択したら、<F10>キーを押して、整合性チェックを行う。

   確認画面が表示されるので、「Yes」を選択すると整合性チェックが実行されます。
   「Check Consistency Progress」画面のメータ表示が100%になったら、整合性チェックは完了です。

5. <ESC>キーでTOPメニューまで戻って、MegaRAID Configuration Utilityを終了する。

- **コンフィグレーションの作成を行った時は、必ず、整合性チェックを実行してください。**
- **整合性チェックには修復モードと修復無しモードがあります(CC Restration)。デフォルトの設定は「Enable」(修復モード)です。**

SPANの設定方法

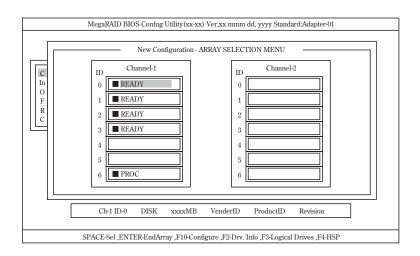
以下に、RAID1のスパン設定手順を説明します。

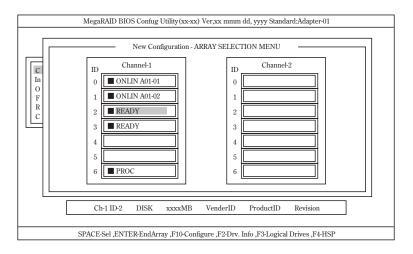
● RAID1のスパン

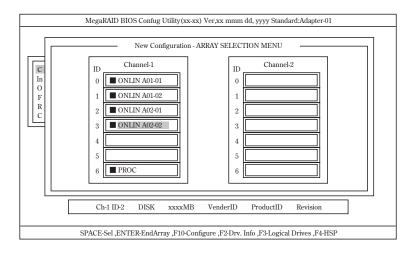
ハードディスクドライブ4台を接続した場合を例に手順を説明します。(RAID1の2スパン設定)

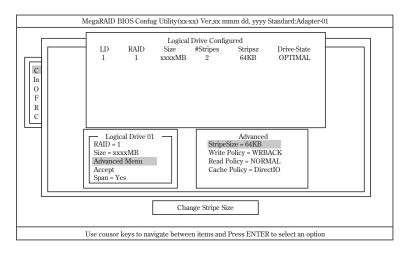
① Configuration実行画面を起動

TOP画面から、「Configure」→「New Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。Channel-1のメニュー画面で、ID=0の場所にカーソルが表示されます。

ハードウェア編

② ID=0/1の選択

<SPACE>キーを押すと、ID=0は「ONLIN　A01-01」に表示が変わり、「A01-01」は点滅表示になります。（カーソルは、ID＝1に自動的に移動）同様に、ID＝1でも<SPACE>キーを押します。（「A01-02」も点滅し、カーソルはID=2に移動）HDD2台(ID=0/1)を選択したら、<ENTER>キーを押し、確定します。（「A01-01/02」の点滅が停止します）

③ ID=2/3の選択

次に、②の状態で、ID=0/1と同様に<SPACE>キーを押してID=2/3を選択し、<ENTER>キーを押して確定します。（表示は「ONLIN A02-01/02」に変わります）

④ **ロジカルドライブ**の設定

③の状態でF10キーを押すと、以下の画面が表示されます。各項目に設定を行って下さい。さらに、「Advance Menu」を選択するとサブメニュー「Advanced」画面が表示されます。

設定内容は以下のようになっています。

設定項目		デフォルト（初期値）	設定内容
RAID		1	0,1
Size		全容量（ロジカルドライブ）	全容量
Advanced	StripeSize	64KB	2/4/8/16/32/64/128
	Write Policy	WRTHRU	WRTHRU WRBACK（推奨設定）
	Read Policy	NORMAL	NORMAL READHEAD ADAPTIVE
	Cache Policy	DirectIO	DirectIO CacheIO
Span		YES	CANSPAN(YES) NOSPAN(NO)

ヒント

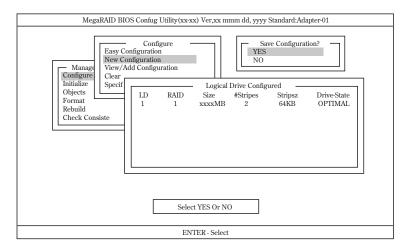
- 「Logical Drive XX」メニュー画面からサブメニュー「Advanced 」画面には、「Advaned Menu」を選択して<ENTER>キーを押すと移ります。また、「Logical Drive XX」メニュー画面に戻る場合は、<ESC>キーを押すと戻ります。戻った場合は、カーソルは「Accept」に移動します。
- RAID1のスパン作成時は、ロジカルドライブのサイズは、全容量に設定してください。ロジカルドライブのサイズを変更するとスパンが設定できません。

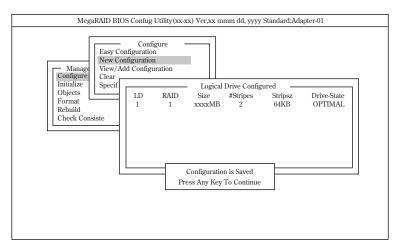
⑤ **設定の確認**

④の設定が終了したら、「Logical Drive X」画面の「Accept」を選択し、<ENTER>キーを押すと、設定内容は確定します。確定すると、「Logical Drive Configured」画面の該当ロジカルドライブは、「緑色」(未設定)から「水色」(設定済)に変わります。確定の識別は、文字の色で判断してください。

また、設定を再度設定したい場合は、<ESC>キーを押して、「Save Configuration?」画面で「No」を選択して、再度「New Configuration」から実施してください。

⑥ **設定の保存**

⑤の確定が終了したら、<ESC>キーまたは<ENTER>キーを押します。「Save Configuration?」画面が表示されますので、「YES」を選択して<ENTER>キーを押します。

保存が終了すると以下の画面のように保存が完了したメッセージのポップアップが表示されます。どれかキーを押して下さい。画面は「Configure」画面に戻りますので、これでRAID1のスパンのロジカルドライブの作成は終了です。

重要

ロジカルドライブ作成後は、必ず「Initialize」および「Check Consistency」を実施してください。

その他

- **Select Adapter**

オプションボードとしてディスクアレイコントローラを複数実装した場合に選択します。各コンフィグレーションはコントローラ単位で行われます。ディスクアレイコントローラのAdapterナンバは、実装するPCIスロットによって決定されます。

- **Clear Configuration**

コンフィグレーション情報のクリアを行います。TOPメニューより、「Configure」→「Clear Configuration」を選択。「Clear Configuration」を実行すると、ディスクアレイコントローラ、ハードディスクドライブのコンフィグレーション情報がクリアされます。「Clear Configuration」を実行すると、ディスクアレイコントローラの全チャネルのコンフィグレーション情報がクリアされます。

ロジカルドライブ単位の削除は、MegaRAID Configuration Utilityではできません。Power Console Plusを使用してください。

- **Battery**

－ バッテリ情報の表示

TOPメニューより、「Objects」→「Adapter」→「Battery Information」を選択

Backup Module	PRESENT	バッテリ接続
	ABSENT	バッテリ未接続
Battery Pack	PRESENT	バッテリ接続
	ABSENT	バッテリ未接続
Temperature	GOOD	温度正常
	HIGH	温度異常（高温）
Voltage	GOOD	電圧正常
	LOW	電圧低下
Fast Charging	COMPLETED	充電完了
	IN_PROGRESS	充電中
No of Cycle	***	充電回数

－ 充電回数のクリア

TOPメニューより、「Objects」→「Adapter」→「Reset Battery Charge Counter」を選択します。確認メッセージが表示されるので、「YES」を選択すると充電回数がクリアされます。

チェック

- バッテリ交換時は充電回数をクリアしてください。
- バッテリ交換時期は、2年および充電回数500回です。

- **Rebuild Rate**

Rebuild Rateを設定します。
TOPメニューより、「Objects」→「Adapter」→「Rebuild Rate」を選択。
0%～100%の範囲で設定可能。デフォルト値(設定推奨値)30%。

- **ハードディスクドライブ情報**

ハードディスクドライブの情報を確認できます。

TOPメニューより、「Objects」→「Physical Drive」→HDD選択→「View Drive Information」を選択

リモートマネージメント機能

本装置は、本装置内に標準で搭載されているシステム管理用LSI（BMC(Baseboard Management Controller)）を用いて電源、ファン、温度など内部のハードウェアの状態を監視したり、管理用ネットワークによるリモートからのキーボード、ビデオ、マウス(KVM)制御など、遠隔地から本装置を制御することが可能です。

ネットワーク デフォルト設定値

本装置背面の管理用LANコネクタからネットワークに接続する場合、デフォルト設定値を以下に記載します。

IP アドレス	: 192.168.1.1
ユーザ名	: administrator
パスワード	:（なし）
ホスト名	: ARMCＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸ

- DHCP機能を使用し、DNSサーバに自動登録を行う場合のホスト名が上記ホスト名になります。
  XXXXXXXXXXXXには、BIOSセットアップ画面に表示されるMACアドレスARMC MAC ADDRESS:xx-xx-xx-xx-xx-xxが入ります。
- DHCPサーバを使用せず接続いただく場合は、上記デフォルトのIPアドレス“192.168.1.1”が使用可能なローカルなネットワーク内で、このアドレスにアクセスしてください。

重要

セキュリティ上の理由から、お客さまのネットワーク環境に合わせたホスト名・パスワード・IPアドレスに設定し直してください。
設定方法に関しましては、このあとの「BMCに対する各種設定」を参照願います。

本装置側の設定

本機能を使用するにあたり、設定を行わなければならない内容について説明します。
WEBサーバ機能を使用するために「EXPRESSBUILDER」CD-ROMで設定を変更します。
「EXPRESSBUILDER」CD-ROM を起動し、「ツールメニュー」から「システムマネージメント機能」、「アドバンスドリモートマネージメントカードの設定」の順に選択します。
「アドバンスドリモートマネージメントカードの設定」メニューで「リモートマネージメントコンソール」を「有効」に設定し、「登録」 を選択します。

重要　**セキュリティの理由から出荷時にはBMCのWEBサーバ機能は使用できません。**

グラフィックスアクセラレータドライバの組み込み

- **本装置のOSがWindowsの場合**

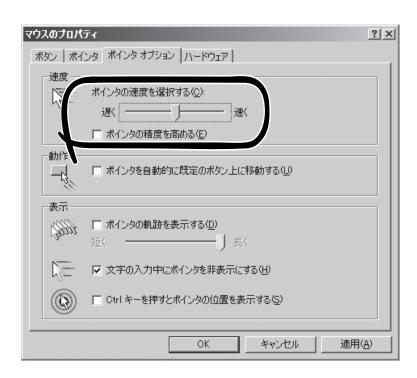
  シームレスインストールおよびシステムのアップデート時にインストールされるドライバをそのままご使用ください。

- **本装置のOSがLinuxの場合**

Linuxの場合、構成により自動でモニタ/Driver/ビデオメモリの設定が反映されない場合がありますので、テキストモードでの運用をお勧めします。

Linuxの対応については、『8番街』：http://nec8.com/の"Linux　on Express5800"から最新/詳細情報を入手してください。

マウスのプロパティの変更

本装置のOSがWindows Server 2003 の場合、下記に示す「マウスのプロパティ」の「ポインタオプション」にあります「速度」の設定で、「ポインタの精度を高める」のチェックボックスを外してください。
また、リモートKVMコンソールにて、マウスカーソルが画面右下まで動かせないときは、ここの「ポインタの速度を選択する」を調節してください。

管理PC側の設定

本装置と管理PCとの接続を行うにあたり、管理PC側で考慮しなければならない内容について説明します。

ブラウザの設定

以下の設定を行ってください。

- SSLを有効にしてください。

  TLS 1.0またはSSL 3.0を有効にし、SSL 2.0は無効にしてください。

動作対応ブラウザ

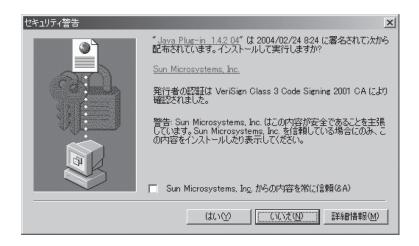
以下のブラウザについて、動作を確認しております。

- Microsoft Internet Explorer 6.0
- Netscape 7.0
- Mozilla 1.6

Java2 Runtime Environment

Java2 Runtime Environment, Standard Edition 1.4.2_04以降が必要です。以下の場所よりダウンロードできます。

http://java.sun.com/j2se/

未インストールでログインページにアクセスすると、以下のようなメッセージが表示される場合があります。内容を確認して、実行してください

リモートマネージメントの使い方

概要

BMCのWEBサーバ機能を使用し、WEBブラウザから本装置の電源制御やリモートKVMコンソールを利用できます。

本機能はJava Appletで実現しています。

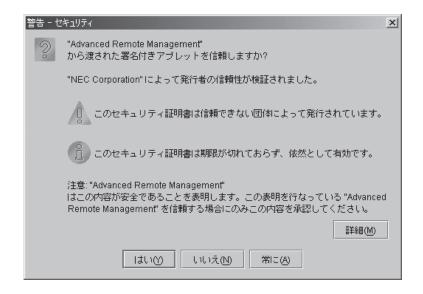
接続方法

管理PC上のWEBブラウザから下記のURLにアクセスしてください。

URL: http://BMC_HostPort/index.htm

- "BMC_HostPort"は、BMCのIPアドレスもしくはホスト名の後に、コロンとhttpのポート番号を加えたものです。
  httpのポート番号が80(デフォルト)の場合は、ポート番号は省略可能です。
- DHCP機能を使用し、かつ、DNSサーバに自動登録を行う場合、BMCのデフォルトのホスト名は、ARMCの文字にMACアドレスを追加した名前になります。

- DHCPを無効化してご利用いただく場合は、初めに、デフォルトのIPアドレス"192.168.1.1"が使用可能なローカルなネットワーク内で、このデフォルトのIPアドレスでアクセスしてください。
  次に、この後で説明する「BMCに対する各種設定」を参照して、IPアドレスなどをお客様のネットワーク環境に合わせて設定してください。
  IPアドレスなどの設定が終了しましたら、ご使用になられるネットワークに接続して、設定されたIPアドレスもしくはホスト名でアクセスしてください。

初めてご利用いただく際に、以下のような「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示される場合がございます。メッセージを良くお確かめの上、「はい」、もしくは「常に」をクリックしてください。ログインページが表示されます。内容に不審な点が見られる場合は、「いいえ」をクリックしてください。

SSLで接続を行った場合は、上記以外にSSLのためのサーバ証明書に関する「セキュリティの警告」ダイアログボックスがいくつか表示される場合があります。

ログイン・ログアウト

ログイン

ログインページが表示されましたら、ユーザー名／パスワードを入力し、「ログイン」をクリックしてください。

初めてログインする場合は、下記のデフォルトのユーザー名／パスワードを入力してログインしてください。

デフォルトのユーザー名：administrator

デフォルトパスワード　：なし（何も入力しない）

デフォルトではパスワードが設定されておりませんので、ログイン後、速やかにパスワードを設定してください。
セキュリティ上、デフォルトのユーザ名も合わせて変更することを推奨いたします。
設定・変更の方法に関しましては、このあとで説明する「BMCに対する各種設定」を参照してください。

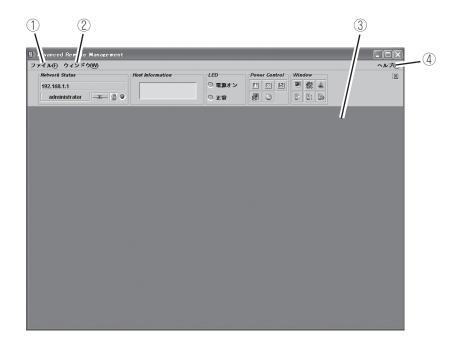
パスワード認証を通ると、下記のようなエンドユーザーライセンスアグリーメントが表示されます。

内容を良く確認してください。
内容に同意できる場合は、「同意します」をクリックしてください。本機能がご利用になれます。
内容に同意できない場合は、「同意しません」をクリックしてください。ログイン画面に戻ります。本機能をご利用になることはできません。

「同意します」をクリックすると、管理PC上に情報が保存されますので、次回以降、このメッセージは表示されなくなります。

ログアウト

左上のファイルメニューをクリックし、「終了」を選択することでログアウトできます。
ログアウトすると、メインウィンドウをクローズし、ブラウザ上のログインページに戻ります。

メインウィンドウ

① クリックするとファイルメニューが表示されます。

「終了」を選択すると、本アプレットを終了させることができます。

② クリックするとウィンドウメニューが表示されます。

ウィンドウメニューからリモートKVMコンソールウィンドウなど、各種ウィンドウを開くことができます。

③ メインフレームです。

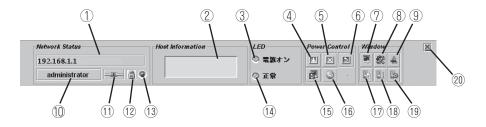
ここに、各種ウィンドウを表示します。

④ クリックするとヘルプメニューが表示されます。

「バージョン情報」をクリックすると、本アプレットのバージョン情報を確認することができます。

コントロールパネル

本装置の状態表示や電源制御を行うことができます。
また、リモートKVMコンソールなど、各種ウィンドウを起動します。

各部の機能

① BMCのホスト名あるいはIPアドレスが表示されます。

② 本装置の状態が表示されます。

③ 装置のパワーランプです。本装置の電源状態を示します。

④ 装置のPOWERスイッチです。（本装置のPOWERスイッチを押すのと同等です。）

⑤ 本装置を強制電源オフします。

⑥ 本装置を強制リセットします。

⑦ リモートKVMコンソールを起動します。

⑧ BMCコンフィグレーションを起動します。

⑨ ファームウェアアップデートを起動します。

⑩ ユーザ名が表示されます。

⑪ BMCとの接続状態が表示されます。

⑫ 通信のセキュリティ状態が表示されます。

⑬ ネットワークアクセスの状態を示します。

⑭ 装置のSTATUSランプです。本装置の状態を示します。

⑮ 本装置のメモリダンプを行います。（本装置のDUMPスイッチを押すのと同等です。）

⑯ 本装置のユニットIDランプを点滅させます。

⑰ システムイベントログ(SEL)を表示するウィンドウを開きます。

⑱ センサ装置情報(SDR)を表示するウィンドウを開きます。

⑲ 保守交換部品情報(FRU)を表示するウィンドウを開きます。

⑳ コントロールパネルを隠します。

リモートKVMコンソール

BMCのリモートKVMコンソール機能により、ローカルコンソールを、ネットワークを介して管理PCのブラウザに転送することができます。
管理PCから本装置に対して、ビデオ、キーボード、およびマウスを使用して完全にアクセスできるようになります。

リモートKVMコンソールは、以下の5種類の解像度をサポートしています。

1024 x 768
800 x 600
640 x 480
720 x 400
720 x 350

装置の解像度は、これらのいずれかに設定してください。
上記以外の解像度の場合、リモートKVMコンソールには表示されません。

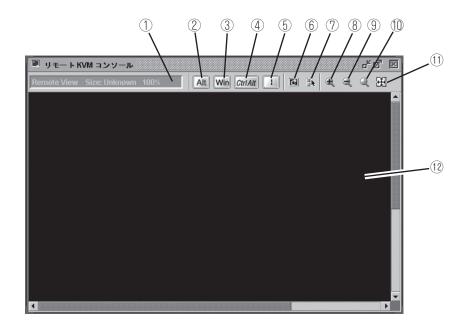
KVMとは、キーボード(Keyboard)、ビデオ(Video)、マウス(Mouse)の頭文字を採ったものです。
リモートKVMコンソールは、従来のシリアルコンソールをリモートで使用するものとは違い、グラフィックスをそのままリモートで使用できるものです。

リモートKVMコンソールは、プロキシを経由した接続ではご利用になれません。
リモートKVMコンソールを使用する場合は、プロキシを使用しない設定でログインしてください。

リモートKVMコンソールウィンドウの起動

コントロールパネル上のリモートKVMコンソールの起動アイコン[ ]をクリックすると、リモートKVMコンソールウィンドウが表示されます。

ローカルコンソールからBMCに対してログインした場合、リモートKVMコンソールは絶対に開かないでください。
キーボードやマウスの入力が不可能な状態になってしまいます。

リモートKVMコンソールウィンドウの各部の名称

① KVMインジケータです。解像度などの情報が表示されます。

②、③、④、⑤は特殊アイコンです。特殊キーを入力するときに使用します。

⑥ 画面リフレッシュアイコンです。画面をリフレッシュするときに使用します。

⑦ KVMプロパティアイコンです。

⑧ 拡大アイコンです。表示を拡大したいときに使用します。

⑨ 縮小アイコンです。表示を縮小したいときに使用します。

⑩ 等倍アイコンです。表示を等倍に戻したいときに使用します。

⑪ ウィンドウリサイズアイコンです。ウィンドウサイズを画面サイズに合わせます。

⑫ リモートKVMコンソール画面です。装置の画面が表示されます。

リモートKVMコンソールウィンドウからShift+CapsLockを押して操作する場合、管理PC側のCapsLock LEDの状態と異なることがあります。また、リモートKVMコンソールウィンドウを使用後に管理PC側のCapsLockの状態が変わることがあります。

ハードウェア編

特殊キーの入力

特殊キーについては以下の 4 種類の特殊キーアイコンをクリックすることで、ホストサーバに対して入力することができます。

Alt（開放状態）、Alt（押下状態）：クリックする毎に変化します。

CtrlAlt（開放状態）、CtrlAlt（押下状態）：クリックする毎に変化します。

重要

例えば、"Ctrl+Alt+Del"を入力する場合は、[Ctrl+Atl]アイコンをクリックし、キーボードのDelキーを押すと、本装置へ"Ctrl+Alt+Del"が送信されます。入力後、[Ctrl+Atl]アイコンを再度クリックして、特殊キー入力を解除してください。また、[Ctrl+Alt]アイコンをクリック状態の場合、本装置側のキーボードのDelキーを押した場合も本装置へ"Ctrl+Alt+Del"が送信されます。

Win（Windowsキーアイコン）

|（"｜"：パイプキーアイコン）

画面の拡大・縮小

拡大アイコン[ ]をクリックすると、表示内容が大きくなります。

縮小アイコン[ ]をクリックすると、表示内容が小さくなります。

等倍アイコン[ ]をクリックすると、装置と同じ大きさの表示となります。

ウィンドウリサイズアイコン[ ]をクリックすると、リモートKVMコンソールウィンドウのサイズをリモート画面サイズに合わせます。

画面のリフレッシュ

画面リフレッシュアイコン[ ]をクリックすると、リモートKVMコンソール画面のリフレッシュを行います。画面表示が乱れた場合は、リフレッシュを行ってください。

プロパティ変更

KVMプロパティアイコン[ ]をクリックすると、KVMプロパティ画面が表示されます。ここで、自動的に行われる画面リフレッシュの間隔を指定できます。

重要

この間隔を短くすることで、画面上に残るゴミを少なくすることができます。ただし、画面のリフレッシュには負荷がかかりますので、あまり短くすると、端末の応答速度が悪くなったり、ネットワーク上のトラフィックに影響を与えたりすることがあります。

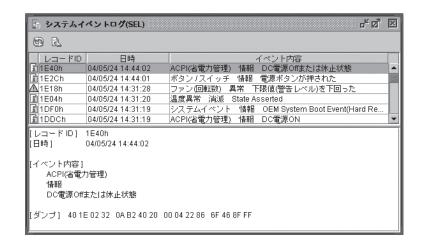
IPMI情報

システムイベントログ(SEL)、センサ装置情報(SDR)、保守交換部品情報(FRU)をそれぞれ表示することができます。これらをIPMI情報と呼びます。これらの情報から、本装置上で起こった障害や各種イベントの発生を調査し、保守交換部品を特定することができます。

システムイベントログ(SEL)の表示

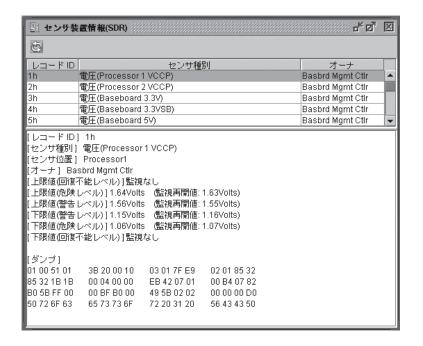
コントロールパネル上のシステムイベントログ(SEL)の起動アイコン[ ]をクリックすると、BMCからSEL情報を読み込み、以下のようなシステムイベントログ(SEL)ウィンドウを開いてSELを表示します。

上段に一覧が表示され、下段に一覧表示で選択されたエントリの詳細情報が表示されます。

再読み込みアイコン[ ]をクリックすることで、BMCから再度SEL情報を読み込み、最新情報を表示することができます。

SEL情報のクリア

SELクリアアイコン[ ]をクリックすることで、BMC上のSEL情報をクリアすることができます。確認メッセージが表示されますので、良ければ[はい]をクリックしてください。ここで、「いいえ」をクリックすれば、SELクリアは行われません。

センサ装置情報(SDR)の表示

コントロールパネル上のセンサ装置情報(SDR)の起動アイコン[ ]をクリックすると、BMCからSDR情報を読み込み、以下のようなセンサ装置情報(SDR)ウィンドウを開いてSDRを表示します。

上段に一覧が表示され、下段に一覧表示で選択されたエントリの詳細情報が表示されます。

SDR情報とは、装置の各種センサについての定義情報です。
この情報に従って、BMCは装置のセンサ監視を行います。

保守交換部品情報(FRU)の表示

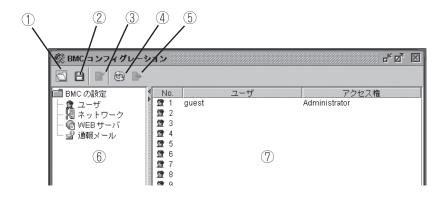
コントロールパネル上の保守交換部品情報(FRU)の起動アイコン[ ]をクリックすると、BMCからFRU情報を読み込み、下記のような保守交換部品情報(FRU)ウィンドウを開いて表示します。

上段に一覧が表示され、下段に一覧表示で選択されたエントリの詳細情報が表示されます。

BMCに対する各種設定

BMCに対する各種設定を行うことができます。

BMCコンフィグレーションウィンドウの起動

コントロールパネル上のBMCコンフィグレーションの起動アイコン[ ]をクリックすると、以下のようなBMCコンフィグレーションウィンドウが表示されます。

① BMCコンフィグレーションファイルを読み込みます。

② BMCコンフィグレーションをファイルに保存します。

③ BMCコンフィグレーションの編集が行えます。

④ BMCコンフィグレーションを再度読み込みます。

⑤ ファイルから読み込んだ情報をBMCへ一括して設定します。

⑥ 設定項目を選択するツリーです。

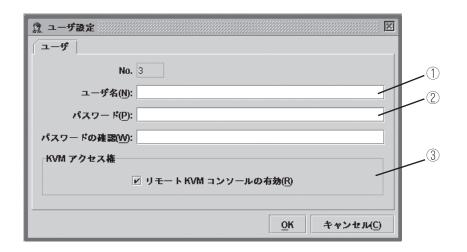
⑦ 現在の設定値の概要が表示されます。

ファイルからコンフィグレーションを読み込んだ場合は、BMCへの一括設定 を使用してください。

ユーザ設定

ユーザアカウントの設定を行います。

BMCコンフィグレーションウィンドウの左欄で「ユーザ」をクリックすると、右欄に全20アカウント分の一覧が表示されます。

修正もしくは追加したいアカウントを選択し、編集アイコン[ ]をクリックすると、下記のようなユーザアカウント編集ウィンドウが表示されます。

① ユーザ名を入力してください。

② パスワードを入力してください。

③ リモートKVMコンソール…… 有効(許可)/無効(不許可)が指定できます。チェックボックスをチェックすることにより有効(許可)になります。

上記の「レベル」に関わりなく、リモートKVMコンソールの使用許可/不許可が設定できます。

「OK」をクリックすると、編集画面の内容が全てBMCに書き込まれます。
「キャンセル」をクリックすると、編集内容を破棄して、編集画面を閉じます。

ネットワークの設定

BMCに対して、IPアドレスなどのネットワーク関連の設定を行います。

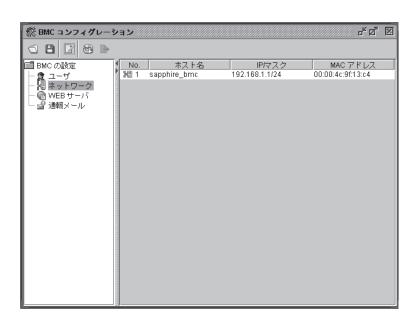
重要

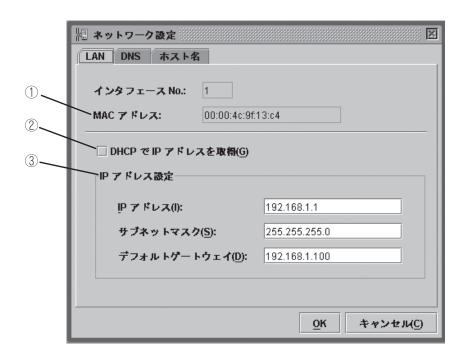
- **「デフォルトゲートウェイ」を設定する場合は、ゲートウェイ、本装置、管理用PCがネットワークで通信できる状態で実施する必要があります。**
- **通信できない環境で設定した場合には、設定後　ゲートウェイ、本装置、管理用PCがネットワークで通信可能な状態で本装置のACを一度OFF/ONする必要があります。**

リモートマネージメント機能では、以下のポートを使用します。
ファイヤーウォールを設置されているネットワーク環境では、ファイヤーウォールでの対応が必要となります。

モジュール名	ポート番号	Protocol	方向	モジュール名	ポート番号
リモートKVMクライアント	不定	UDP	←→	BMC	623
メールサーバ	25*1	TCP	←→	BMC	不定
WEBクライアント	不定	TCP	←→	BMC	80*2
WEBクライアント(SSL)	不定	TCP	←→	BMC	443*3

*1　[BMCコンフィグレーション]→[通報メール設定]→[SMTP]→[SMTPポート番号]で変更可能
*2　[BMCコンフィグレーション]→[WEBサーバ設定]→[WEBサーバ]→[HTTPポート番号]で変更可能
*3　[BMCコンフィグレーション]→[WEBサーバ設定]→[WEBサーバ]→[SSLポート番号]で変更可能

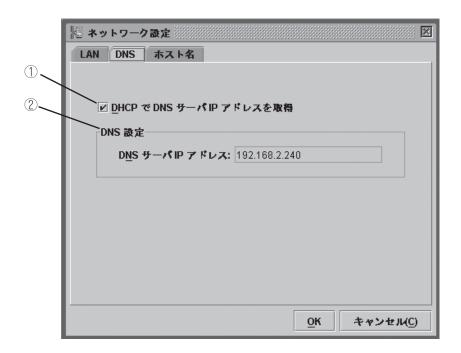
BMCコンフィグレーションウィンドウの左欄で「ネットワーク」をクリックすると、以下のように、右欄がネットワーク設定の概要に切り替わります。

編集アイコン[ ]をクリックすると、次に示す様な編集ウィンドウが表示されます。
ネットワーク関連の編集ウィンドウは 3 つのタブで構成されています。

– LAN

① BMCの持つMACアドレスが表示されます。

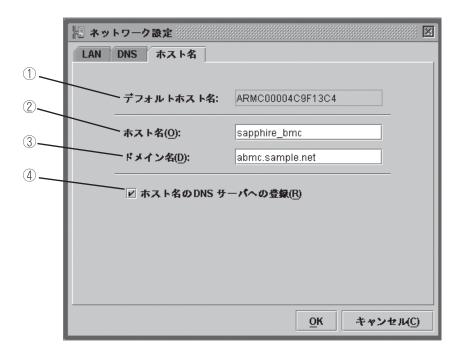
② DHCPによるIPアドレスの自動取得を行うか否かを選択します。

③ DHCPによる自動取得を行わない場合には、ここで設定を行います。DHCPで自動取得する場合は、ここに自動取得された内容が表示されます。

- **IPアドレスを変更する場合、「OK」をクリックしてBMCへの設定が完了した時点で、現在の接続は切断されます。**
  一度ウィンドウを閉じて終了し、再度、新しく設定したIPアドレス(あるいはホスト名)をブラウザに入力してログインしなおしてください。
- **ブラウザに表示が残っているログインページは、旧アドレスでアクセスした際のものですので、それでログインすることはできません。**

－ DNS

① DHCPによるDNSサーバのIPアドレス自動取得を行うか否かを選択します。

② DHCPによる自動取得を行わない場合には、ここで設定を行います。DHCPで自動取得する場合は、ここに自動取得された内容が表示されます。

－ ホスト名

① DHCPを使用する際に、ホスト名が未設定な場合に使用されるデフォルトのホスト名です。

② BMCのホスト名を設定します。この欄が未設定な場合は、①のデフォルトホスト名が使用されます。

③ BMCが所属するネットワークのドメイン名を設定します。

④ DNSサーバへのホスト名の登録を行うか否かを選択します。

BMCのホスト名は、装置のOS上のホスト名(Windowsの場合はコンピュータ名)を容易に類推できるように設定することを推奨します。
例えば、OS上のホスト名が“sapphire”ならば、BMCのホスト名は“sapphire_bmc”などと設定します。

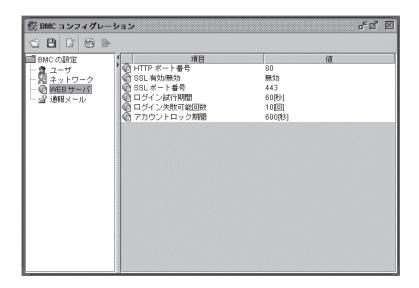
BMCは、装置のOSとは独立したLANコントローラを使用しますので、BMCのホスト名およびドメイン名を装置のOSのものと全く同じにすることは出来ません。所属するネットワークドメインが異なるのであれば、ホスト名を同じにすることは可能です。

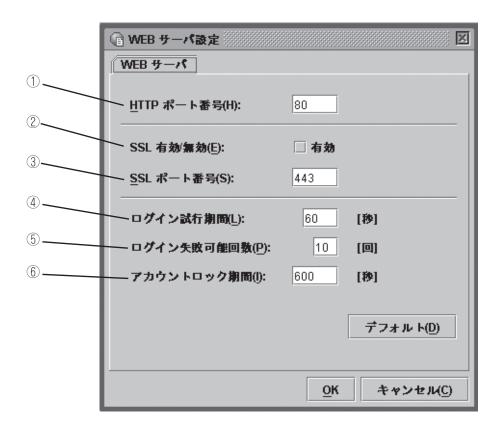
[OK]をクリックすると、3つのタブで構成された編集画面の内容が、全てBMCに書き込まれます。
[キャンセル]をクリックすると、編集内容を破棄して、編集画面を閉じます。

WEBサーバの設定

BMCに対して、HTTPポートなどWEBサーバ関連の設定を行います。

BMCコンフィグレーションウィンドウの左欄で「WEBサーバ」をクリックすると、以下のように、右欄がWEBサーバ設定の概要に切り替わります。

重要

- HTTPポート番号、SSLの有効／無効、SSLポート番号を変更すると現在の接続は一時的に切断されます。
  一度ウィンドウを閉じて終了し、再度、新しく設定したポート番号をブラウザに入力してログインしなおしてください。
- ブラウザに表示が残っているログインページは、古いWEBサーバの設定でアクセスした際のものですので、それでログインすることはできません。

編集アイコン[ ]をクリックすると、次に示す様な編集ウィンドウが表示されます。

① HTTPのポート番号を指定します。

② SSL通信の有効/無効を指定します。有効のチェックボックスをチェックすると、HTTPS(SSL有効)での接続となります。チェックを外すことでSSLの無効の設定になります。

> ヒント
>
> SSLが使用できないなどの特別な理由が無い限り、暗号化されたHTTPSプロトコルでの接続を推奨します。なお、デフォルトの設定では無効になっております。

③ SSLポート番号を指定します。

④ ログイン試行期間は、ログインに失敗したとき、再度ログインを試みることができる期間を指定します。

⑤ ログイン失敗可能回数は、③で指定した期間内に、ここで設定した回数を超えてログインに失敗した場合、以下⑤で指定する期間、ログインを拒否します。

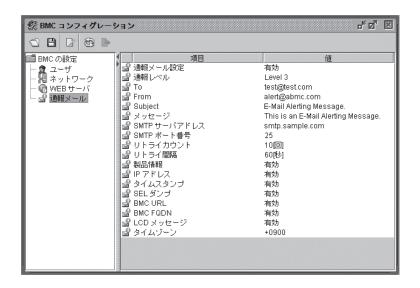
⑥ アカウントロック期間は、ログインを拒否する時間を指定します。

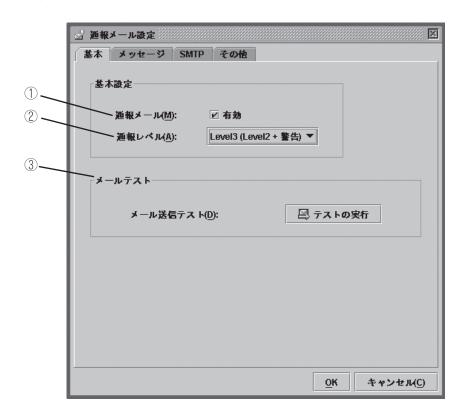
> ヒント
>
> 上記の3項目は、自動で行われる不正ログインに対して、防御の効果が期待できます。ただし、完全に防げるわけではありません。

[デフォルト]をクリックすると、ＨＴＴＰポート番号と ＳＳＬポート番号、およびログイン試行期間、ログイン失敗可能回数、アカウントロック期間の欄にデフォルト値が表示されます。ただし、ＳＳＬ有効/無効のチェック欄は変わりません。
[OK]をクリックすると、編集画面の内容が全てBMCに書き込まれます。
[キャンセル]をクリックすると、編集内容を破棄して、編集画面を閉じます。

通報メールの設定

BMCに対して、通報メール関連の設定を行います。

BMCコンフィグレーションウィンドウの左欄で「通報メール」をクリックすると、以下のように、右欄が通報メール設定の概要に切り替わります。

編集アイコン[ ]をクリックすると、次ページに示す様な編集ウィンドウが表示されます。編集ウィンドウは 4 つのタブで分割されています。

– 基本

① 通報メール機能の有効/無効をチェックボックスにて指定します。チェックを入れると、メール関連の設定が可能になります。

② 通報レベルを指定します。6段階のレベルで選択可能です。

通報レベルは、その要因となるイベントの重要度によって分けられています。

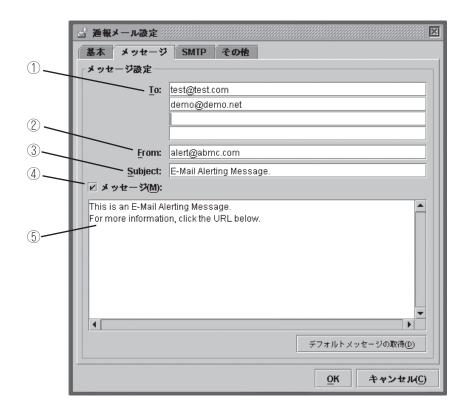
③ テストメールの発信が行えます。

重要

メール送信テストは、次ページ以降に記載する「通報メール設定」をすべて終了させた後に行ってください。
なお、編集画面に入力しただけでは、設定は完了になりません。必要事項を入力後、「OK」をクリックしてBMCへの設定を完了してください。

要因となるイベントの重要度によって、通報メールのメールヘッダのX-Priority:フィールドが変化します。

回復不能・異常　X-Priority: 1
警告　X-Priority: 3
回復・情報・監視　X-Priority: 5

– メッセージ

① 通報メールの宛先メールアドレスを指定します。4つまで指定できます。

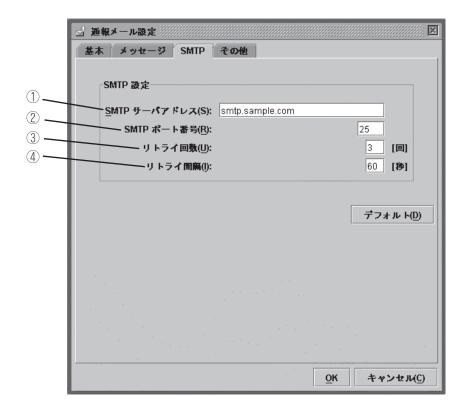
② 通報メールの発信メールアドレスを指定します。

③ 通報メールに付けるサブジェクトを記入します。

④ 下の⑤で指定する通報メールに付ける本文の共通部分の有効/無効を指定します。

⑤ 通報メールに付ける本文の共通部分を記入します。不要な場合は、④のチェックを外してください。「デフォルトメッセージの取得」をクリックすると、推奨メッセージが表示されます。

ここで設定したサブジェクトとメッセージが、すべての通報メールに対して付けられます。
なお、サブジェクトとメッセージについては、日本語での入力も可能ですが、メールアドレスについては、日本語での入力はできません。

－ SMTP

① SMTPサーバのアドレスを指定します。IPアドレスまたはホスト名での指定が可能です。

② SMTPサーバのポート番号を指定します。

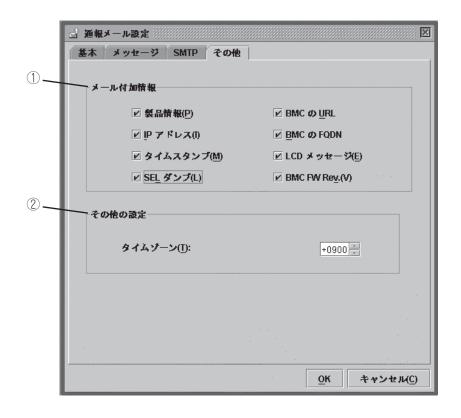
③ メール送信失敗時に何回リトライさせるかを指定します。

④ メール送信失敗時のリトライを行う際に、何秒持たせるのかを指定します。

「デフォルト」をクリックすると、SMTPポート番号とリトライ回数、リトライ間隔の欄にデフォルト値が表示されます。特に理由が無い限りデフォルト値での設定を推奨します。

重要

本製品はSMTP認証(SMTP-AUTH)には対応しておりません。

− その他

① 通報メールの本文に付加する情報を指定します。

ここで指定した情報が、メッセージタブのメッセージ欄で指定したメッセージと合わせて、通報メールの本文となります。

製品情報 .... 装置の製品名、型名、号機番号

IPアドレス .... BMCのIPアドレス

タイムスタンプ .... イベントが発生した時刻

SELダンプ .... システムイベントログ(SEL)を16進数で表したデータ

BMCのURL .... ARMCのログインページへのURL

BMCのFQDN .... BMCのフルドメイン名

LCDメッセージ .... イベント発生時のサーバのLCDメッセージ

BMC FW Rev. .... BMCファームウェア/SDR/PIAのレビジョン情報

② 通報メールのメールヘッダに付くDateフィールドに使用されます。

ファームウェアアップデート

アプレットおよび、KVMファームウェア、BMCファームウェア、センサ装置情報(SDR)、プラットフォーム情報(PIA)のアップデートを行うことができます。

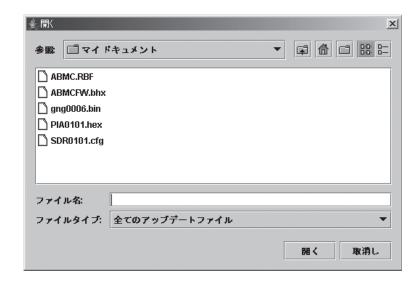
ファームウェアアップデートウィンドウの起動

コントロールパネル上のファームウェアアップデートの起動アイコン[ ]をクリックすると、BMCからそれぞれのレビジョン情報を読み込み、以下のようなファームウェアアップデートウィンドウを表示します。

「キャンセル」をクリックすると何もせずに終了し、ファームウェアアップデートウィンドウを閉じます。

次ページ以降で、アップデートの手順について順を追って説明します。

アップデートデータファイルの読み込み

アップデートファイルの追加[ ]をクリックすると、以下のようなファイル選択画面が表示されます。

アップデートデータのファイルを指定してください。
ファイル指定後、「開く」をクリックすると、ファイルの読み込みを開始します。
読み込みが完了するまで、しばらくお待ちください。

アップデートはまとめて実行可能です。
複数のアップデート対象がある場合は、各対象のアップデート情報を全て読み込んでください。読み込みファイルを複数同時に選択することも可能です。

レビジョンの確認

データファイルの読み込みが完了すると、画面に現在のレビジョンと読み込んだデータのレビジョンおよびファイルの情報(ファイル名とタイムスタンプ)が表示されます。

間違いないかご確認ください。

ダウングレードも可能となっておりますので、それぞれのレビジョンについて良く確認してください。
なお、アップデートデータのクリア[ ]をクリックすると、読み込んだデータを全て破棄します。また、「キャンセル」をクリックすると、読み込んだデータを全て破棄して、アップデートウィンドウを閉じます。

アップデート対象の選択

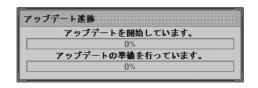
更新チェックボックスにて、アップデートする対象を選択してください。

ここで指定したものだけが書き込まれます。
ファイルを読み込ませただけで指定していない項目については、書き込みを行いません。

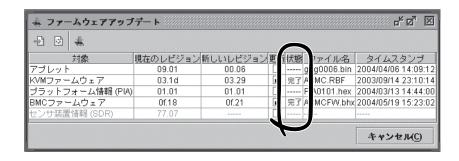
SDRとPIAの双方をアップデートする場合は、必ず、同時に書き込み指定を行ってください。書き込みを2回に分けると、最初に書き込んだ方は無効になります。

アップデートデータの書き込み

アップデートの書き込み[ ]をクリックすると、BMCへアップデートデータの書き込みを開始します。

それぞれのアップデート対象毎に以下のような書き込みの進捗を表すウィンドウが表示されます。

途中でエラーを検出するとエラーメッセージを表示して終了します。

完了

書き込みが終了すると、「状態」欄に、それぞれ「対象」毎の結果が表示されます。

- アプレット以外の対象について、実際にアップデートを適用するためには本装置の再起動、あるいはサーバの電源オフ/オンを行ってください。
- 本装置の再起動あるいは電源オンを行い、BMCファームウェア、SDR、PIAのアップデートを適用した場合、BMCとの接続が切断されますので、引き続き使用する場合は、再度ログインしてください。
- アプレットのアップデートを適用するには、一旦、ログアウトして、すべてのブラウザを閉じた後に、再度ログインしてください。
  本装置を再起動する必要はありません。

トラブルシューティング

エラーメッセージ

リモートマネージメントを使用している際に、何らかの異常が発生して管理PC上にエラーダイアログが表示される場合があります。メッセージとそれに対する対処方法を以下に示します。

致命的エラー

項番	エラーメッセージ	対処方法
1	致命的なエラー。JavaVMを終了します。	再度ログインしてください。 同様なメッセージが出力される場合は、サポート部門にお問い合わせください。
2	致命的なソフトウェアエラーが発生しました。	再度ログインしてください。 同様なメッセージが出力される場合はサポート部門にお問い合わせください。

ログイン時のエラー

項番	エラーメッセージ	対処方法
1	認証エラーです。	ユーザ名とパスワードを確認して、再度入力してください。

アクセス権のエラー

項番	エラーメッセージ	対処方法
1	許可されていない操作です。権利レベルが不足しています。	管理者(Administrator)レベルで行ってください。 管理者の方にご相談ください。

ネットワーク系のエラー

項番	エラーメッセージ	対処方法
1	HTTP通信に失敗しました。	ネットワーク環境を確認して、もう一度、実行してください。 何度行っても失敗する場合は、サポート部門にお問い合わせください。
2	IPアドレスが解決できませんでした。	ネットワーク環境を確認してください。 プロキシを経由した接続では、リモートKVMコンソールはご利用頂けません。
3	目的のホストに到達できません。	ネットワーク環境を確認してください。 プロキシを経由した接続では、リモートKVMコンソールはご利用頂けません。
4	ネットワークエラーが発生しました：	ネットワーク環境を確認して、もう一度、実行してください。 何度行っても失敗する場合は、サポート部門にお問い合わせください。
5	アプレットのダウンロードに失敗しました。	ネットワーク環境を確認して、もう一度、実行してください。 何度行っても失敗する場合は、サポート部門にお問い合わせください。 また、SSLを有効にしている場合、複数のクライアントから同時に接続することはできません。他のクライアントを終了させてからもう一度実行してください。
6	RMCP+のセッションはクローズされています。	ネットワーク環境を確認してください。 ネットワークに問題が無い場合は、サポート部門にお問い合わせください。
7	RMCP+のセッション確立に失敗しました。	ネットワーク環境を確認してください。 ネットワークに問題が無い場合は、サポート部門にお問い合わせください。
8	RMCP+の送信に失敗しました。	ネットワーク環境を確認してください。 ネットワークに問題が無い場合は、サポート部門にお問い合わせください。
9	指定されたRMCP+プロトコルは利用できません。	ネットワーク環境を確認してください。 ネットワークに問題が無い場合は、サポート部門にお問い合わせください。
10	新しいRMCP+セッションを確立するためのBMCのリソースが不足しています。	他のクライアントからの接続が終了した後、再度実行してください。
11	RMCP+接続がタイムアウトしました。	ネットワーク環境やサーバ側を確認してください。 特に問題が見当たらない場合は、サポート部門にお問い合わせください。

BMC関連のエラー

項番	エラーメッセージ	対処方法
1	IPMIリクエストがアボートされました。	ネットワークが混雑していることが原因の可能性があります。もう一度、実行してください。何度行っても取得に失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。
2	BMCから不正なレスポンスを受信しました。	サーバ側を確認してください。BMCが故障している可能性があります。 特に問題が見つからない場合は、サポート部門にお問い合わせください。
3	BMCはIPMI 2.0の機能をサポートしていません。	サポート部門にお問い合わせください。
4	IPMIコマンドの実行に失敗しました。	サーバ側を確認してください。BMCが故障している可能性があります。 特に問題が見つからない場合は、サポート部門にお問い合わせください。
5	IPMIメッセージの送信に失敗しました。	ネットワーク環境を確認してください。 ネットワークに問題が無い場合は、サポート部門にお問い合わせください。
6	不正なIPMIコマンドが要求されました。	サポート部門にお問い合わせください。
7	指定された対象が存在しません。	サーバ側を確認してください。 特に問題が見つからない場合は、サポート部門にお問い合わせください。

リモートKVMコンソールでのエラー

項番	エラーメッセージ	対処方法
1	リモートKVMコンソールの無効化に失敗しました。	ネットワーク環境を確認して、もう一度、実行してください。 何度行っても失敗する場合は、サポート部門にお問い合わせください。
2	リモートKVMコンソールの有効化に失敗しました。	ネットワーク環境を確認して、もう一度、実行してください。 何度行っても失敗する場合は、サポート部門にお問い合わせください。
3	KVMパケットの送信に失敗しました。	ネットワーク環境やサーバ側を確認してください。 特に問題が見当たらない場合は、サポート部門にお問い合わせください。
4	KVMリクエストがアボートされました。	特に問題はありません。「OK」をクリックしてメッセージダイアログボックスを閉じてください。
5	UDPパケットの送信に失敗しました。	ネットワーク環境やサーバ側を確認してください。 特に問題が見当たらない場合は、サポート部門にお問い合わせください。
6	リモートKVMコンソールは無効に設定されているため、使用できません。	272ページを参照し、リモートKVMコンソールを有効(許可)にしてください。
7	リモートKVMコンソールは既に他のクライアントによって使用されています。	リモートKVMコンソールを既に使用中のクライアントが、終了した後に再度実行してください。
8	リモートKVMコンソールの終了に失敗しました。	3分以上経過してから、リモートKVMコンソールを使用してください。
9	BMCコンフィグレーションの設定に失敗しました。	ネットワーク環境を確認して、もう一度、実行してください。 何度行っても失敗する場合は、サポート部門にお問い合わせください。
10	UDP接続がクローズされました。	ネットワーク環境やサーバ側を確認してください。 特に問題が見当たらない場合は、サポート部門にお問い合わせください。

システムイベントログ(SEL)表示でのエラー

項番	エラーメッセージ	対処方法
1	BMCのSELクリアに失敗しました。	ネットワークが混雑していることが原因の可能性があります。もう一度、実行してください。何度行っても取得に失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。
2	SELの取得に失敗しました。	ネットワークが混雑していることが原因の可能性があります。もう一度、実行してください。何度行っても取得に失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。

センサ装置情報(SDR)表示でのエラー

項番	エラーメッセージ	対処方法
1	SDRの取得に失敗しました。	ネットワークが混雑していることが原因の可能性があります。もう一度、実行してください。何度行っても取得に失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。

保守交換部品情報(FRU)表示でのエラー

項番	エラーメッセージ	対処方法
1	FRUの取得に失敗しました。	ネットワークが混雑していることが原因の可能性があります。もう一度、実行してください。何度行っても取得に失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。

BMCコンフィグレーションでのエラー

項番	エラーメッセージ	対処方法
1	設定に失敗しました：	ネットワーク環境を確認して、もう一度、実行してください。 何度行っても失敗する場合は、サポート部門にお問い合わせください。
2	BMCコンフィグレーションの取得に失敗しました：	ネットワーク環境を確認して、もう一度、実行してください。 何度行っても失敗する場合は、サポート部門にお問い合わせください。
3	他のソフトウェアが使用中です。 しばらくしてから、もう一度、実行してください。	しばらくしてから、もう一度、実行してください。
4	不正なBMCコンフィグレーションファイルです。	BMCコンフィグレーションファイルが壊れている可能性があります。ファイルを確認してください。
5	必要なXMLタグが見つかりませんでした。	BMCコンフィグレーションファイルが壊れている可能性があります。ファイルを確認してください。
6	ファイルの保存に失敗しました。	BMCコンフィグレーションファイルが正しく保存できていません。保存先を変更して、もう一度、実行してください。
7	ユーザ名が長すぎます。	長さは32文字以下としてください。
8	ユーザ名に不正な文字が含まれています。	ユーザ名には英数字および 、「-」(マイナス記号)と、「_」(アンダースコア)以外は使用できません。
9	パスワードが長すぎます。	16文字以下としてください。
10	パスワードが不一致です。	パスワードを入力し直してください。
11	HTTPポート番号が不正です。	数字以外は使用できません。
12	SSLポート番号が不正です。	数字以外は使用できません。
13	HTTP と SSL のポート番号が同じです。	同じポート番号にはできません。異なる値を使用してください。
14	ログイン試行期間が不正です。	数字以外は使用できません。
15	ログイン失敗可能回数が不正です。	数字以外は使用できません。
16	アカウントロック期間が不正です。	数字以外は使用できません。
17	IPアドレスが不正です。	数字とピリオドで指定してください。
18	サブネットマスクが不正です。	数字とピリオドで指定してください。
19	デフォルトゲートウェイが不正です。	数字とピリオドで指定してください。
20	DNSサーバIPアドレスが不正です。	数字とピリオドで指定してください。
21	ホスト名が不正です。	ホスト名には英数字および、「-」(マイナス記号)と、「_」(アンダースコア)以外は使用できません。」また、長さは256文字以下としてください。
22	ドメイン名が不正です。	ドメイン名には英数字および、「-」(マイナス記号)と、「_」(アンダースコア)、「.」(ピリオド)以外は使用できません。」また、長さは256文字以下としてください。

<次ページへ続く>

項番	エラーメッセージ	対処方法
23	SMTPサーバアドレスが長すぎます。	長さは256文字以下としてください。
24	SMTPポート番号が不正です。	数字以外は使用できません。
25	リトライ回数が不正です。	数字以外は使用できません。
26	リトライ間隔が不正です。	数字以外は使用できません。
27	"To"が長すぎます。	長さは256文字以下としてください。
28	"From"が長すぎます。	長さは256文字以下としてください。
29	"Subject"が長すぎます。	長さは512文字以下としてください。ただし、日本語で入力する場合は、この半分より少ない文字数となります。
30	メッセージが長すぎます。	長さは4064文字以下としてください。ただし、日本語で入力する場合は、この半分より少ない文字数となります。
31	ファイルのオープンに失敗しました:	指定のファイルが存在しない可能性があります。ファイル名などに間違いがないか確認してください。
32	ファイルのクローズに失敗しました:	指定のファイルが壊れている可能性があります。
33	ディレクトリは開けません。	指定のファイルが存在しない可能性があります。ファイル名などに間違いがないか確認してください。
34	タイムアウトが発生しました。	もう一度、実行してください。 何度行ってもタイムアウトとなる場合は、サポート部門にお問い合わせください。

ファームウェアアップデートでのエラー

項番	エラーメッセージ	対処方法
1	BMCには次のアップデート未完了のイメージがあります:	サーバを再起動して、アップデートを完了させてください。
2	アップデートエリアの状態取得に失敗しました。	ネットワークが混雑していることが原因の可能性があります。もう一度、実行してください。何度行っても取得に失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。
3	アップデートデータが大き過ぎます:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
4	アップデートの準備に失敗しました。	ネットワークが混雑していることが原因の可能性があります。もう一度、実行してください。何度行っても失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。
5	ファイルサイズが不正です:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
6	レビジョン情報を発見できませんでした:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
7	ロールバックイメージの作成に失敗しました。	もう一度、実行してください。何度行っても失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。
8	消去に失敗しました。	もう一度、実行してください。何度行っても失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。
9	未サポートのフォーマットバージョンです:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
10	アップデートイメージファイルの読み込みに失敗しました。	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
11	アップデートに失敗しました。	もう一度、実行してください。何度行っても失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。
12	アップデートモードになることが出来ませんでした。	もう一度、実行してください。何度行っても失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。
13	アップデート対象を検出できませんでした:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
14	アドレスが不正です。	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。

<次ページへ続く>

項番	エラーメッセージ	対処方法
15	書き込みに失敗しました。	もう一度、実行してください。何度行っても失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。
16	サポートしていないトークンを検出しました:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
17	セグメント情報が不正です:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
18	データ長が不正です:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
19	ファイルのオープンに失敗しました:	指定のファイルが存在しない可能性があります。ファイル名などに間違いがないか確認してください。
20	ファイルのクローズに失敗しました:	指定のファイルが壊れている可能性があります。
21	ファイルのチェックサムが不正です:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
22	ファイルの解釈に失敗しました。	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
23	ファイルの解釈に失敗しました:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
24	ファイルの読み込みに失敗しました:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
25	ファイルを発見できませんでした:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
26	ベリファイに失敗しました。	もう一度、実行してください。何度行っても失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。
27	割り込みが発生したので，アップデートを中止します。	クライアント側を確認してください。お客様が使われている他のソフトウェアによる割り込みの可能性があります。
28	現在オンラインアップデートは使用中です。	他のツールで行われているオンラインアップデートが終了した後、必要に応じて再度実行してください。
29	現在のレビジョンの取得に失敗しました。	ネットワークが混雑していることが原因の可能性があります。もう一度、実行してください。何度行っても取得に失敗する場合は、BMCが故障している可能性がありますので、サポート部門にお問い合わせください。
30	行の取得に失敗しました:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。

<次ページへ続く>

項番	エラーメッセージ	対処方法
31	行の長さが不正です:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
32	予期しないEOFを検出しました:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
33	予期しないトークンを検出しました:	アップデートファイルが壊れている可能性があります。アップデートファイルを再度入手してください。
34	PIAがこのサーバに適合しません。	このサーバ用のプラットフォーム情報(PIA) ではありません。アップデートファイルを再度入手してください。

リセットとクリア

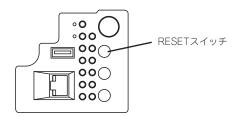
本装置が動作しなくなったときやBIOSで設定した内容を出荷時の設定に戻すときに参照してください。

リセット

リセットにはスイッチによるハードリセットとキーボードからのソフトリセットの2つがあります。

重要
リセットは、本装置のDIMM内のメモリや処理中のデータをすべてクリアしてしまいます。ハングアップしたとき以外でリセットを行うときは、本装置がなにも処理していないことを確認してください。

● ハードリセット

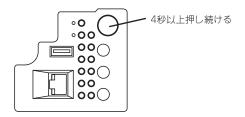
本装置前面にあるRESETスイッチを押します。

● ソフトリセット

OSが起動する前に本装置が動作しなくなったときは、<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら、<Delete>キーを押してください。本装置がリセットされます。

強制シャットダウン

OSから本装置をシャットダウンできなくなったときや、POWERスイッチを押しても電源をOFFにできなくなったとき、リセットが機能しないときなどに使用します。

本装置のPOWERスイッチを4秒ほど押し続けてください。電源が強制的にOFFになります。（電源を再びONにするときは、電源OFF（強制シャットダウン）から約10秒ほど待ってから電源をONにしてください。）

重要
リモートパワーオン機能を使用している場合は、一度、電源をONにし直して、OSを起動させ、正常な方法で電源をOFFにしてください。

CMOS・パスワードのクリア

本装置自身が持つセットアップユーティリティ「SETUP」では、本装置内部のデータを第三者から保護するために独自のパスワードを設定することができます。
万一、パスワードを忘れてしまったときなどは、ここで説明する方法でパスワードをクリアすることができます。
また、本装置のCMOSに保存されている内容をクリアする場合も同様の手順で行います。

重要 **CMOSの内容をクリアするとSETUPの設定内容がすべて出荷時の設定に戻ります。**

パスワード/CMOSのクリアはI/Oボード上のジャンパスイッチを操作して行います。それぞれの内容をクリアする方法を次に示します。

警告

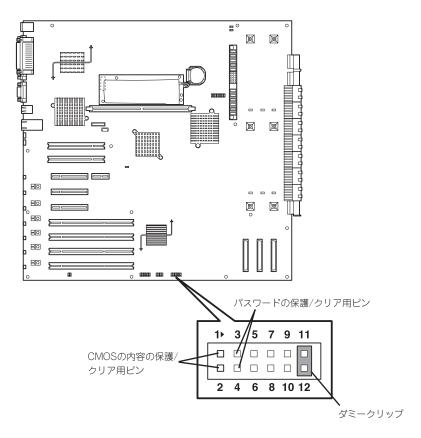
本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡するまたは重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **自分で分解・修理・改造はしない**

1. 現在のパラメータ値をメモする。
2. 139ページを参照して本装置の電源をOFFにして、電源コードをコンセントから抜く。
3. 180ページを参照して本装置をラックから引き出す。
4. 182ページを参照してリアアクセスカバーを取り外す。
5. クリアしたい機能のジャンパスイッチの設定を変更する。

   重要

   - **本装置のジャンパピン(ピン11-12)に付いているクリップを使用してください。**
   - **その他のジャンパの設定は変更しないでください。本装置の故障や誤動作の原因となります。**
   - **クリップをなくさないよう注意してください。**

   ジャンパスイッチは次ページ図の位置にあります。

- パスワードの保護/クリア用ピン

  2つのピンをショート: パスワードをクリアする
  2つのピンをオープン: パスワードを保護する(出荷時の設定)

- CMOSの内容の保護/クリア用ピン

  2つのピンをショート: CMOSの内容をクリアする
  2つのピンをオープン: CMOSの内容を保護する(出荷時の設定)

6. 本装置を元どおりに組み立ててPOWERスイッチを押す。

7. POST画面が表示されたら、本製品の電源をOFFにして電源コードをコンセントから抜く。

8. ジャンパスイッチの設定を元に戻す。

> ヒント
>
> クリップをなくさないためにも使用後はジャンパピン11-12に差し込んでおいてください。その他のジャンパピンに差し込むと誤動作をするおそれがあります。

9. 本製品を元どおりに組み立ててPOWERスイッチを押す。

10. BIOSのSETUPユーティリティを起動して、手順1で控えたパラメータ値に戻す。

    パスワードをクリアした場合は、必要に応じてパスワードを設定し直してください。

11. 変更した内容を保存してSETUPを終了する。

割り込みラインとI/Oポートアドレス

割り込みラインやI/Oポートアドレスは、出荷時に次のように割り当てられています。オプションを増設するときなどに参考にしてください。

● 割り込みライン

出荷時では、次のように割り当てられています。

IRQ	周辺装置(コントローラ)	IRQ	周辺装置(コントローラ)
0	システムタイマ	8	リアルタイムクロック
1	キーボード	9	PCI/SCI
2	カスケード接続	10	PCI
3	COMBシリアルポート(PCI)	11	BMCIRQ/PCI
4	COMAシリアルポート(PCI)	12	マウス
5	PCI/LPT2パラレルポート	13	数値演算プロセッサ
6	フロッピーディスク	14	プライマリIDE(CD-ROMドライブ)
7	LPT1パラレルポート	15	PCI

● PIRQとPCIデバイスの関係

本装置では、PCIデバイスの割り込みラインは次のように割り当てられています。割り込みの設定は、BIOSセットアップで変更できますが、出荷時の設定でお使いください。詳しくは227ページを参照してください。

	PIRQ1	PIRQ2	PIRQ3	PIRQ4	PIRQ5	PIRQ8
USB#1	○					
USB#2				○		
USB20						○
IDE(native mode)			○			
SMBus		○				
VGA					INTA	
RAID			INTA			
LAN			INTA	INTB		
PCIスロット#1(PCI)	INTB		INTA			INTC INTD
PCIスロット#2(PCI)		INTA		INTB		INTC INTD
PCIスロット#3 (PCI Express)	INTA	INTB	INTC	INTD		
PCIスロット#4 (PCI Express)	INTA	INTB	INTC	INTD		
PCIスロット#5 (PCI Express)	INTA	INTB	INTC	INTD		
PCIスロット#6(PCI-X)	INTB INTD		INTA INTC			
PCIスロット#7(PCI-X)		INTB INTD		INTA INTC		
PCIスロット#8(PCI-X)	INTA INTC		INTB INTD			
PCIスロット#9(PCI-X)		INTA INTC		INTB INTD		

● I/Oポートアドレス

本装置では、I/Oポートアドレスを次のように割り当てています。

アドレス	使用目的	使用チップ
00-08h	DMA コントロールレジスタ	ICH5
09-0Eh	RESERVED	ICH5
0Fh	DMA コントロールレジスタ	ICH5
10-18h	DMA コントロールレジスタ	ICH5
19-1Eh	RESERVED	ICH5
1Eh	DMA コントロールレジスタ	ICH5
20-21h	マスタ8259 プログラミングインタフェース	ICH5
24-25h	マスタ8259 プログラミングインタフェース	ICH5
29-29h	マスタ8259 プログラミングインタフェース	ICH5
2C-2Dh	マスタ8259 プログラミングインタフェース	ICH5
2E-2Fh	コンフィグレーションレジスタ	PC87417
30-31h	マスタ8259 プログラミングインタフェース	ICH5
34-35h	マスタ8259 プログラミングインタフェース	ICH5
38-39h	マスタ8259 プログラミングインタフェース	ICH5
3C-3Dh	マスタ8259 プログラミングインタフェース	ICH5
40-42h	8254 プログラミングインタフェース	ICH5
43h	RESERVED	ICH5
4E-4Fh	コンフィグレーションレジスタ	PC87417
50-52h	8254 プログラミングインタフェース	ICH5
53h	RESERVED	ICH5
60h	キーボード/マウス	PC87417
61h	NMIステータスレジスタ	ICH5
62h	ー	PC87417
63h	NMIステータスレジスタ	ICH5
64h	キーボード/マウス	PC87417
65h	NMIステータスレジスタ	ICH5
66h	ー	PC87417
67h	NMIステータスレジスタ	ICH5
70h	RESERVED	ICH5
71h	RTC (データ)	ICH5
72h	RTC (データ)	ICH5
73h	RTC (データ)	ICH5
74h	RTC (データ)	ICH5
75h	RTC (データ)	ICH5
76h	RTC (データ)	ICH5
77h	RTC (データ)	ICH5
80-91h	16ビット DMAコントロールレジスタ	ICH5
92h	ポート92レジスタ	ICH5
93-9Fh	DMAコントロールレジスタ	ICH5

＜次ページに続く＞

アドレス	使用目的	使用チップ
A0-A1h	スレーブ8259プログラミングインタフェース	ICH5
A4-A5h	スレーブ8259プログラミングインタフェース	ICH5
A8-A9h	スレーブ8259プログラミングインタフェース	ICH5
AC-ADh	スレーブ8259プログラミングインタフェース	ICH5
B0-B1h	スレーブ8259プログラミングインタフェース	ICH5
B2-B3h	パワーマネージメント	ICH5
B4-B5h	スレーブ8259プログラミングインタフェース	ICH5
B8-B9h	スレーブ8259プログラミングインタフェース	ICH5
BC-BDh	スレーブ8259プログラミングインタフェース	ICH5
C0-D1h	DMAコントローラ ページレジスタ	ICH5
C2-DDh	RESERVED	ICH5
DE-DFh	DMAコントローラ ページレジスタ	ICH5
F0h	リセットIRQ13	ICH5
102h	VGA	Radeon7000M
170h-177h	セカンダリIDEコマンドブロックレジスタ	ICH5
1F0h-1F7h	プライマリIDEコマンドブロックレジスタ	ICH5
278-27Fh	(パラレルポート3)	PC87417
2F8-2FFh	シリアルポート2	PC87417
376h	セカンダリIDEコントロールブロックレジスタ	ICH5
370-377h	(フロッピィディスク2), IDE 2	PC87417
378-37Fh	(パラレルポート2)	PC87417
3B0-3BBh	VGA	Radeon7000M
3BC-3BEh	パラレルポート1	PC87417
3C0-3CFh	VGA	Radeon7000M
3D4-3D5h	VGA	Radeon7000M
3F6h	プライマリIDEコントロールブロックレジスタ	ICH5
3F0-3F7h	フロッピィディスク1,IDE 1	PC87417
3F8-3FFh	シリアルポート1	PC87417
40Bh	DMA1拡張ライトモードレジスタ	ICH5
4D0h	マスタ8259 ELCRプログラミング	ICH5
4D1h	スレーブ8259 ELCRプログラミング	ICH5
CF9h	ターボアンドリセットコントロール	TwinCastle